構造標準仕様書－１

１．建築物の構造概要

用　　途　□戸建住宅　□共同住宅　■（その他）
工事種別　■新築　□増築
規　　模　地下　0 階　地上　2 階
構造種別　■木造軸組工法
防火指定　□防火地域　□準防火地域
　■法22条指定地域　□指定なし
積雪条件　■一般区域　□多雪区域
　垂直積雪量［30］cm
　積雪荷重　■20N/cm/㎡　□30N/cm/㎡
基準風速　［　34］m/s
　地表面粗度区分　□Ⅰ　□Ⅱ　■Ⅲ　□Ⅳ
性能評価　□有　■無
　耐震(倒壊)等級　□１　□２　□３
　耐震(損傷)等級　□１　□２　□３
　耐風等級　□１　□２
　耐積雪等級　□１　□２
用途係数　■1.0　□1.25　□1.5

２．使用構造材料

（１）コンクリート
JIS A 5308のレディーミクストコンクリートとする
設計基準強度　□18　■21　□24　□27
調合管理強度は設計基準強度(Fc)に
構造体強度補正値(S)を加えた値とする
※構造体強度補正値(S)は公共建築工事標準仕様書
（平成31年版)による
セメント　普通ポルトランドセメント
スランプ　18cm以下

（２）鉄筋
JIS G 3112とする
■SD295　■SD345（D19以上）

（３）木材

部位	寸法	材種	等級
土台	105ｘ105	ベイマツKD（注入材）	無等級
管柱 通柱	105ｘ105 120ｘ120	ホワイトウッド集成材(同一等級) レッドウッド集成材(同一等級)	E95-F315 E95-F315
梁	105x	レッドウッド集成材(対称異等級) ベイマツ集成材(対称異等級)	E105-F300 E135-F375
筋かい	45ｘ90	ホワイトウッドKD	無等級
母屋	105x	杉KD	無等級
小屋束	105ｘ105	杉KD	無等級

（４）その他

３．地盤

地盤調査方法　□目視及び周辺の資料調査
　□表面波探査
　□標準貫入試験
　□平板載荷試験
　■スクリューウェイト貫入試験
地盤種別　□１種　■２種　□３種

４．地業工事

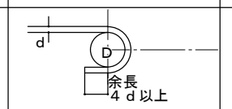
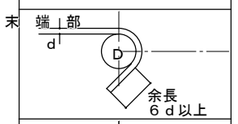
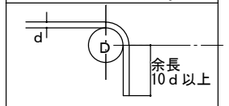
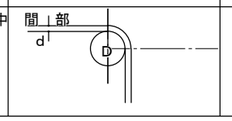
□地業(砕石・割栗石)
■表層改良　改良層厚　1.0M　□柱状改良
□直接基礎　□布基礎　■べた基礎
□杭基礎
設計地耐力［20］kN/㎡以上　（地盤調査報告書より）

柱状図
測点NO. 4

５．鉄筋コンクリート工事

（１）コンクリート工事
・コンクリートの練り混ぜから打ち込み終了までの時間の限度は、外気温が25℃未満で120分、25℃以上で90分とする
・ポンプ打ちコンクリートは、できるだけ打ち込み位置に近づけ、垂直に打つこと
・空隙が生じないよう十分な突き、たたきを行うこと

（２）配筋工事
ａ.鉄筋末端部及び中間部の折曲げ形状・寸法
鉄筋の種類：SD295,D16以下

	図　余長	鉄筋の折曲げ内法直径（D）
末端部		３ｄ以上
		
		
中間部		３ｄ以上

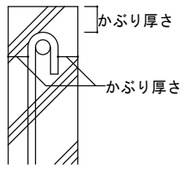
ｂ.鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（N/mm52)	定着長さ	重ね継手の長さ
SD295A	18	40d又は 30dフックつき	45d又は 35dフックつき
	21、24	35d又は 25dフックつき	40d又は 30dフックつき

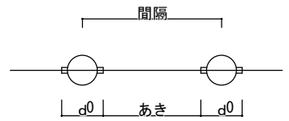
※地中梁の引張鉄筋の定着は40ｄとする。

ｃ.かぶり厚さ

部位		設計かぶり厚さ（mm）
土に接する部分	基礎立上り	50
	基礎底版	70

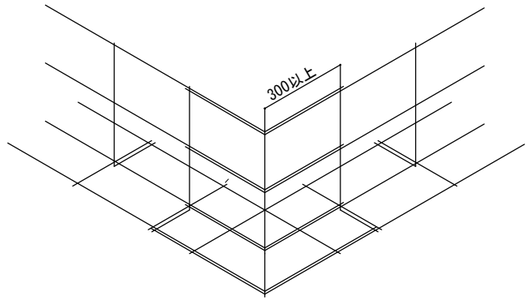


ｄ.鉄筋のあき・間隔の最小寸法
あき
・呼び名の数値の1.5倍
・粗骨材最大寸法の1.25倍
・25mm
　のうち大きいほうの数値

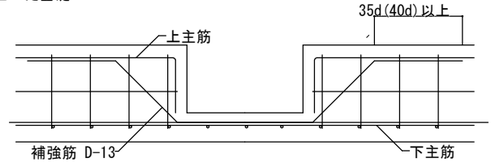


間隔
・呼び名の数値の1.5倍+最外径（ｄ$0）

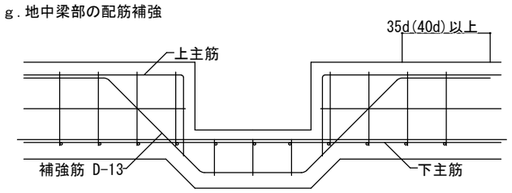
ｅ.基礎隅角部の配筋補強
隅角部では各横筋を折り曲げた上、直行する他方向の横筋に300mm以上重ね合わせる



ｆ.人通口部の配筋補強
■べた基礎



ｇ.地中梁部の配筋補強



（３）型枠工事
型枠の存置期間

平均気温	日数
5℃以上15℃未満	5
15℃以上	3

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第３区画）新築工事		
種　別	岐南3区画 標準仕様書１	図面番号	WH01/WH07
縮　尺	―	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ａｉ　設　計　室　有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

出力 25 12 9

木質工事特記仕様書

1．一般事項

（1）適用範囲
※本仕様書は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。
木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。

（2）設計図書
設計図書とは標準図、特記仕様書、設計図、指示書（現場説明書及び質疑回答書を含む）をいう。

（3）準拠する図書
設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。（※全て最新版による。）
「木造住宅工事仕様書」（住宅金融支援機構監修）
「公共建築木造工事標準仕様書 令和４年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）
「木造計画・設計基準 平成29年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）
「木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2017年版)」（日本住宅・木材技術センター）
「日本工業規格 JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」(2015年改訂版)
上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。

（4）設計図書の優先順位
設計図書の優先順位は下記による。
1. 指示書（現場説明書及び質疑回答書）　3. 特記仕様書
2. 設計図　4. 標準図

（5）疑義
疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。

（6）製作要領書及び施工計画書の作成・提出
工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。

（7）施工図及びプレカット図の提出
工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。

（8）製作工場の選定、承諾
設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を受ける。

（9）各種試験・検査報告書の提出
施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。

2．材料の品質

☑は適用項目を示すものとする。

2.1 木質材料

（1）構造用製材
本項の内容は特記無き限り、構造用製材を対象とし、製材の日本農林規格に準拠する。

☑【構造用製材】

部　位	樹種名	強度等級	乾燥処理	保存処理	含水率管理特記
土台	ベイマツ				20%以下
母屋・棟木	スギ				〃
筋かい	ホワイトウッド				〃
小屋束	スギ				〃

☐ 主要構造部には機械等級区分製材を用いることを原則とする。
背割りを行う部材の有無
☐有（背割りを行う場合は、見えがかり部・相欠き部材・構造用合板の釘接合面には行わない。）
☑無

☐ 強度等級を指定した材料は特に、材料の欠点の節、目切れ等に注意して材料を選定し、仕口や接合部に欠点が当たらないように注意する。

☑ 材の曲がりについては、上記にかかわらず目視等級１級相当とする。

（2）構造用集成材、構造用単板積層材(LVL)
本項の内容は特記無き限り、集成材及び単板積層材の日本農林規格に準拠する。

☑【構造用集成材・LVL】
ラミナの枚数や特殊な試験については必要に応じて特記する。

部　位	樹種名	品　名（LVLの場合は区分）	強度等級（LVLの場合は曲げ性能）	材面の品質	使用環境	ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
梁（記入例）	複数樹種の場合は最外層、中間層を明示し記載	同一等級、異等級、対称、非対称、断面の大、中、小を記載	E120-F330などと記載	１種、２種、３種より示す	A、B、C で指定	F☆☆☆☆等で指定
柱	ホワイトウッド	同一等級	E95-F315	２種	C	F☆☆☆☆
柱	レッドウッド	同一等級	E95-F315	２種	C	F☆☆☆☆
梁	レッドウッド	対称異等級	E105-F300	２種	C	F☆☆☆☆
梁	米松	対称異等級	E135-F375	２種	C	F☆☆☆☆

（3）構造用合板、構造用パネル(OSB)、パーティクルボード、MDF等
本項の内容は特記無き限り、合板及び構造用パネルの日本農林規格又はパーティクルボード及びMDF等の日本工業規格に準拠する。

☑【構造用合板・構造用パネル(OSB)、パーティクルボード、MDF等】
単板の樹種及び構成や防虫処理については必要に応じて特記する。

部　位	強度等級（OSBの場合は曲げ性能）	板面の品質（注1）	接着の程度（構造用合板の場合に記入）	寸　法	ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
耐力壁	２　級	C-D材	特類	9	F☆☆☆☆
2階床	２　級	C-D材	特類	24	F☆☆☆☆
屋根	２　級	C-D材	特類	12	F☆☆☆☆

注1.　構造用合板の板面の品質は、通常は１級がB-C、２級がC-D
OSBの場合は、表面及び裏面に木材の小片の浮き上がりがないこと及び側面の切断面が平滑であること。
注2.　特注品の場合は納期に注意すること(2ヶ月以上)

（4）丸太・そま角
☐【丸太・そま角】
本項の内容は特記無き限り、素材の日本農林規格などに準拠する。

部　位	樹種名	縦振動ヤング係数区分	等　級
（記入例）		Ef150など測定した縦振動ヤング係数で定められる区分で示す	材の品質を１等、２等、３等、４等で示す

2.2 接合具
接合具の材質は一般普及品を使用することを原則とし、特殊なものを使用したい場合は特記とする。
接合具に錆を生じる恐れのある場合は適切な防錆処理を施す。鋼材の表面処理は特記による。標準めっき処理は溶融亜鉛めっき鋼板：Z27(JIS G 3302)　電気亜鉛めっき：Ep-Fe/Zn8/CM2とする。

（1）くぎ、木ネジ

種　類	材　質			径(mm)	長さ(mm)	使用箇所	頭部／胴部形状
☑Ｎ釘	鉄	JIS G 3532	SWM-N		N50・N75	耐力壁、床板、屋根	皿頭網目付き/スムース
☑ＣＮ釘	鉄	JIS G 3532	SWM-N		CN50・CN65	耐力壁	平頭フラット
☐ＺＮ釘	鉄	JIS G 3532	SWM-N			補強金物	平頭フラット/バーブ
☐Ｓ釘	ステンレス	JIS G 4309	SUS304			耐力壁、床板、屋根	平頭フラット及び網目付き/ｽﾑｰｽ
☐ＧＮ釘	鉄	JIS G 3532	SWM-N			石膏ボード用	平頭フラット
☐	MNF(V)38-90(赤)					屋根	

（2）木質構造用ビス

製品名	径(mm)	長さ(mm)	使用箇所
☐タルキックⅡ(シネジック)	5.5，6		タルキの留め付け
☐YD-N65(カナイ)	6		
☐パネリードS(シネジック)	8		
☐			

（3）ボルト、ナット、座金
ボルト・ナットはJIS B 1180、JIS B 1181の規格及び付属書JAによる。

種　類	材　質			径(mm)	長さ(mm)	防錆処理、使用箇所など
☑呼び径六角ボルト ☐有効径六角ボルト	鉄	JIS G 3101 JIS G 3505 JIS G 3507-1	SS400 SWRM8～10 SWRCH8～10	M12 M16		☑ 電気亜鉛めっき ☐（　　）
☐全ネジボルト ☐	ステンレス	JIS G 4303	SUS304			生地
☑アンカーボルト ☐	鉄	JIS G 3101 JIS G 3138 JIS G 3505 JIS G 3507-1	SS400 SNR400B, 490B SWRM8～10 SWRCH8～10	M12 M16		☑ 電気亜鉛めっき ☐（　　）
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304			生地
☑角座金 ☑丸座金 ☐	鉄	JIS G 3131	SPHC SS400			☑ 電気亜鉛めっき ☐（　　）
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304			生地

・設計図及び標準図記載以外の座金は、特記なき限り用途ごと(引張、せん断)に下表により使い分ける。
尚、ボルトとの組み合わせにより耐力が決まっている羽子板ボルト等の座金は、その仕様に準ずる。
（単位：mm）

座金の大きさ ＼ ボルト径		8	10	12	16	20	24
引張を受けるボルト	厚さ	4.5	4.5	4.5	9	－	－
	角座金の一辺	40	40	40	80	－	－
	丸座金の直径	45	45	45	90	－	－
せん断を受けるボルト	厚さ	4.5	4.5	4.5	9	－	－
	角座金の一辺	40	40	40	80	－	－
	丸座金の直径	45	45	45	90	－	－

（4）ドリフトピン、ラグスクリュー、木栓

種　類	材　質			径(mm)	長さ(mm)	防錆処理、使用箇所など
☑ドリフトピン	鉄	JIS B 1180	強度区分4.6又は4Tに適合する炭素鋼	φ12		☑ 電気亜鉛めっき ☐（　　）
☐ラグスクリュー（コーチボルト）	鉄	JIS B 1180	強度区分4.6又は4Tに適合する炭素鋼			☐ 電気亜鉛めっき ☐（　　）
☐木栓	堅木（樹種：カシ　　）			45角		

・ドリフトピンの先端テーパー部の長さ：10mm以下
・木栓はナラ・ケヤキ・カシ等、気乾比重0.6以上の広葉樹で、節や目切れ等の欠点の無いものとし先端は、3～5mm程度面取りすること。

（5）接合金物、鋼材

種　類	品　名	短期許容接合耐力	メーカー等	防錆処理、使用箇所など
☑筋かい耐力壁の接合部	Ｚマーク同等品	設計図による	指定なし	☑溶融亜鉛めっき　☐電気亜鉛めっき
				☐溶融亜鉛めっき　☐電気亜鉛めっき
☑ 柱頭・柱脚接合部	Ｚマーク同等品	設計図による	指定なし	☑溶融亜鉛めっき　☐電気亜鉛めっき
				☐溶融亜鉛めっき　☐電気亜鉛めっき
				☐溶融亜鉛めっき　☐電気亜鉛めっき
				☐溶融亜鉛めっき　☐電気亜鉛めっき
☑ 横架材接合部		設計図による	指定なし	☐溶融亜鉛めっき　☑電気亜鉛めっき
				☐溶融亜鉛めっき　☐電気亜鉛めっき
		設計図による	Tec-One　P3	☑（タツミ　　）
☐ 鋼材	特記なき限りSS400級とする			☐（　　）
☐				☐（　　）

（6）接着剤（接着接合）
ここでいう接着接合とは、建設現場で用いるものを対象とする。

製品名	使用箇所	備　考
☐ 水性高分子ーイソシアネート		
☐		
☐		

3．耐久性（防腐・防蟻・耐候処理）

（1）木材の防腐・防蟻処理
木材の防腐・防蟻処理は以下のいずれかとする。
・高耐久材の使用（注：部材は心材あるいは心持ち材または集成材とする）
・工場処理材（注：現場の加工、切断、穿孔箇所などは、現場処理に準じる）
保存処理材（性能区分）　：　K5　K4　K3　K2　K1
AQ認証保存処理材：　１種　２種　３種
・現場処理：塗布、吹付、浸漬（特記無き場合は、処理量：　300 ml/m２　、処理回数：2回）
（注：接合部、亀裂部、コンクリートなどに接する部分は、特に入念な処理を行う。
給排水用塩化ビニル管に接する部分は、薬剤による損傷を防ぐため管を保護する。
処理方法は、日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。）
使用薬剤：日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする。

使用部位	高耐久材	工場処理材		現場処理
土台	☐（　　）	☑ K3	☐（認定品）	☑
外周柱下部1m	☐（　　）	☐ K3	☑（認定品）	☑（　　）
外周筋かい下部1m	☐（　　）	☐ K3	☑（認定品）	☑（　　）
外周木質系面材耐力壁下部1m	☐（　　）	☐ K3	☑（認定品）	☑（　　）
水周り	☐（　　）	☐ K3	☐（　　）	☐（　　）
その他	☐（　　）	☐ K3	☐（　　）	☐（　　）

（2）土壌処理
☐防蟻薬剤による処理：薬剤（　　）
特記無き場合は、日本しろあり対策協会または日本木材保存協会認定品、あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする。
☑防蟻薬剤による処理と同等以上の対策　（　べた基礎　　）
☐土壌処理省略　☐北海道　☐東北　☐北陸　☐（　　）
注：処理範囲は、外周部布基礎の内側、内部布基礎の周辺２０ｃｍ、束石等の周囲２０ｃｍを標準とし、処理方法は日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。

（3）耐候処理（塗装）：劣悪環境に置かれる木材等を対象とする。

部位	製品名（会社名）	塗り回数

4．材料品質の検査方法

☑は適用項目を示すものとする。

（1）構造用製材
現場または加工工場に搬入された製材等は、加工に先立ち下記の要領で受け入れ検査を実施し、速やかに監理者に報告する。また係員の立会いを要する検査については、指定された試験要領に基づいて、適時抜取り検査を実施する。社内検査で試験本数や抜取り率の指定がない場合は原則全数とする。検査の結果、性能を満たさない材料については適用箇所を変更する等の措置を行う。

検査項目
☑ 含水率測定　☑ 抜き取り（部位：　　）　☐ 全数
☐ ヤング率測定　☐ 抜き取り（部位：梁（つなぎ材、合板下地材を除く））　☐ 全数
☑ 材種・等級の確認　☑ 抜き取り（部位：　　）　☐ 全数
☑ 外観検査　☑ 抜き取り（部位：　　）　☐ 全数
☑ 寸法検査　☑ 抜き取り（部位：　　）　☐ 全数

☐　日本農林規格の目視等級区分構造用製材、機械等級区分構造用製材を使用する場合は製造工場の認定書の写しを確認する。
☑　含水率測定の時期は、監理者の指示による。
☐　（　　）

・材種・等級は表示を確認し、外観・寸法検査は日本農林規格に準じて行う。
・含水率やヤング係数は刻印された表示の確認を原則とし、全乾重量法や静的ヤング係数試験は公的試験場にて行う。含水率計は日本住宅・木材技術センター認定品を、動的ヤング係数は全国木材組合連合会の認定品を用いて測定することを原則とする。
・全乾重量法や静的ヤング係数試験は１荷口につき確認する本数で示す。試験体は実際に使用する同一部材の中から抽出し、木材の試験方法（JIS Z 2101）に準ずる。
・特記無き場合は、含水率計による測定は、製材加工後の工場出荷前に行う。
・特記無き場合は、動的試験は製材後（継手などの工場加工前に）に行う。

（2）構造用集成材、構造用単板積層材(LVL)、構造用合板、構造用パネル等
・搬入される全製品について受け入れ検査を実施し、特記仕様書等で指定された所定の製品であることを、日本農林規格(JAS)ーMDF等の場合は日本工業規格(JIS)ーの表示ラベルまたは出荷証明書で確認すること。

（3）接合具
・現場または加工工場に搬入される全ての接合具について受け入れ検査を実施し、材質径、長さ製品名等について特記仕様書等で指定された所定の製品であることを確認すること。
・同等性能の接合具を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得る。
☑ 木製品の接合具については、予め曲げ試験などにより性能の確認を行いその結果を報告する。また必要に応じて立会いによる性能確認を実施する。

（4）接合金物
・現場または加工工場に搬入される全ての接合金物について受け入れ検査を実施し、材質、形状製品名等について特記仕様書等で指定された所定の製品であることを確認すること。
・同等認定品や性能評価品等を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得る。

5．木材の加工

（1）刻み時の注意
製材に背割りのある場合、曲げ材は断面の弱軸と背割りの方向を一致させる。

（2）加工寸法の精度
図面表示は仕上がり寸法である。
下記を除き、2. 1木質材料に示す材の仕上げ後の断面寸法の許容差は各々の農林規格の寸法許容差に準ずる。ただし、上限値が制限なしとなっている場合は、協議による。
材種：☐（　　）　☐（　　）
構造用製材、構造用集成材、LVLの材長
レ☐　軸組み工法の継ぎ手仕口及び金物工法の場合：±1.0mm以下
レ☐　調整代をとったボルト接合工法の場合（大断面集成材、LVL）：材長の±0.04%以下
せん断用ボルト穴径　（ｄはボルト径）
集成材　：ｄ+1.0mm　（ｄ≦M12）、ｄ+2.0mm（ｄ≧M16）
接合金物等：ｄ+1.0mm　（ｄ≦M12）、ｄ+1.5mm（ｄ≧M16）
ドリフトピン・木栓の木材の穴径：ｄ±0mm（dはドリフトピン・木栓径）
ドリフトピンの接合金物等の穴径：ｄ+1.0mm(ｄ≦M12)、ｄ+1.5mm(ｄ≧M16はドリフトピン径)

（3）表面仕上げ
☐製材（　　）　☐集成材･LVL（　　）　☐その他（　　）

（4）面取り
☐柱：（　　）mm　☐梁：（　　）mm

（5）加工状況の検査
☑立ち会い検査
☑外観検査　☑加工寸法検査
☐施工者自主検査記録の提出〔　　〕

6．運搬・建方

（1）輸送計画
製品の輸送に当たっては、建方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。
☑　輸送計画書の提出　〔　　〕

（2）集積・保管
集積の際は適当な受け台などを設け、材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。
降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。
☐　集積場の確認　〔　　〕

（3）建方計画
☑　建方計画書の提出
アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方、養生、安全対策などについて検討し、建方計画書としてまとめる。

（4）施工時の安全性
建方作業中および作業後、横架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合、あるいは柱に大きな引張力を与えるなどの場合は監理者の承認を受ける。また、強風などによる諸外力に対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。
☑　施工時の安全性に対する検討書の提出　☑　施工時荷重条件の通知

（5）アンカーボルトの施工
・芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。
・アンカーボルトは鉄筋等を用いて組立て、適切な補助材で固定しコンクリートの打ち込みを行う。
・アンカーボルトはダブルナットとする。　☐適用除外　〔　　〕
・土台の穴あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。

（6）建方精度
・建方の精度基準は下記による。
☑建物の倒れ　：　☐　e≦H／2500+10mm　かつ　e≦50mm
☑　☐　〔e≦H／1000　〕
☑梁の水平度（節点間のレベル差）　：　☐　e≦L／700+ 5mm　かつ　e≦15mm
☑　☐　〔e≦L／1000　〕
☑建物のわん曲　：　☐　e≦L／2500mm　かつ　e≦25mm
☐　〔　　〕
☑柱据え付け面の高さ及びアンカーボルトの位置
柱据え付け面の基準高さからの誤差　：　☐±3mm以下　☐〔　　〕
通り芯からの誤差　：　☐±3mm以下　☐〔　　〕
階高　：　☐－5mm≦△H≦+5mm
☐〔　　〕
・建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。

（7）施工状況の検査
☑　アンカーボルト施工時の立会い検査
☐　施工者自主検査記録の提出〔　　〕
☑　地組み時の立会い検査
☐　施工者自主検査記録の提出〔　　〕
☑　建方時の立会い検査
☐　施工者自主検査記録の提出〔　　〕
☑　建方後の施工状況の検査
☐　施工者自主検査記録の提出〔　　〕
☑　最終確認
工事中に発生するボルトの緩み、接合具および接合金物に影響する材の割れ、接着面のはがれ等に注意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
☐　施工者自主検査記録の提出〔　　〕

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第３区画）新築工事		
種　別	岐南3区画 標準仕様書１	図面番号	WH02/ /WH07
縮　尺	ー	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設 計 室 有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

木造軸組接合部標準図（１）

１．一般事項

（１）適用範囲
※本標準図は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。
木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。

（２）設計図書
設計図書とは本標準図、特記仕様書、設計図、指示書（現場説明書及び質疑回答書を含む）をいう。

（３）準拠する図書
設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。（ ※全て最新版による。）
「木造住宅工事仕様書」（住宅金融支援機構監修）
「公共建築木造工事標準仕様書 令和４年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）
「木造計画・設計基準 平成29年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）
「木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2017年版)」（日本住宅・木材技術センター）
「日本工業規格 JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」(2015年改訂版)

上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。

（４）設計図書の優先順位
設計図書の優先順位は下記による。
1. 指示書（現場説明書及び質疑回答書）
2. 設計図
3. 特記仕様書
4. 本標準図

（５）疑義
疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。

（６）製作要領書及び施工計画書の作成・提出
工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。

（７）施工図及びプレカット図の提出
工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。

（８）製作工場の選定、承諾
設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を受ける

（９）各種試験・検査報告書の提出
施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。

(10) 接合工法
本標準図に示す構造耐力上主要な柱及び梁の接合方法は、下記による。
・継手仕口による在来工法
・一部　梁受け金物、による金物工法

なお、上記の方法はひとつの建物で混用して構わない。
また、本標準図は在来接合工法のみについて記載しており、金物工法を用いる場合は、金物工法用の標準図を本標準図に追加して用いること。
本標準図で指定していない金物に変更する場合は、監理者の承認を得ること。

(11) 加工部材に関する留意事項
本標準図で扱う一般的な在来プレカット工場で加工可能な範囲は以下による。

・梁:部材断面が幅90㎜～150㎜、梁成が幅と同寸～450㎜、及び材長６ｍ以下
・柱:90角～150角の正方形断面、長さ6m以下

これらを超える場合は、一般プレカット工場では加工できない為、任意形状の加工が可能な加工機を有する工場を選定すること。

２．材料

（１）木材及び木質材料
主要構造部に使用する木材・木質材料の品質については特記仕様書で指定する。
（２）接合具
a)くぎ
主要構造部に使用するくぎはJIS A 5508で規定される鉄丸くぎ（N釘）または太め鉄丸くぎ（CN釘）または溶融亜鉛メッキ太め鉄丸くぎ（ZN釘）またはステンレス鋼釘（S釘）またはせっこうボード用くぎ（GN釘）を用いる。

b)木質構造用ビス
主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靭性が確保されるものを選定することとし、造作用のビス（コーススレッド等）を用いてはならない。
使用箇所・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。

c)ボルト・ナット・座金

1) 主要構造部に使用するボルト及びナットについては以下による。
・ボルトはJIS B 1051 ,ナットはJIS B 1052 に規定される機械的性質を満たす炭素鋼
・公益財団法人日本住宅・木材技術センター規格に準じた金物に使用するボルト及びナット
【 Ｚマーク表示金物 】
【 Ｄマーク表示金物 】
【 Ｓマーク表示金物 】
・上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験成績書を取得して、耐力が明示された金物に使用するボルト及びナット

2) 主要構造部に使用するボルト・ナットのねじはJISB0205に示すメートル並目ねじとし、構造上主要な部分にはM12以上を用いる。
3) ボルト及びナットを用いて木材及び接合金物を緊結する場合には適切な寸法と厚みのある座金を用いる。

※ ボルト・ナット及び座金の使用部位、種類、材質、寸法、表面処理については特記仕様書で指定する。

d)ドリフトピン・ラグスクリュー
主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靭性が確保されるものを選定することとする。使用箇所・材質・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。

e)木栓・木ダボ
主要構造部に使用する場合は所定の強度が確保できる樹種を指定する。
樹種・径等については、特記仕様書で指定する。
節・目切れ等の耐力上の欠点のないものとする。

（３）接合金物
a)規格金物
構造材の接合に用いる接合金物の規格は以下による。
・JIS A 5531；木構造用金物
・公益財団法人日本住宅･木材技術センターによる規格に準じた金物；
Ｚマーク表示金物 、又は Ｃマーク表示金物
・同等認定金物；Ｄマーク表示金物
・性能認定金物；Ｓマーク表示金物

上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験評価機関で試験成績書を取得して基準耐力が明示された金物を、規格金物として使用できる。
使用部位と金物の名称、材質、その他については特記仕様書で指定する。

b)製作金物
製作金物の使用部位・材質・形状・寸法・溶接仕様・表面処理等については、特記仕様書及び設計図による。

（４）接着剤
原則として、構造計算による応力の検定に現場接着による接着剤の耐力は算入しない。但し、たわみや振動等に対する剛性確保のために接着剤の効果を見込む場合はこの限りではない。
建築現場で用いる接着剤の名称・材質・使用環境等については特記仕様書による。

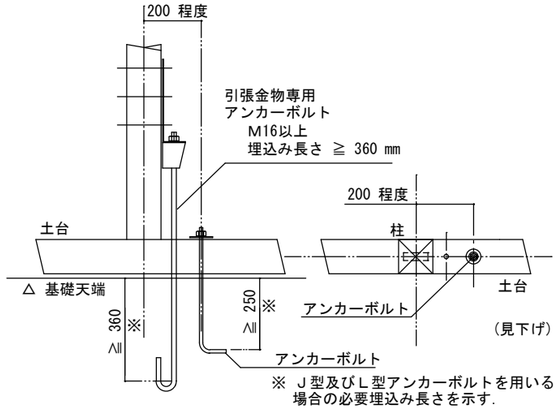
（５）防腐防蟻処理及び耐候処理
防腐防蟻処理及び耐候処理（塗装）は特記仕様書で指定する。
土台及び外壁の地盤面から1m以下の構造材については適切な防腐防蟻処理を行う。
適切な防腐防蟻処理については特記仕様書で指定する。

３．アンカーボルト

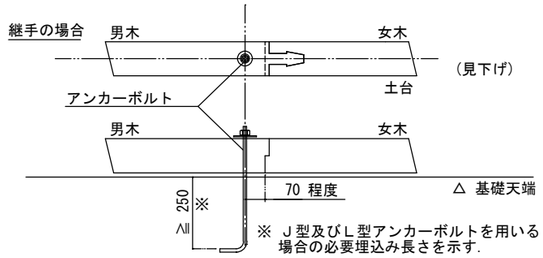
※共通事項
・アンカーボルト及び座金の品質と性能、表面処理等は、特記仕様書による。

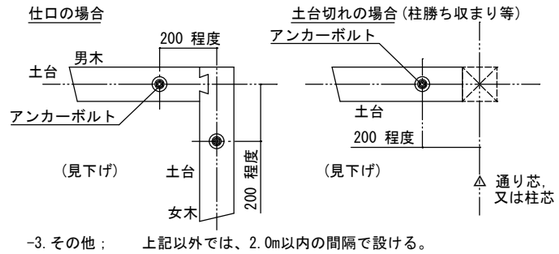
（１）土台固定用アンカーボルト
a).アンカーボルトの埋設位置； アンカーボルトの埋設位置は以下による。

-1.耐力壁(筋交い,合板仕様共通)の下部；
耐力壁(筋交い,合板仕様共通)の下部は、その両端の柱の下部に近接した位置(柱芯より200㎜内外)とする。



-2.土台切れの端部及び、土台の継手仕口；
土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける。
当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。





-3.その他； 上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。

（２）引張金物専用アンカーボルト

a).引張金物専用アンカーボルトの径
引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。

b).引張金物専用アンカーボルトの基礎への埋込み長さ
引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは、Ｊ型アンカーボルトを用いる場合は、360 ㎜ 以上とする。その他のアンカーボルトを用いる場合は、引張金物の耐力を満た埋込み長さとする。

４．接合一般

（１）釘接合
・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。
・面材表面に対し、釘頭がめり込んではならない。
・自動釘打ち機を使用する場合は、圧力を適切に調整するか、弱めの圧力で打込んだうえに手で打込んで仕上げる等により、釘頭のめり込みを防ぐ。
・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。
・木口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。

（２）木質構造用ビス接合
・木口面に打たれた木質構造用ビスは、引抜き方向に抵抗させることはできない。
・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。；
比重が 0.5 以上の樹種・・・・呼び径の 60～75 %
上記以外の樹種 ・・・・・・呼び径の 40～70 %
※ 先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの２／３程度とする。

（３）ボルト接合
・締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。
・ボルトの締め付けは、座金等が木材に軽くめり込む程度とし、過度に締付けない。
・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから２山以上突き出ていることを確認する。但し、座掘り座金等、ナットと座金が一体になって土台に埋込まれるタイプのものについては、メーカーの使用条件による。
・引張力を負担する構造上主要な箇所のボルトで、設計図書で指定する部位のものについては、ダブルナット等、弛み止め等の適切な処置を行う。

（４）ラグスクリュー接合
・座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。
・締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。
・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。；
比重が 0.5 以上の樹種・・・・呼び径の 60～75 %
上記以外の樹種 ・・・・・・・呼び径の 40～70 %
※ 先孔の深さは、ネジ部の長さと同寸以上とする。
・ラグスクリューの挿入は、スパナやインパクトレンチ等を用い、必ず回転させて行う。ハンマー等での叩き込みによる挿入を行ってはならない。
・一度ねじ込んだラグスクリューは、抜き直して再びねじ込むことは避ける。
・鋼板を側材に用いる場合のラグスクリューは、切削ネジタイプとし、転造ネジタイプを用いてはならない。また、鋼板の孔径は以下のとおりとする。
・呼び径 M12以下；＋1.0㎜
・呼び径 M16以上；＋1.5㎜

（５）ドリフトピン接合
・ドリフトピンは、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。
・ドリフトピンは、原則として、集成材やＬＶＬ等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はＫＤ材とする。
・施工に際しては、孔に対しテーパーのある側を先端にして打込み、無理な打撃を加えてはならない。

（６）木栓接合
・木栓は、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。
・木栓は、原則として、集成材やＬＶＬ等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はＫＤ材とする。
・施工に際しては、木栓を孔に対し打込む時に、折れ曲がりや割れ、頭部の潰れ等が生じないよう注意し、無理な打撃を加えてはならない。
・木栓は湿気の少ない場所で保管し、現場においても水に濡れないよう注意する。

（７）グルードインロッド接合
・グルードインロッド接合とは、軸組部材の木口に先孔を開け、鋼棒等を挿入して、樹脂接着剤等を注入・充填させることにより、接着剤の付着抵抗と鋼棒等の引張によって、応力を伝達する接合をいう。
・グルードインロッド接合は、原則として、集成材やＬＶＬ等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はＫＤ材とする。
・施工に際しては、所定の適用範囲や材料、手順、接着剤の使用環境、養生方法等を遵守して適正に行う。

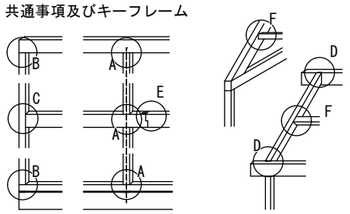
岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第３区画）新築工事		
種別	岐南3区画 標準仕様書１	図面番号	WH03/ /WH07
縮尺	―	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設計室 有限会社 大臣登録244782号 杉山 雅章 印		

出力 25 12 9

木造軸組接合部標準図（２）

５．軸組標準接合部

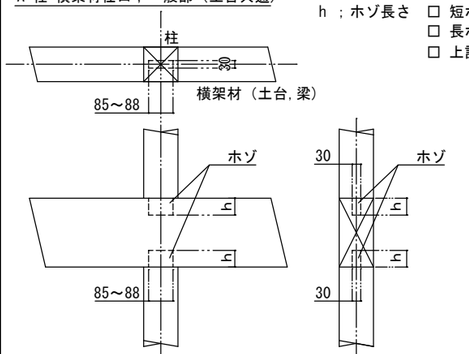
（１）共通事項及びキーフレーム



（２）標準的な継手仕口　(mm)

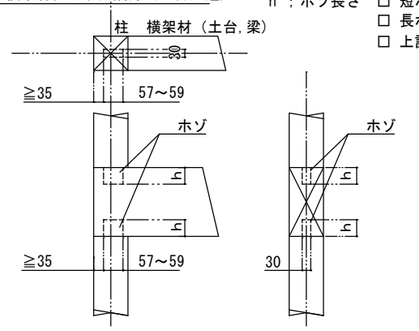
A 柱-横架材仕口；一般部（土台共通）

h ；ホゾ長さ　□ 短ホゾ 45～60 mm　□ 長ホゾ 90 mm　□ 上記以外（　）mm

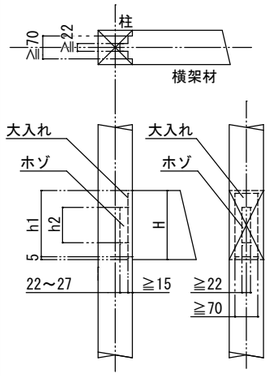


B 柱-横架材仕口；出隅部（土台共通）

h ；ホゾ長さ　□ 短ホゾ 45～60 mm　□ 長ホゾ 90 mm　□ 上記以外（　）mm

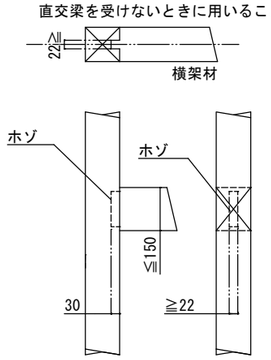


C 通柱―横架材仕口；胴差し



C 通柱―横架材仕口；桁差し

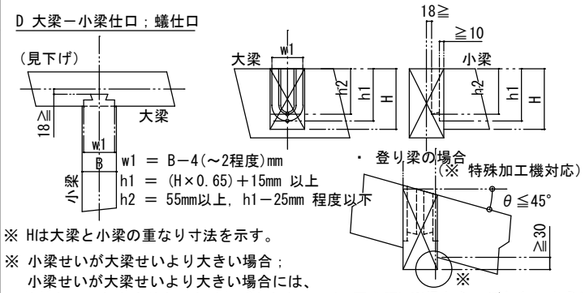
※ 材せい150mm以下かつ、上階からの柱や直交梁を受けないときに用いること。



h1 ＝ H-5 mm 程度

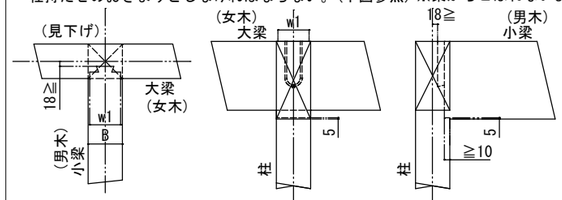
※ 胴差しで通し柱に取り付く方向は、２方向までとする。

D 大梁－小梁仕口；蟻仕口



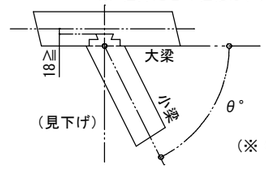
※ Hは大梁と小梁の重なり寸法を示す。

※ 小梁せいが大梁せいより大きい場合；
小梁せいが大梁せいより大きい場合には、
柱持たせのおさまりとしなければならない。（下図参照）※梁からこぼれないよう注意



※ 柱持たせの柱幅は、大梁の幅と同寸以上とする。

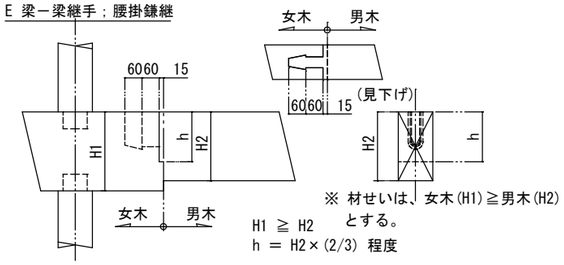
※ 斜め蟻の場合；



※θ° ≧ 26.6

（※ 特殊加工機対応）

E 梁－梁継手；腰掛鎌継

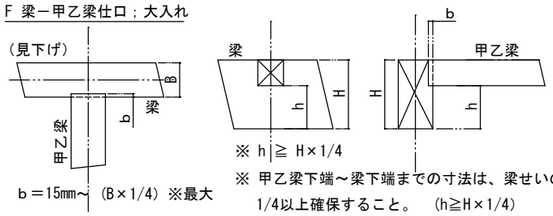


※ 材せいは、女木(H1)≧男木(H2)とする。

H1 ≧ H2

h ＝ H2×(2/3) 程度

F 梁－甲乙梁仕口；大入れ



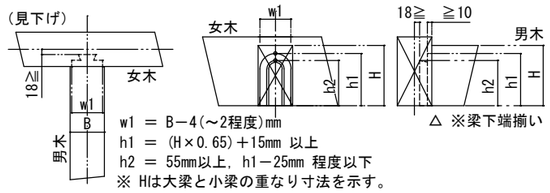
b＝15mm～ (B×1/4) ※最大

※ h≧ H×1/4

※ 甲乙梁下端～梁下端までの寸法は、梁せいの1/4以上確保すること。　(h≧H×1/4)

※ バルコニ等の先端に架ける梁に用いる。

G 梁－梁仕口；逆蟻仕口



w1 ＝ B－4(～2程度)mm

h1 ＝ (H×0.65)＋15mm 以上

h2 ＝ 55mm以上，h1－25mm 程度以下

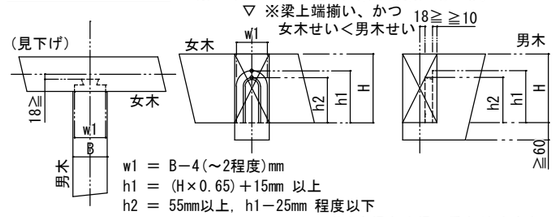
※ Hは大梁と小梁の重なり寸法を示す。

△ ※梁下端揃い

H 梁－梁仕口；茶臼仕口

※ バルコニ等の先端に架ける梁に用いる。

▽ ※梁上端揃い、かつ女木せい＜男木せい



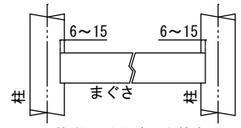
w1 ＝ B－4(～2程度)mm

h1 ＝ (H×0.65)＋15mm 以上

h2 ＝ 55mm以上，h1－25mm 程度以下

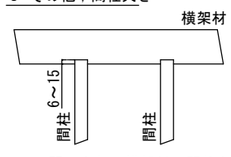
※ Hは大梁と小梁の重なり寸法を示す。

I その他；まぐさ欠き



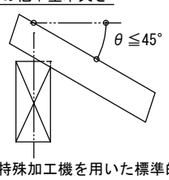
※ 筋交い耐力壁の中桟も上図に準じる。

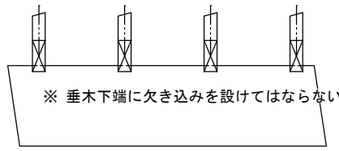
J その他；間柱欠き



※ 開口上部の横架材の間柱欠きは、0～6mm 以下とする。

K その他；垂木欠き



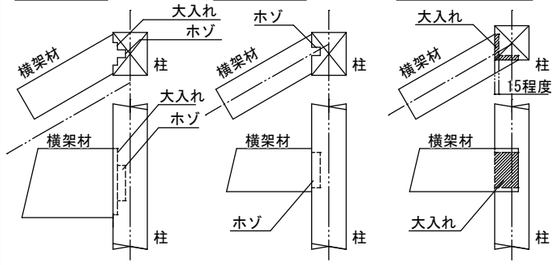


※ 垂木下端に欠き込みを設けてはならない。

（３）特殊加工機を用いた標準的な継手仕口　(mm)

特殊加工機を用いることにより対応が可能な継手仕口の一例を、本節に示す。
特殊加工機を用いた継手仕口は、加工工場が限定されるので注意すること。
特殊加工機を用いた継手仕口は、その形状により加工コストが増すので注意すること。

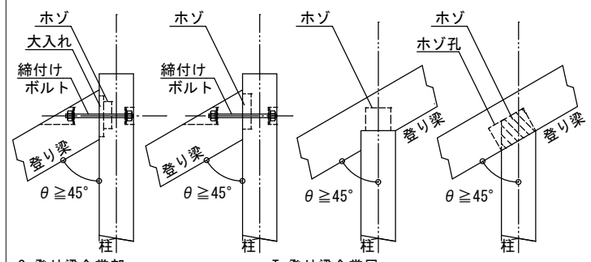
L 斜め胴差し　M 斜め桁差し　N 斜め柱差し大入れ



※ L,Mともに、梁幅が柱からこぼれない範囲で用い、柱断面を調整して使用すること。

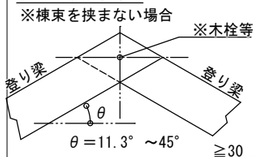
※ L,Mともに、柱梁の緊結には引きボルトの代わりにコーナー金物を横使いとする。
使用するコーナー金物は、羽子板同等以上の引張耐力を有するものとする。

O 登り胴差し　P 登り桁差し　Q 登り斜めホゾ　R 登り座付きホゾ

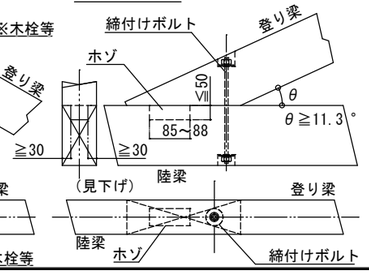


S 登り梁合掌部

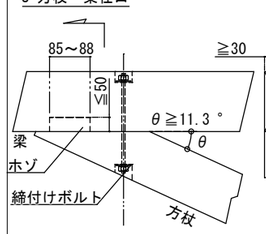
※棟束を挟まない場合



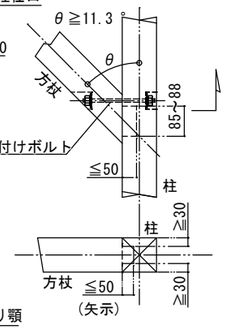
T 登り梁合掌尻



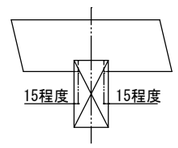
U 方杖－梁仕口



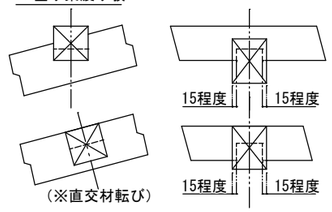
V 方杖－柱仕口



W 渡り顎



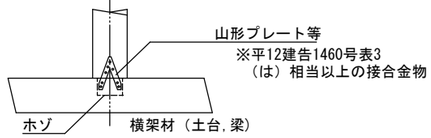
X 登り梁渡り顎



（４）継手・仕口の補強金物

・耐力壁枠柱の柱脚・柱頭においては、耐力壁による引抜力を計算し、引抜力以上の耐力を保有する接合金物を使用すること。

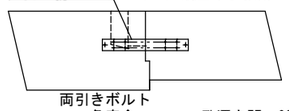
・上記以外の柱脚接合部には、5.1KN以上の引張耐力を保有する接合金物(平12建告1460号表３に対応する表符号の”は”相当以上)を使用すること。



・水平構面の外周部横架材接合部においては、床水平構面による引抜力を計算し、引抜力以上の耐力を保有する接合金物を使用

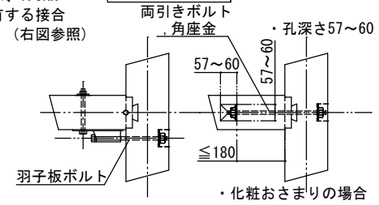
・上記以外の接合部には、7.5KN以上の引張耐力を保有する接合金物を使用すること。（右図参照）

短冊金物 ビス又はボル短期基準引張耐力7.5kN以上



両引きボルト
，角座金

・孔深さ57～60



・化粧おさまりの場合

（梁-梁 接合部）

・水平構面の外周部横架材接合部においては、床水平構面による引抜力を計算し、引抜力以上の耐力を保有する接合金物を使用すること。

・上記以外の接合部には、7.5KN以上の引張耐力を保有する接合金物を使用すること。（右図参照）

（小梁端部接合部）

・小梁端部接合においては、地震力によって外れ落ちることのないよう、最低3.0kN以上の引張耐力を保有する接合金物で緊結すること。

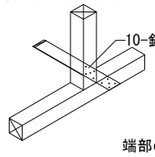
岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第３区画）新築工事		
種別	岐南3区画 標準仕様書１	図面番号	WH04/ /WH07
縮尺	―	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設計室 有限会社 大臣登録244782号　杉山 雅章　印		

木造軸組接合部標準図（３）

（１）鉛直構面（耐力壁等）

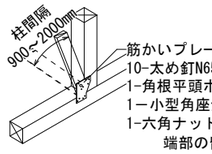
ａ．筋かい

□木材15ｘ90mm以上

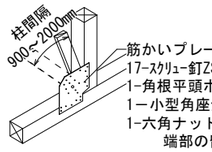


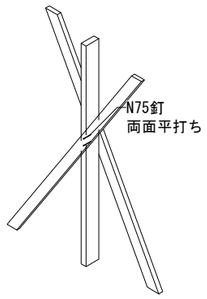
端部の留めつけ

□木材30ｘ90mm以上



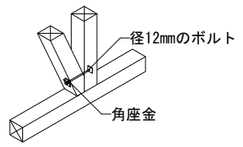
■木材45ｘ90mm以上



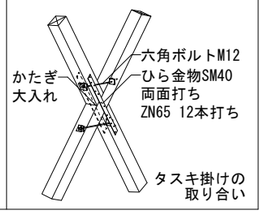


タスキ掛けの取り合い

□木材90ｘ90mm以上



端部の留めつけ



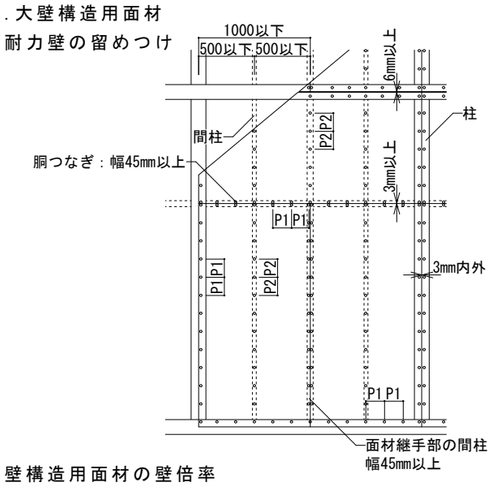
タスキ掛けの
取り合い

筋かいの壁倍率

筋かいの種類	片筋かい			両筋かい
	基準	圧縮	引張	
□鉄筋φ9mm以上	ー	0	2.0	(2.0)
□木材15ｘ90mm以上	1.0	1.0	1.0	2.0
□木材30ｘ90mm以上	1.5	2.0	1.0	3.0
■木材45ｘ90mm以上	2.0	2.5	1.5	4.0
□木材90ｘ90mm以上	3.0	5.0	1.0	5.0
□鋼製ﾌﾞﾚｰｽ９φ	2.0	0	2.0	

ｂ．大壁構造用面材

■耐力壁の留めつけ

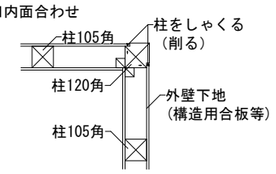


大壁構造用面材の壁倍率

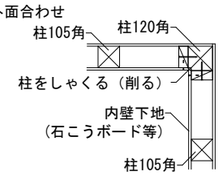
面材の種類	最低厚さ	釘種類	P1	P2	壁倍率
■構造用合板	7.5mm	N50	150mm	150mm	2.5
□構造用合板	9mm	CN50	75mm	150mm	3.7
□ハードボード	5mm	N50	150mm	150mm	2.5
□硬質木片セメント板	12mm	N50	150mm	150mm	2.0
□構造用石こうボードＡ種	12mm	GNF40, GNC40	150mm	150mm	1.7
□構造用石こうボードＢ種	12mm	GNF40, GNC40	150mm	150mm	1.2
□石こうボード	12mm	GNF40, GNC40	150mm	150mm	0.9
□ラスシート　（角波亜鉛鉄板） （メタルラス）	0.4mm 0.6mm	N38	150mm	150mm	1.0
□シージングボード	12mm	SN40	100mm	200mm	1.0
□ＭＤＦ	9mm	N50	100mm	200mm	2.5

柱寸法が異なる場合の面材の取り合い

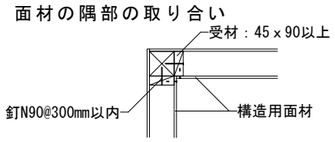
■内面合わせ

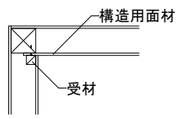


■外面合わせ

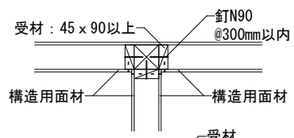


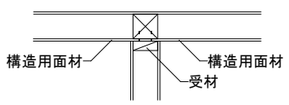
面材の隅部の取り合い

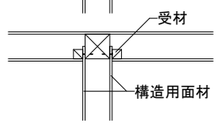




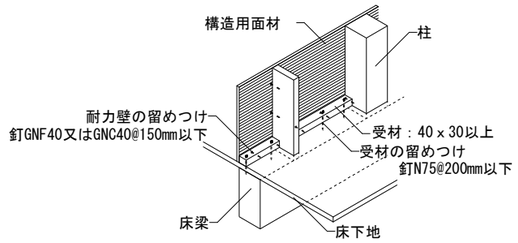
面材のＴ字部の取り合い







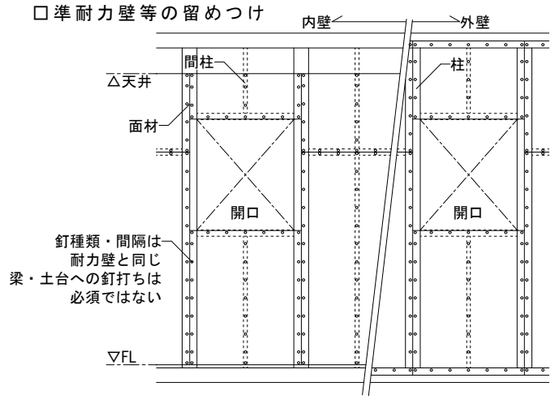
□床面材勝ち耐力壁の納まり



床面材勝ち耐力壁の壁倍率　（　）内は真壁納まりの壁倍率

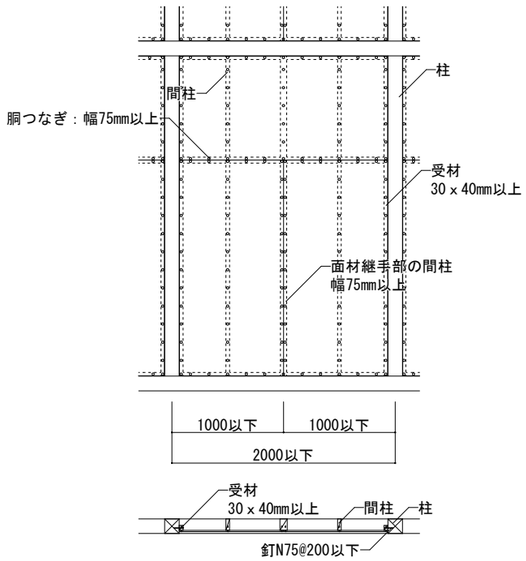
面材の種類	最低厚さ	釘種類	P1	P2	受材	壁倍率
□構造用合板	7.5mm	N50	150mm	150mm	30×40以上 N75@200（300）	2.5（2.5）
□構造用合板	9mm	CN50	75mm	150mm	30×60（40） N75@120（200）	3.7（3.3）
□石こうボード	12mm	GNF40 GNC40	150mm	150mm	30×40 N75@300	0.9

□準耐力壁等の留めつけ

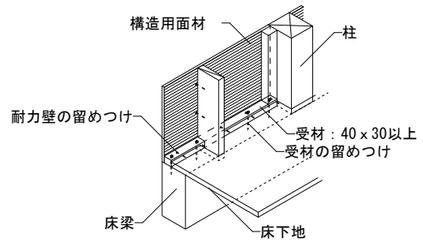


ｃ．真壁構造用面材

□面材の留めつけ（受材仕様）



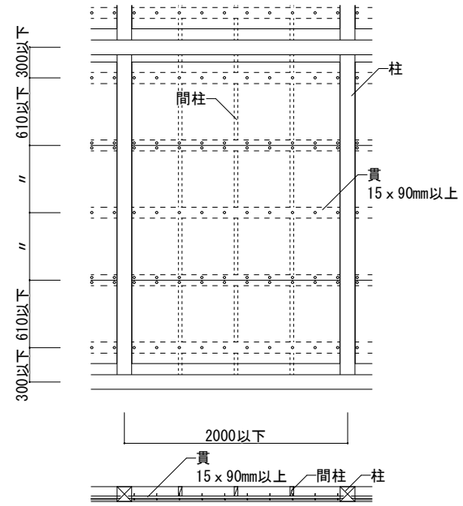
■受け材真壁耐力壁の納まり



受材仕様真壁構造用面材の壁倍率

面材の種類	最低厚さ	釘種類	P1	P2	受材	壁倍率
■構造用合板	9mm	CN50	75mm	150mm	30×40以上 N75@200以下	3.3
■構造用合板	7.5mm以上	N50	150mm	150mm	30×40以上 N75@300以下	2.5
□石こうラスボード＋ 石こうプラスター15mm以上塗り	9mm	GN32又は GNC32	150mm	150mm	30×40以上 N75@300以下	1.5
□構造用石こうボードＡ種	12mm	GNF40又は GNC40	150mm	150mm	30×40以上 N75@300以下	1.5
□構造用石こうボードＢ種	12mm	GNF40又は GNC40	150mm	150mm	30×40以上 N75@300以下	1.3
□石こうボード	12mm	GNF40又は GNC40	150mm	150mm	30×40以上 N75@300以下	1.0
□構造用ＭＤＦ	9mm	N50又は CN50	150mm	150mm	30×40以上 N75@300以下	2.5

□面材の留めつけ（貫仕様）



貫仕様真壁構造用面材の壁倍率

面材の種類	最低厚さ	釘種類	釘間隔	壁倍率
□構造用合板	7.5mm	N50	150mm	1.5
□ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ・構造用パネル	12mm	N50	150mm	1.5
□石こうラスボード	9mm	N50	150mm	1.0
□構造用石こうボードＡ種	12mm	GNF32, GNC32	150mm	0.8
□構造用石こうボードＢ種	12mm	GNF32, GNC32	150mm	0.7
□石こうボード	12mm	GNF32, GNC32	150mm	0.5

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第３区画）新築工事		
種別	岐南3区画 標準仕様書１	図面番号	WH05／WH07
縮尺	ー	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ａｉ　設　計　室　有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

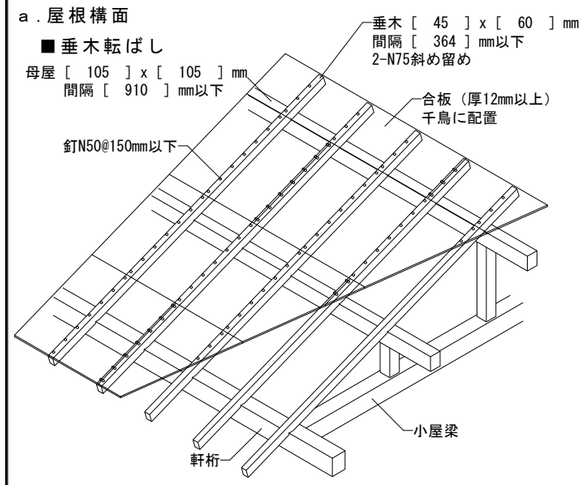
出力 25 12 9

木造軸組接合部標準図（４）

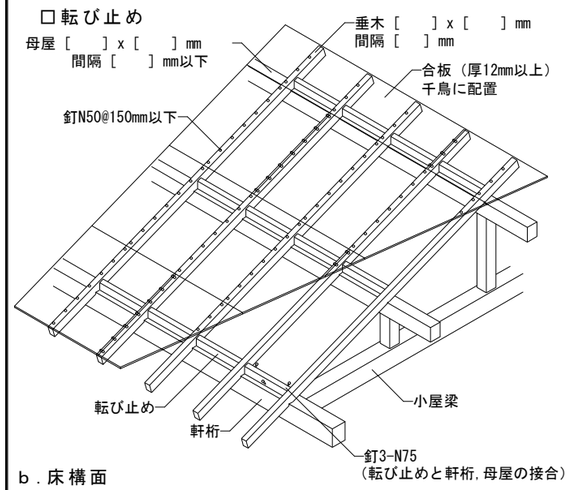
（２）水平構面（屋根・床等）

a．屋根構面

■垂木転ばし

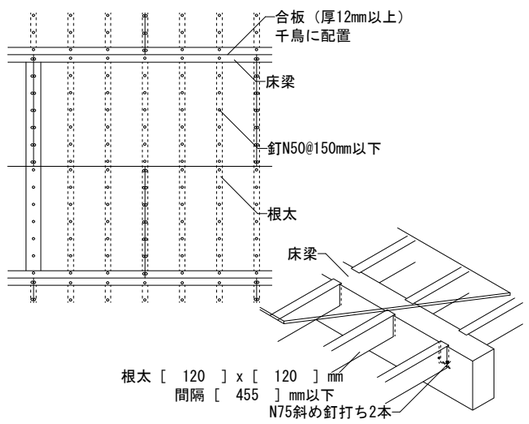


□転び止め

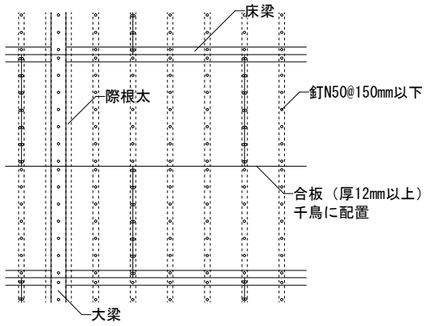


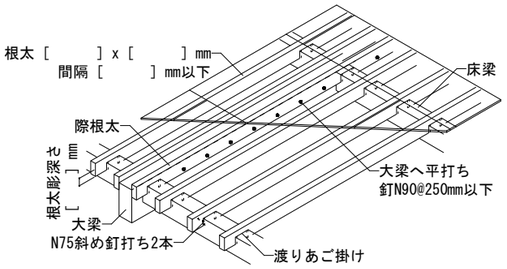
b．床構面

□根太落し込み

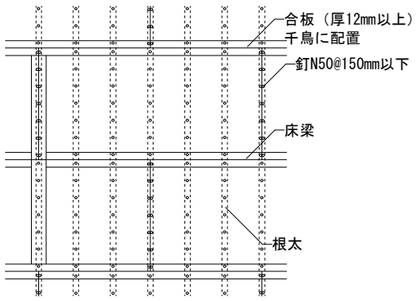


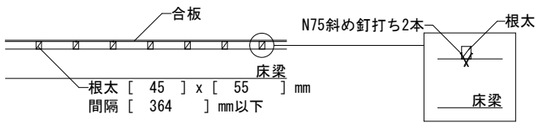
□根太半欠き



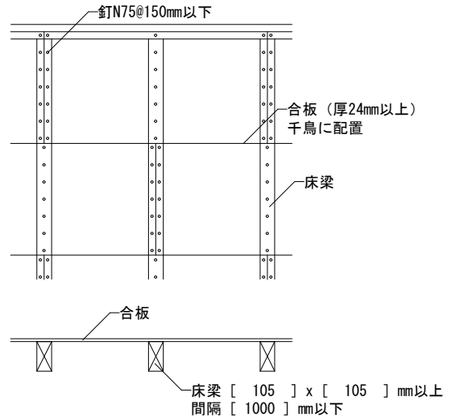


□根太転ばし

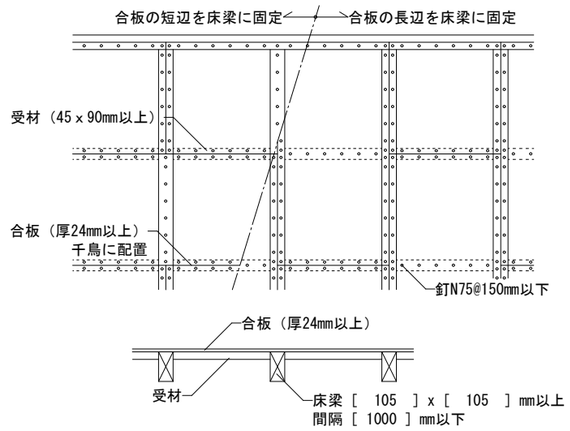




■根太なし合板直張　川の字釘打ち

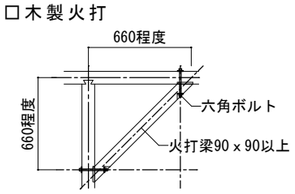


□根太なし合板直張　四周釘打ち

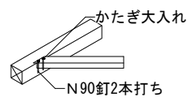


c．火打梁

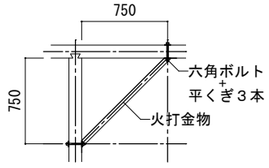
□木製火打



□火打土台



■火打金物（Ｚマーク）

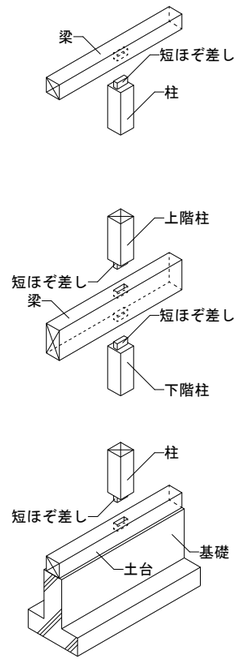


（３）柱仕口

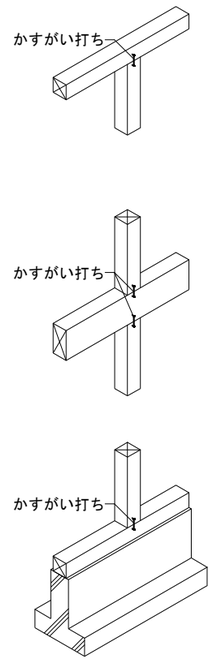
数値は短期許容引張耐力

■短ほぞ差し　0.0kN

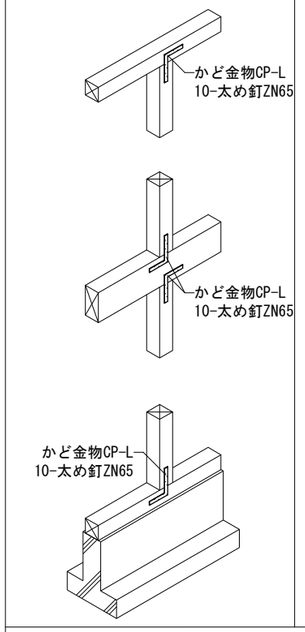
（小屋組み部分）



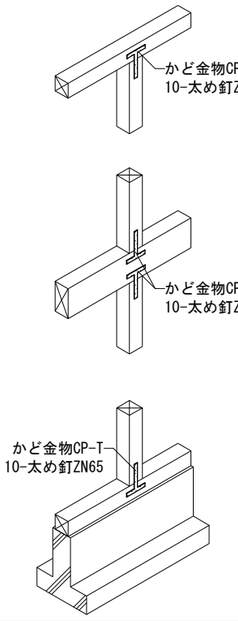
■かすがい打ち　1.08kN



■かど金物CP-L　3.38kN



■かど金物CP-T　5.07kN



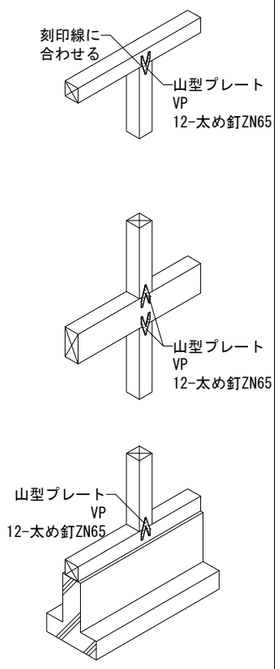
岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第３区画）新築工事		
種別	岐南3区画 標準仕様書１	図面番号	WH06／WH07
縮尺	―	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設計室 有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

出力 25 12 9

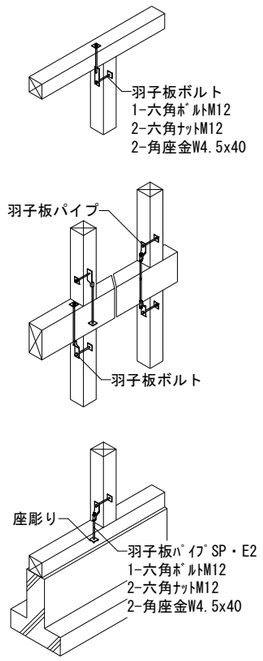
木造軸組接合部標準図（５）

数値は短期許容引張耐力

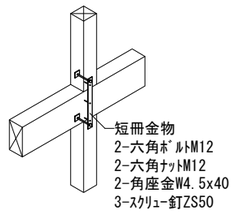
■山型プレートVP　5.88kN



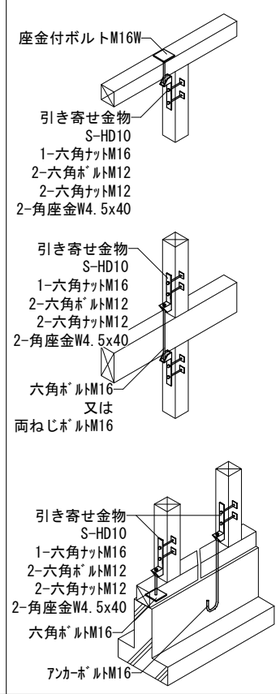
□羽子板ボルト　7.50kN



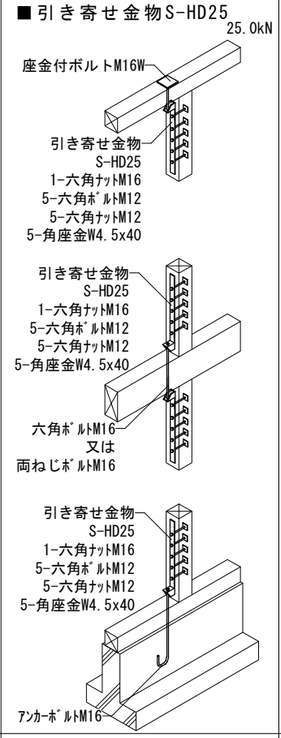
□短冊金物+ｽｸﾘｭｰ釘　8.50kN



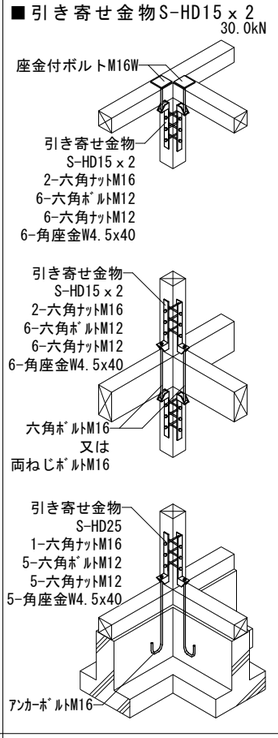
□引き寄せ金物S-HD10　10.0kN



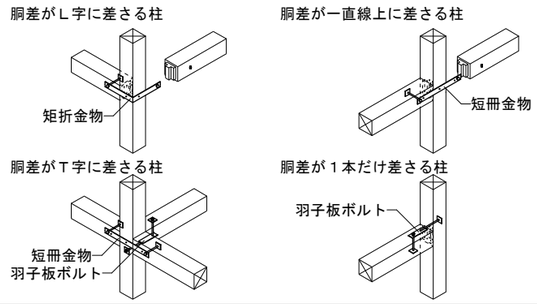
■引き寄せ金物S-HD25　25.0kN



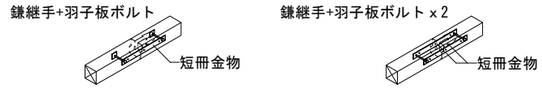
■引き寄せ金物S-HD15ｘ2　30.0kN



□通し柱と胴差の仕口



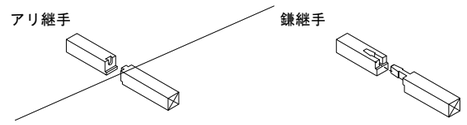
□梁の継手



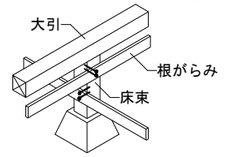
（５）その他の仕口・継手

□土台・大引・母屋等の仕口

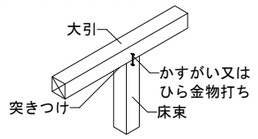
□土台・大引・母屋等の継手



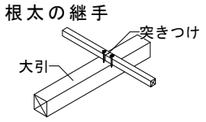
□根がらみと床束の取合い



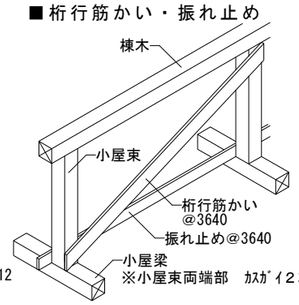
□大引きと床束の仕口



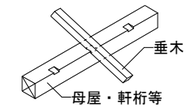
□根太の継手



■桁行筋かい・振れ止め

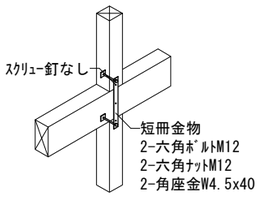


■垂木と横架材の仕口

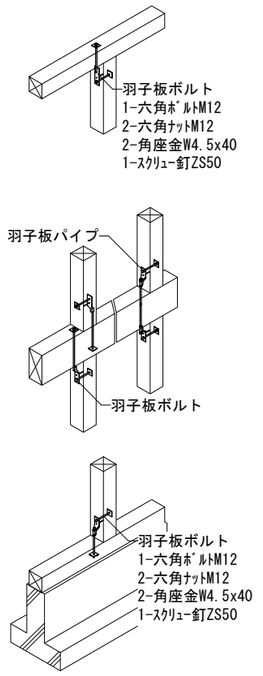


※垂木と母屋・棟木の接合金物　ST-12

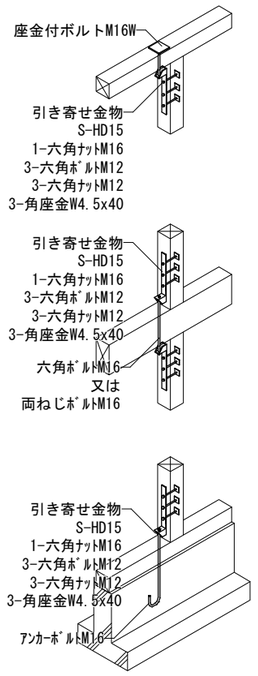
□短冊金物　7.50kN



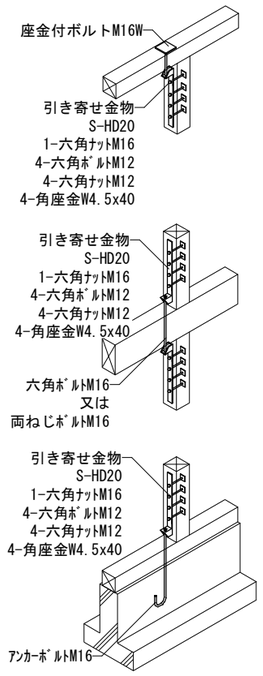
□羽子板ﾎﾞﾙﾄ+ｽｸﾘｭｰ釘8.50kN



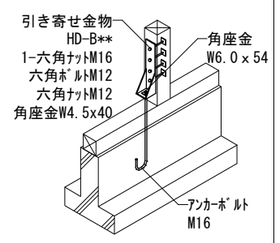
■引き寄せ金物S-HD15　15.0kN



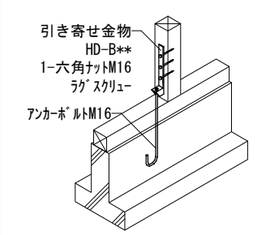
■引き寄せ金物S-HD20　20.0kN



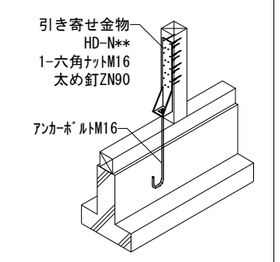
□HD-B**



□HD-B**

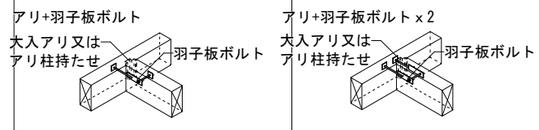


□HD-N**



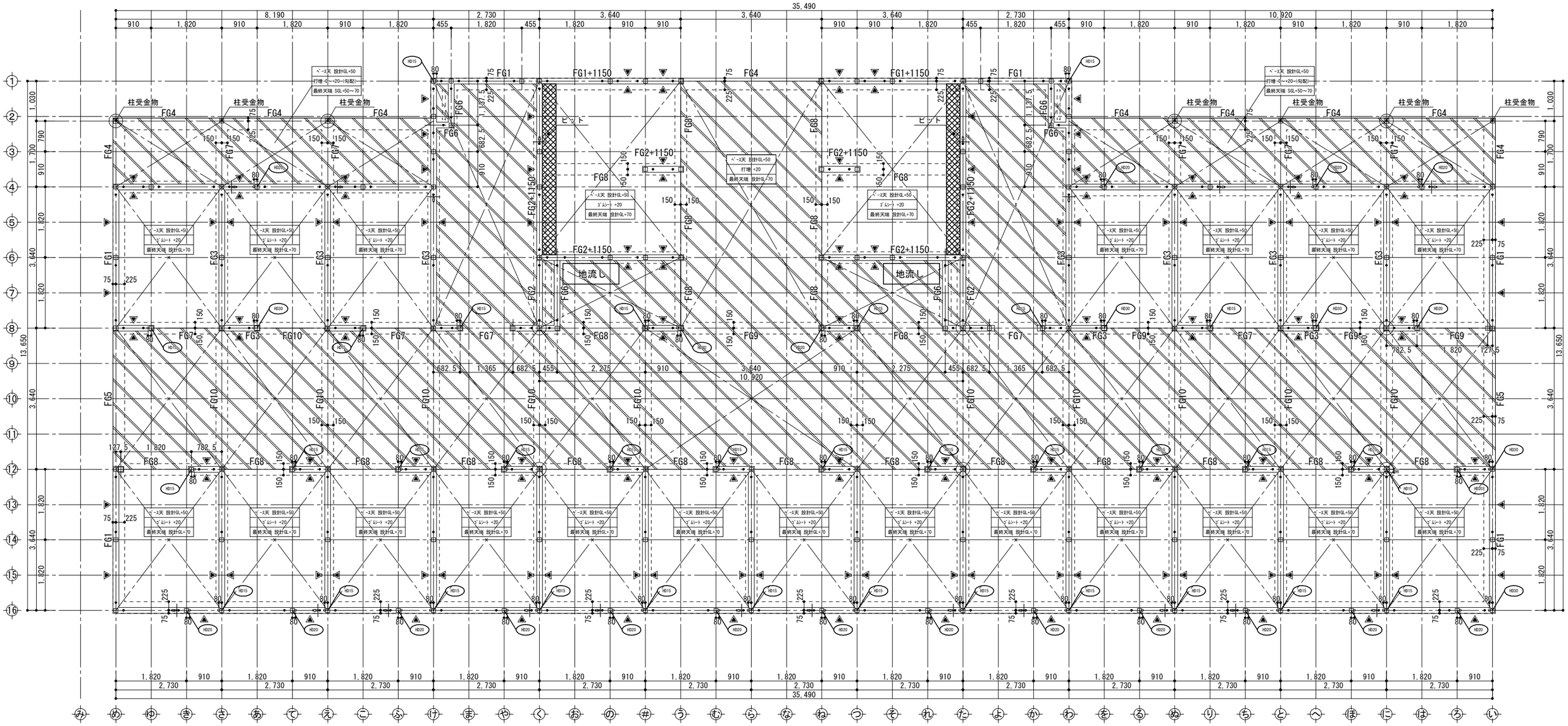
（４）梁仕口・継手

□梁と梁の仕口（一部在来仕口有り）



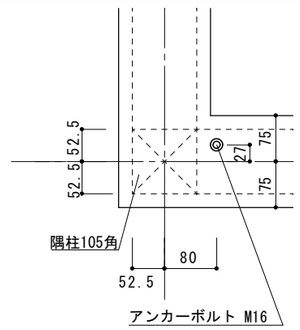
岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第３区画）新築工事		
種別	岐南3区画 標準仕様書１	図面番号	WH07/ /WH07
縮尺	―	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ａｉ　設　計　室　有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

出力 25 12 9



凡例図	
	ｺﾝｸﾘｰﾄ打増
	床下人通口 (W:600・H:350)
	土台継手位置
●	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄM12　出115
○	ﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ金物用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄM16　出550 特記なき取付寸法はﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ取付平面詳細図による
HD**	柱脚金物

ﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ取付平面詳細図 S=1:10



※特記なきスラブはFS1とし、
　スラブ天端は設計GL+50とする。
※特記なき外周基礎はFG1とする。
※特記なき内周基礎はFG2とする。
※設計基準強度Fc=21
　強度補正は基礎標準仕様書による。

ｽﾗﾌﾞ配筋	厚(mm)	短辺方向		長辺方向	
		端部	中央	端部	中央
FS1	150	D13@200ｼﾝｸﾞﾙ		D13@200ｼﾝｸﾞﾙ	
~~FS2~~	~~150~~	~~D13@150ｼﾝｸﾞﾙ~~		D13@150ｼﾝｸﾞﾙ	
~~FS3~~	~~150~~	~~D13@100ｼﾝｸﾞﾙ~~		D13@100ｼﾝｸﾞﾙ	

特記

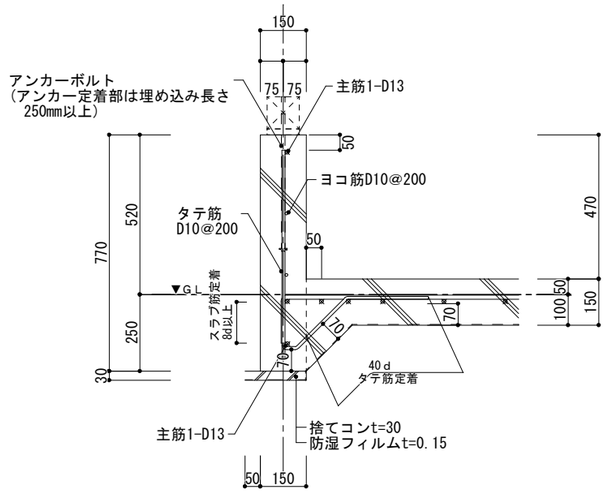
設計地耐力 25 kN/㎡

基礎の寸法 及び 配筋の検証方法	別添：ARCHITRENDZERO木造構造計算 『構造計算書』による。 具体的な寸法・配筋は基礎詳細図参照

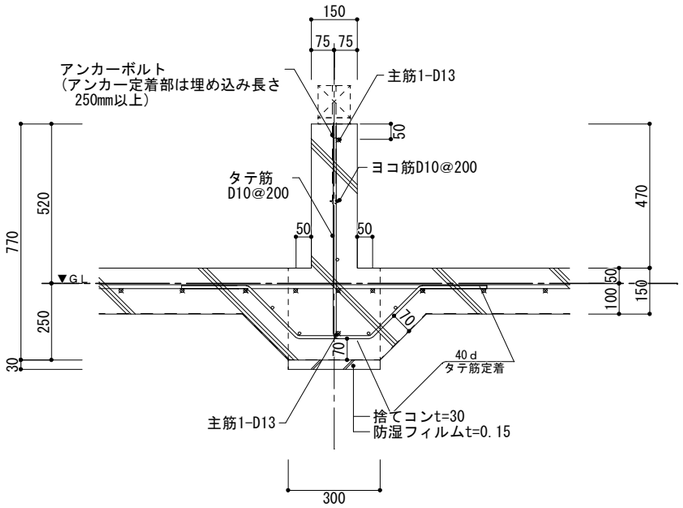
基礎伏図

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種別	岐南3区画 厩舎1-31(33)	図面番号	W3-1／W3-32
縮尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設計室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

FG1　断面詳細図

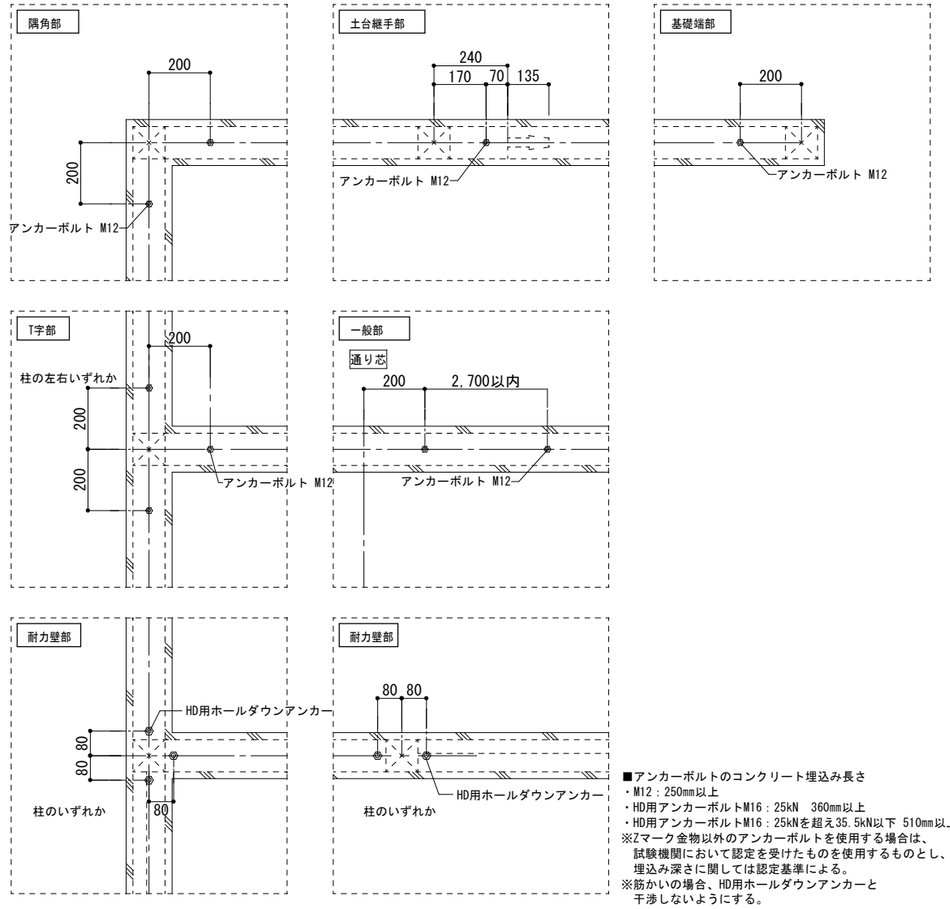


FG2　断面詳細図



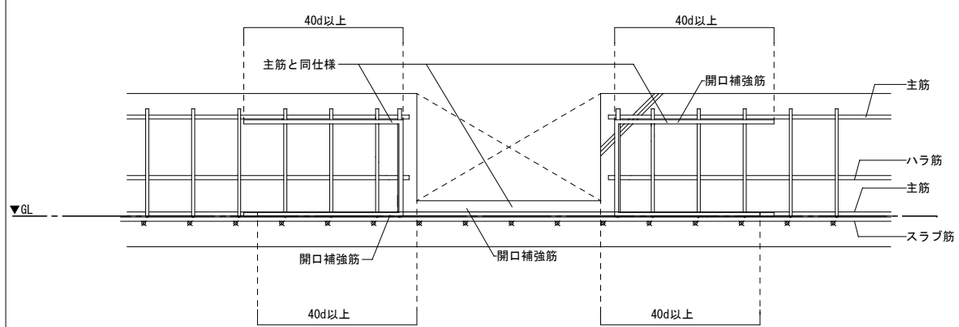
アンカーボルト設置位置

在来工法

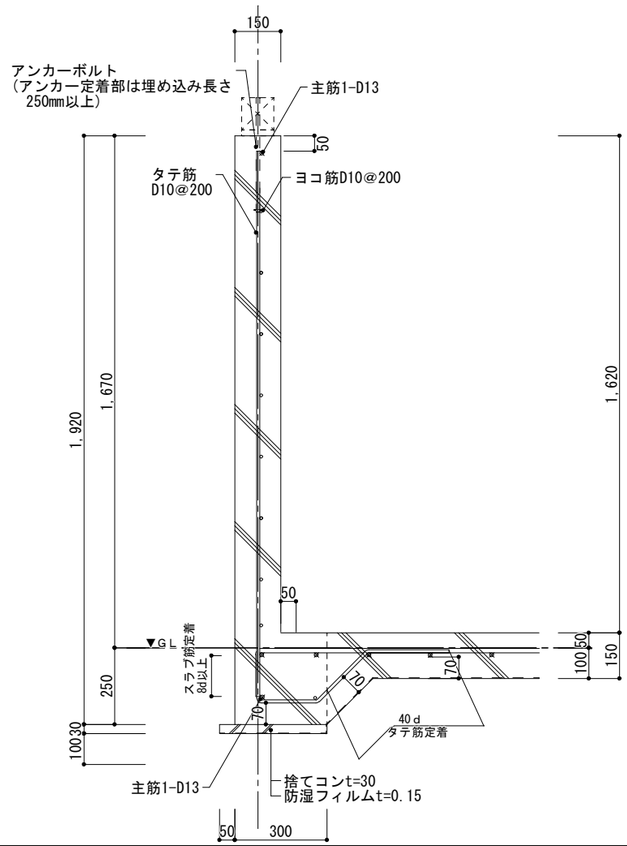


■アンカーボルトのコンクリート埋込み長さ
・M12：250mm以上
・HD用アンカーボルトM16：25kN　360mm以上
・HD用アンカーボルトM16：25kNを超え35.5kN以下 510mm以上
※Zマーク金物以外のアンカーボルトを使用する場合は、
　試験機関において認定を受けたものを使用するものとし、
　埋込み深さに関しては認定基準による。
※筋かいの場合、HD用ホールダウンアンカーと
　干渉しないようにする。

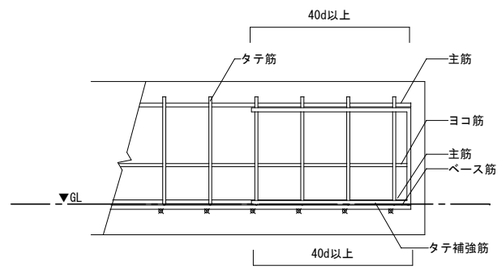
開口補強



FG1+1150　断面詳細図



端部補強

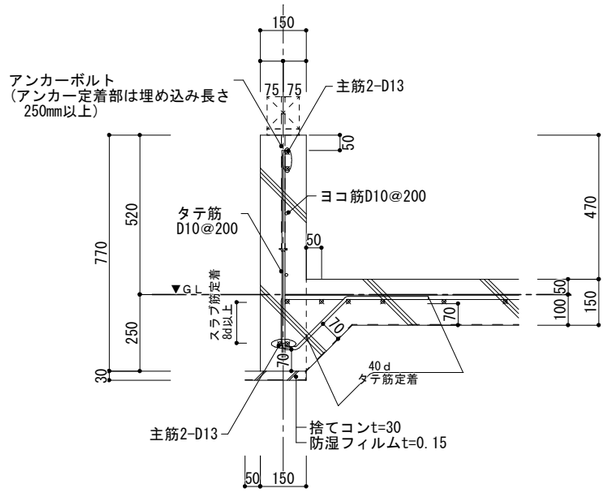


■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき　定着
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

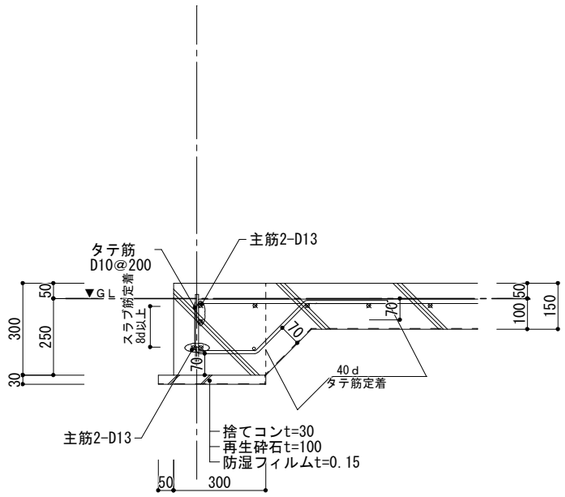
岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種　別	岐南3区画 厩舎1-31(33)	図面番号	W3-2／W3-32
縮　尺	1/20	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

基礎標準図 1

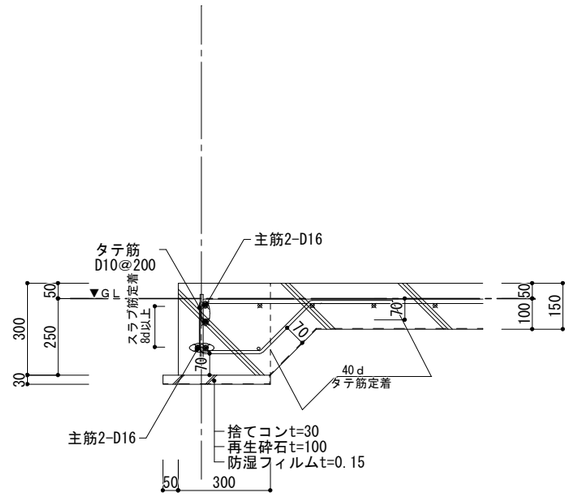
FG3　断面詳細図



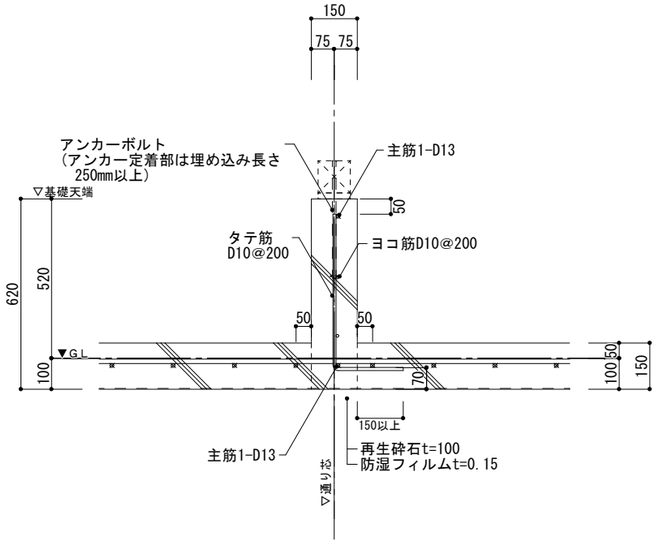
FG4　断面詳細図



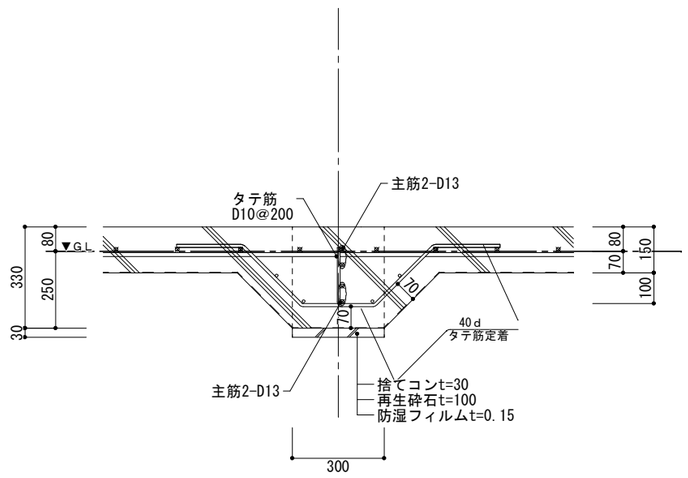
FG5　断面詳細図



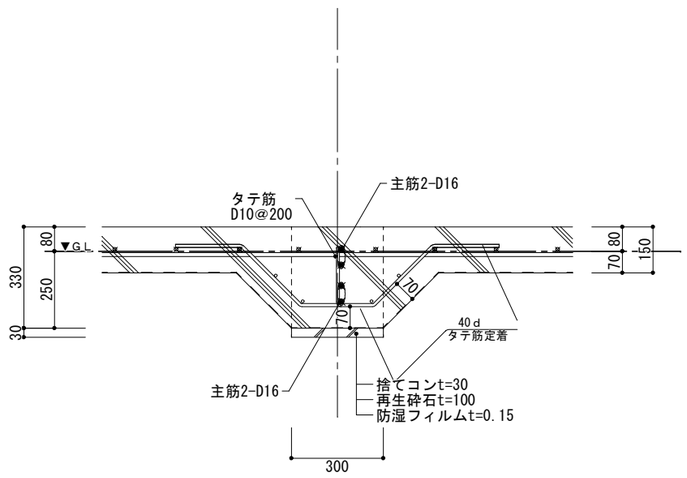
FG6　断面詳細図



FG7　断面詳細図



FG8　断面詳細図

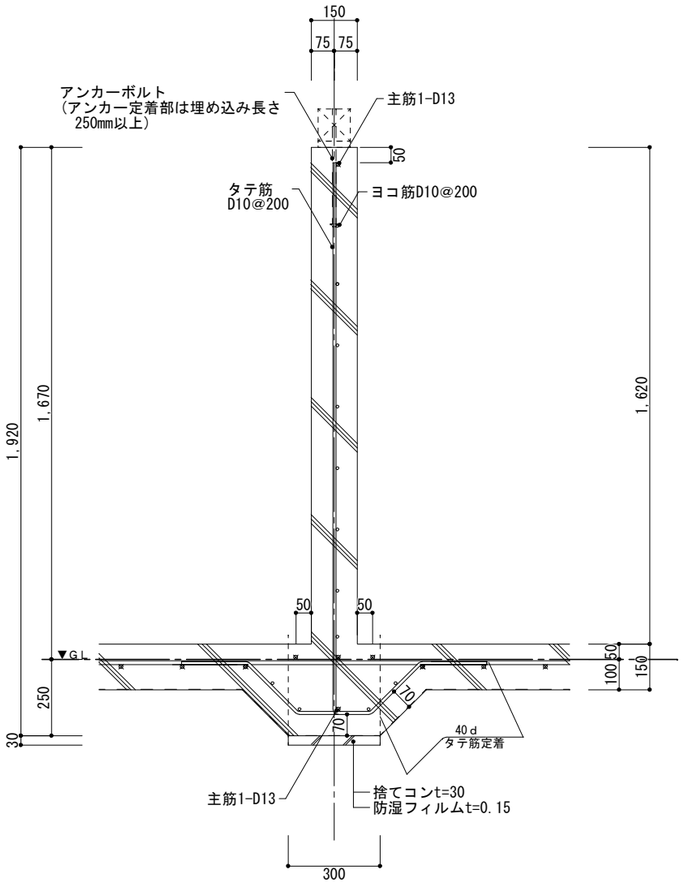


■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき　定着
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

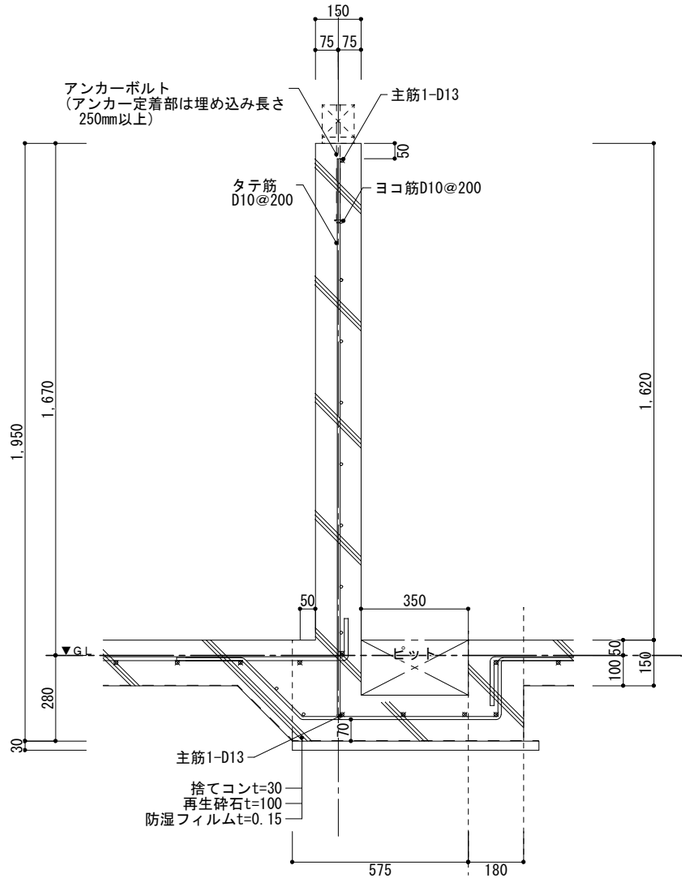
基 礎 標 準 図 2

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 厩舎1-31(33)	図面番号	W3-3／W3-32
縮　尺	1/20	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設 計 室 有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

FG2+1150　断面詳細図

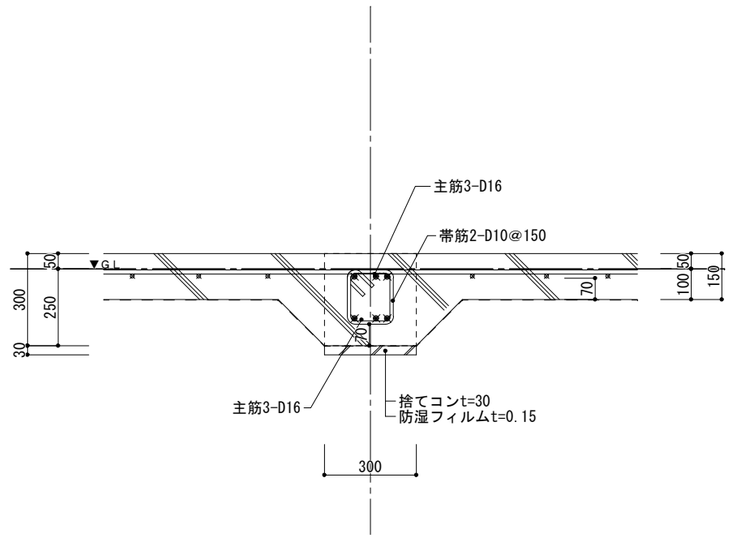


FG2+1150（ピット部分）　断面詳細図



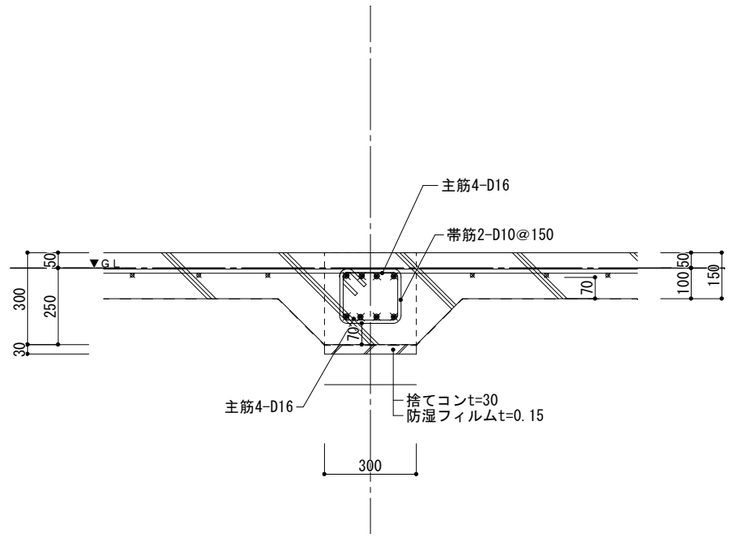
構造計算上はFG2+1150と同様の高さとして計算

FG9　断面詳細図



■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

FG10　断面詳細図

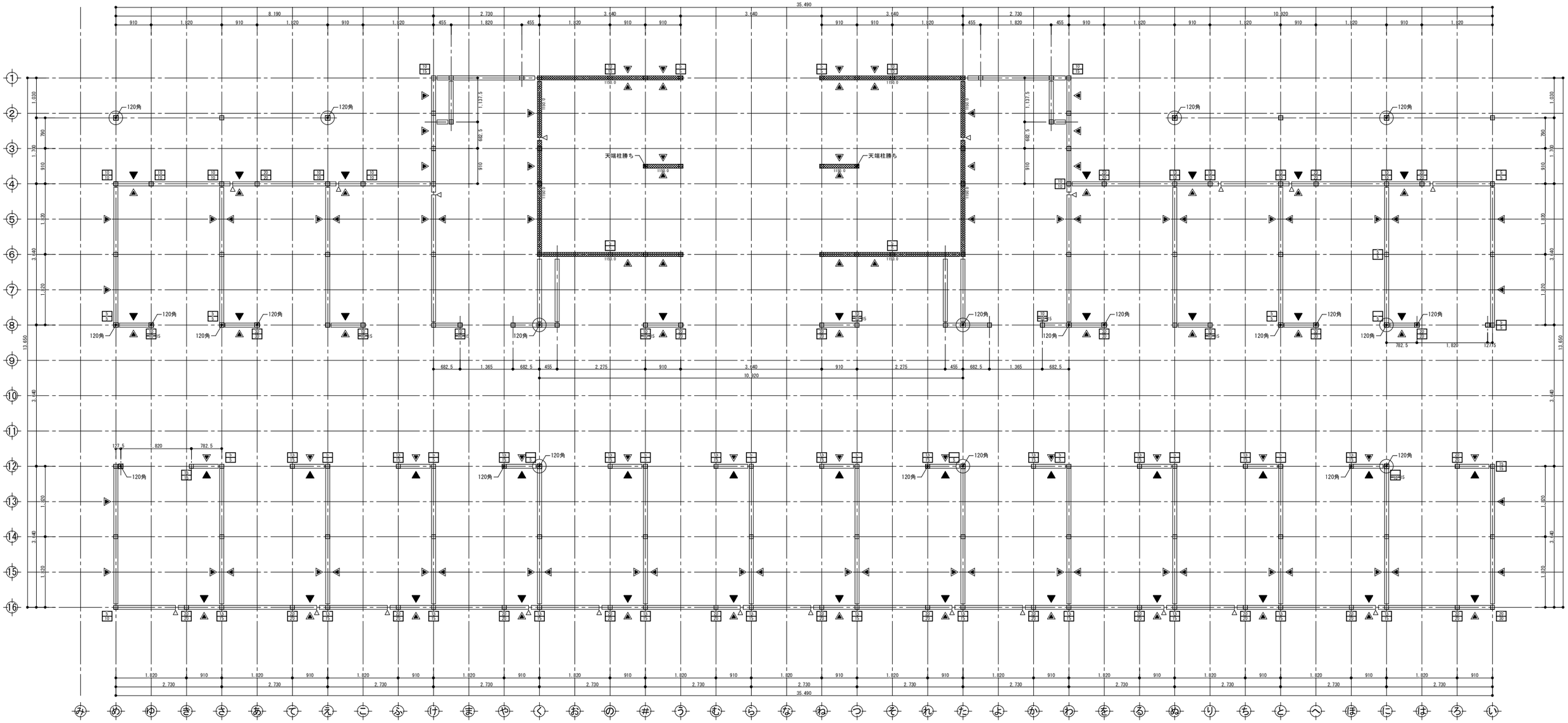


■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき　定着
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種　別	岐南3区画 厩舎1-31(33)	図面番号	W3-4／W3-32
縮　尺	1/20	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設計室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

基礎標準図3



凡例

記号	軸組の構造	倍率
上◺下	木材 厚さ45×幅90 以上	2.0
⋈	木材 厚さ45×幅90 以上 ﾀﾞﾌﾞﾙ	4.0
▽	構造用合板、構造用ﾊﾟﾈﾙ、構造用MDF、構造用PB t=9 大壁 （くぎN50 内外周@150以下、受材30×40以上N75@200以下）	2.5
▽	構造用合板、構造用ﾊﾟﾈﾙ、構造用MDF、構造用PB t=9 真壁 （くぎN50 内外周@150以下、受材30×40以上N75@300以下）	2.5
▼	構造用合板t=9 大壁告示高倍率 （くぎCN50 外@75以下、中@150以下、受材30×60以上N75@120以下）	3.7
▽	構造用合板t=9 真壁告示高倍率 （くぎCN50 外@75以下、中@150以下、受材30×40以上N75@200以下）	3.3

※鉛直構面検討時の耐力壁の足し合わせは、7倍を上限とする。
※柱頭柱脚接合部引抜力算定時は足し合わせた倍率とする。

柱・柱頭柱脚金物

□	管柱 105×105（ほぞ 30×88）	20	柱脚柱頭金物 HD20同等以上
⊡	1～2階 通柱 120×120（ほぞ 30×88）	25	柱脚柱頭金物 HD25同等以上
5	柱脚柱頭金物 HDC5kN同等以上	30	柱脚柱頭金物 HD30同等以上
10	柱脚柱頭金物 HD10同等以上	40	柱脚柱頭金物 HD40同等以上
15	柱脚柱頭金物 HD15同等以上		

※特記なき柱の柱脚柱頭は、かすがい同等以上で接合する。
※梁受け金物と干渉する柱頭柱脚金物は、ホゾパイプとする。
※下階柱頭と上階柱脚の金物を直接緊結する場合は、上下階で引張耐力の大きい金物に合わせて同じ金物を使用する。

横架材

▭	土台（K3防腐防蟻処理）	⌈⌉⌈⌉	大引
⊠	継手		

備考

GLより1mの範囲は塗布にて防腐防蟻処理を行う。

特記なき土台は、天端を±0（FL-**）とする。

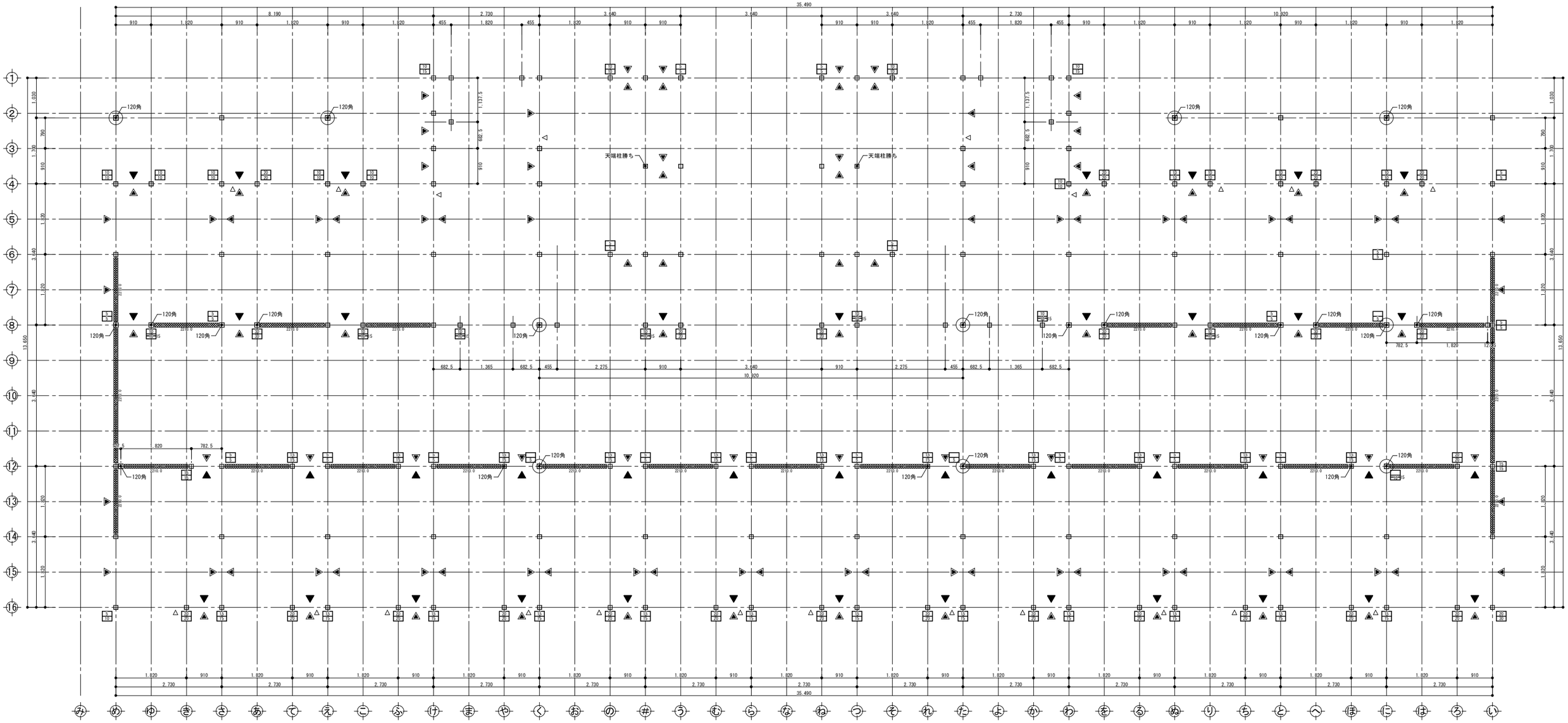
標準部材リスト(1階)

部材名	樹種	寸法	材料 等級
管柱1階	スプルース	105×105	同一等級構成集成材 E95-F315
土台	べいまつ	105×105	無等級材
大引	ひのき	105×105	無等級材

特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

1 階 床伏図

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種別	岐南3区画 厩舎1-31(33)	図面番号	W3-5／W3-32
縮尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設計室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号 杉山 雅章 印		



凡例

記号	軸組の構造	倍率
上◺下	木材 厚さ45×幅90 以上	2.0
⋈	木材 厚さ45×幅90 以上 ﾀﾞﾌﾞﾙ	4.0
▼	構造用合板、構造用ﾊﾟﾈﾙ、構造用MDF、構造用PB t=9 大壁 （くぎN50 内外周@150以下、受材30×40以上N75@200以下）	2.5
▽	構造用合板、構造用ﾊﾟﾈﾙ、構造用MDF、構造用PB t=9 真壁 （くぎN50 内外周@150以下、受材30×40以上N75@300以下）	2.5
▲	構造用合板t=9 大壁告示高倍率 （くぎCN50 外@75以下、中@150以下、受材30×60以上N75@120以下）	3.7
△	構造用合板t=9 真壁告示高倍率 （くぎCN50 外@75以下、中@150以下、受材30×40以上N75@200以下）	3.3

※鉛直構面検討時の耐力壁の足し合わせは、7倍を上限とする。
※柱頭柱脚接合部引抜力算定時は足し合わせた倍率とする。

柱・柱頭柱脚金物

□	管柱 105×105（ほぞ 30×88）	20	柱脚柱頭金物 HD20同等以上
◎	1～2階 通柱 120×120（ほぞ 30×88）	25	柱脚柱頭金物 HD25同等以上
5	柱脚柱頭金物 HDC5kN同等以上	30	柱脚柱頭金物 HD30同等以上
10	柱脚柱頭金物 HD10同等以上	40	柱脚柱頭金物 HD40同等以上
15	柱脚柱頭金物 HD15同等以上		

※特記なき柱の柱脚柱頭は、かすがい同等以上で接合する。
※梁受け金物と干渉する柱頭柱脚金物は、ホゾパイプとする。
※下階柱頭と上階柱脚の金物を直接緊結する場合は、上下階で引張耐力の大きい金物に合わせて同じ金物を使用する。

横架材

▭	土台（K3防腐防蟻処理）	⌈⌉⌈⌉	大引
⊠	継手		

備考

GLより1mの範囲は塗布にて防腐防蟻処理を行う。

特記なき土台は、天端を±0（FL-**）とする。

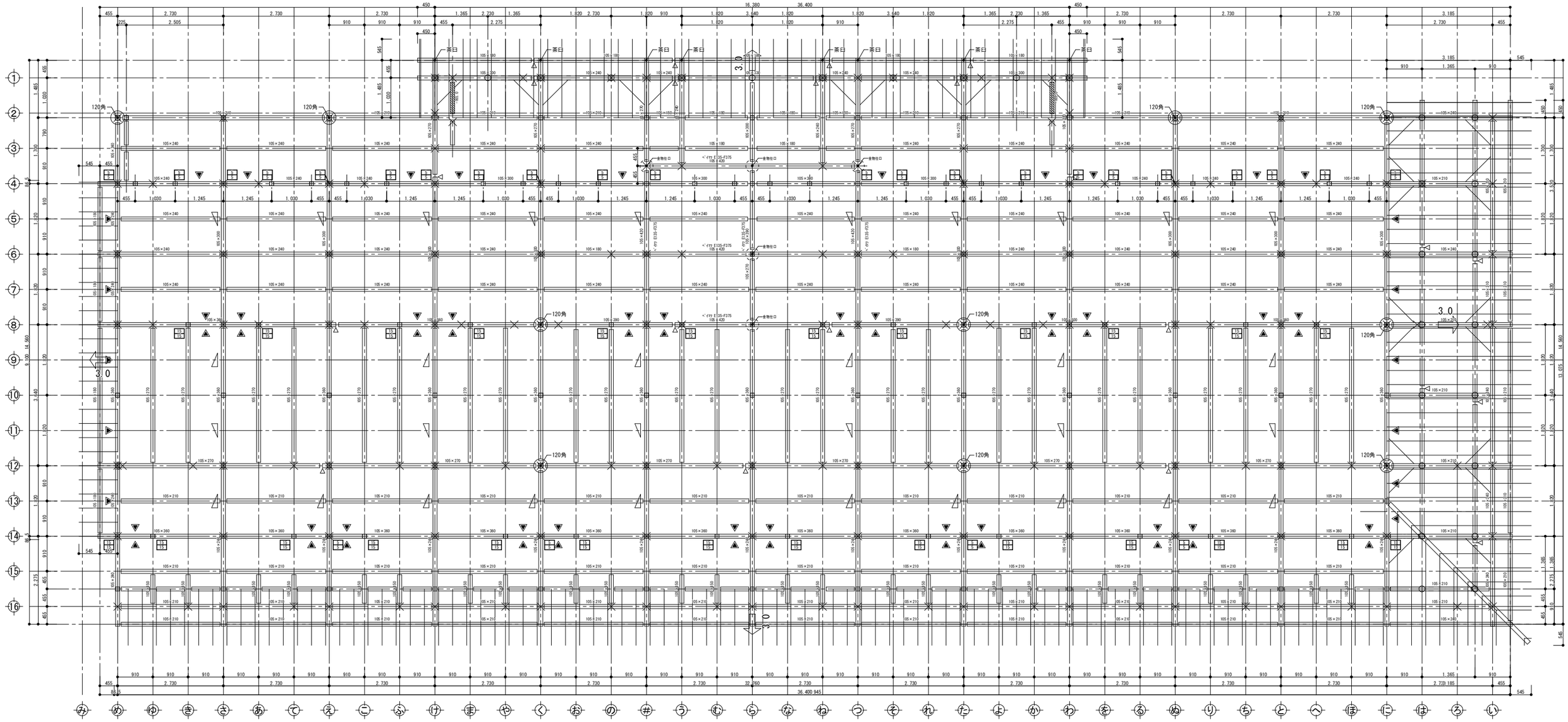
標準部材リスト(1階)

部材名	樹種	寸法	材料 等級
管柱1階	すぎ	105×105	同一等級構成集成材 E65-F255
土台	ひのき	105×105	無等級材
大引	ひのき	105×105	無等級材

特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。

1 階 床伏図 （+2210）

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種別	岐南3区画 厩舎1-31(33)	図面番号	W3-6／W3-32
縮尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設計室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号 杉山 雅章 印		



凡例

記号	軸組の構造	倍率
上◺下	木材 厚さ45×幅90 以上	2.0
⋈	木材 厚さ45×幅90 以上 ﾀﾞﾌﾞﾙ	4.0
▼	構造用合板、構造用ﾊﾟﾈﾙ、構造用MDF、構造用PB t=9 大壁 （くぎN50 内外周@150以下、受材30×40以上N75@200以下）	2.5
▽	構造用合板、構造用ﾊﾟﾈﾙ、構造用MDF、構造用PB t=9 真壁 （くぎN50 内外周@150以下、受材30×40以上N75@300以下）	2.5
▼	構造用合板t=9 大壁告示高倍率 （くぎCN50 外@75以下、中@150以下、受材30×60以上N75@120以下）	3.7
▽	構造用合板t=9 真壁告示高倍率 （くぎCN50 外@75以下、中@150以下、受材30×40以上N75@200以下）	3.3

※鉛直構面検討時の耐力壁の足し合わせは、7倍を上限とする。
※柱頭柱脚接合部引抜力算定時は足し合わせた倍率とする。

柱・柱頭柱脚金物

□	管柱 105×105（ほぞ 30×88）	20	柱脚柱頭金物 HD20同等以上
⊡	1～2階 通柱 120×120（ほぞ 30×88）	25	柱脚柱頭金物 HD25同等以上
5	柱脚柱頭金物 HDC5kN同等以上	30	柱脚柱頭金物 HD30同等以上
10	柱脚柱頭金物 HD10同等以上	40	柱脚柱頭金物 HD40同等以上
15	柱脚柱頭金物 HD15同等以上		

※特記なき柱の柱脚柱頭は、かすがい同等以上で接合する。
※梁受け金物と干渉する柱頭柱脚金物は、ホゾパイプとする。
※下階柱頭と上階柱脚の金物を直接緊結する場合は、上下階で引張耐力の大きい金物に合わせて同じ金物を使用する。

横架材

▭	梁	╳	下階柱
⬚	合板受材	⏢	登梁
╲	木製火打	╲	鋼製火打
▽	継手		

横架材接合部凡例

		Ta(kN)
B	大入蟻掛+羽子板ボルト又は腰掛鎌継+短冊金物	10.1
C	大入蟻掛+羽子板ボルト×2又は腰掛鎌継+短冊金物×2	15.9

特記なき横架材接合部はA:羽子板ボルト又は短冊金物(Ta=7.5kN)とする。

水平構面

凡例	種類	水平構面の仕様 受材等	⊿Qa (kN/m)
▭	床構面	構造用合板t=24～30 N75@150以下四周釘打ち 受材 45×45以上@1000以下	7.84

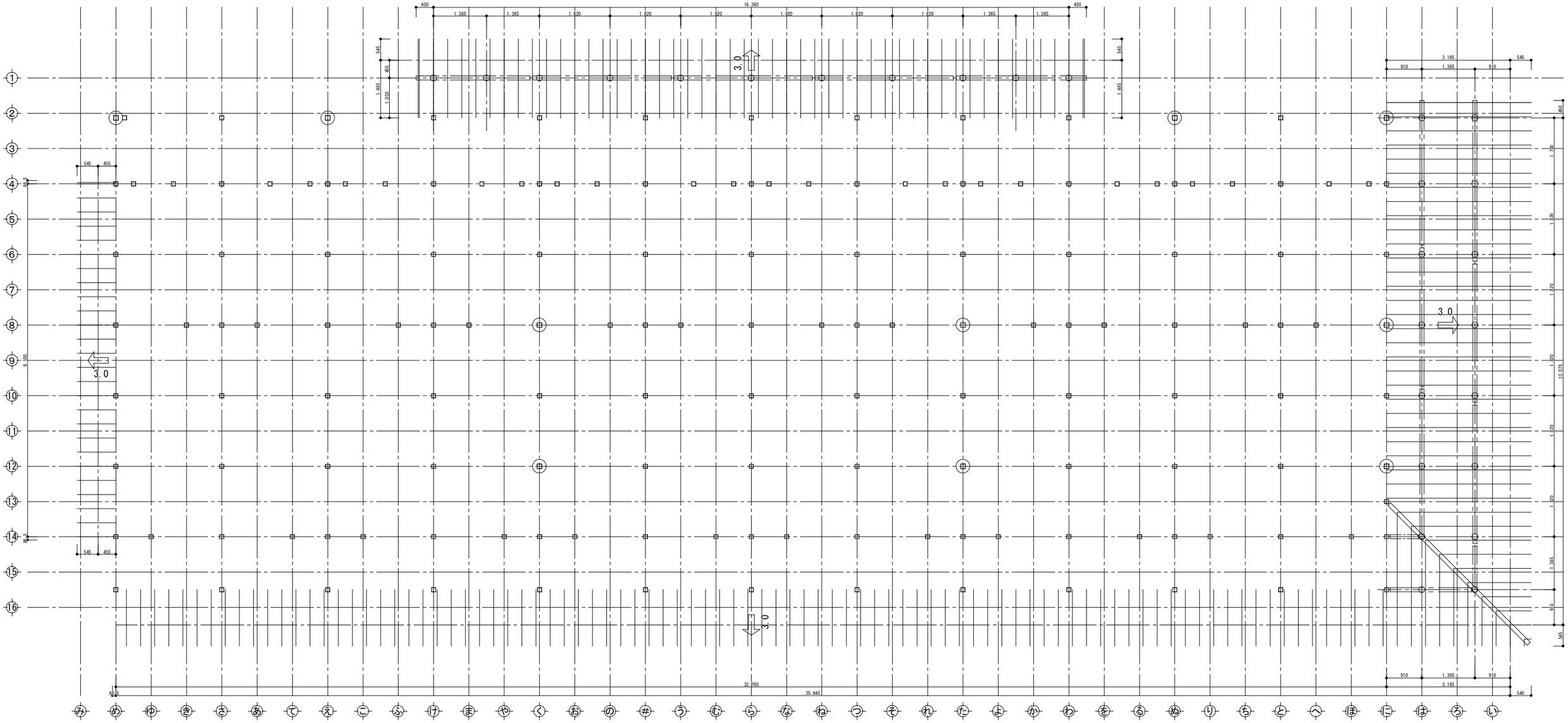
標準部材リスト(2階)

部材名	樹種	寸法	材料 等級
管柱2階	スプルース	105×105	同一等級構成集成材 E95-F315
梁2階	ｵｳｼｭｳｱｶﾏﾂ	105×105	対称異等級構成集成材 E105-F300

特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

2 階 床 伏 図

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種 別	岐南3区画 厩舎1-31(33)	図面番号	W3-7／W3-32
縮 尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号 杉山 雅章 印		



横架材・束			
○	小屋束	╳	下階柱
▭	棟木	⊏⊐	母屋
⊏⊐	合板受材	⏢	登梁
╳ ▽ ⊏⊐ 凡 例	継手	———	垂木

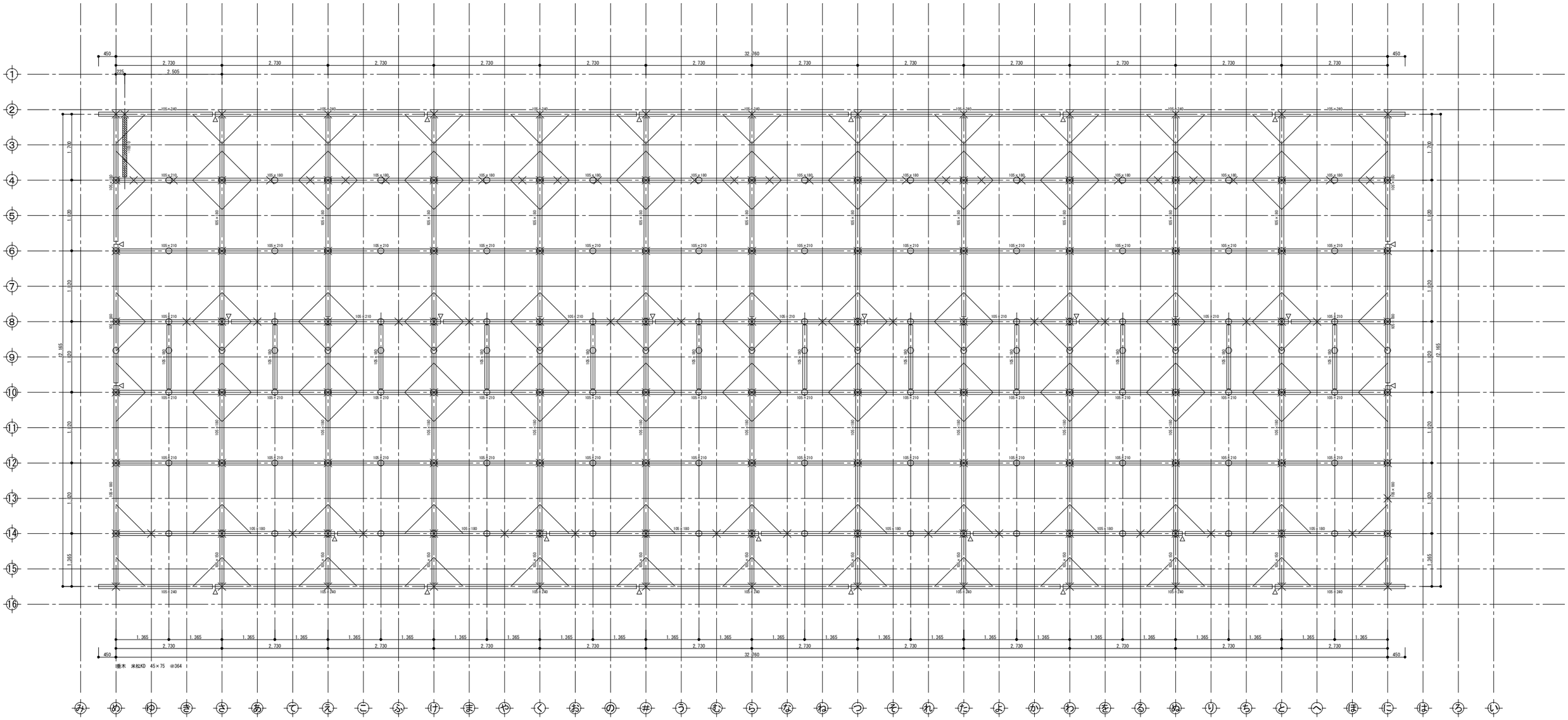
水平構面			
凡例	種類	水平構面の仕様 受材等	⊿Qa (kN/m)
▭	屋根構面	構造用合板t=9～15　N50@150以下（30度以下） 垂木45×45以上@500以下　転ばし	1.37

屋根
野地板： 構造用合板t=12
垂木-軒桁接合部:ひねり金物ST-12(4-ZN40)同等以上　垂木-母屋接合部:タルキックⅡ
屋根：ガルバリウム鋼板t=0.35　立平ぶき　吊子間隔225mm
屋根ふき材は令39条2項、昭46建告109の構造による

標準部材リスト(屋根)			
部材名	樹種	寸法	材料　等級
母屋	すぎ	105×105	無等級材
棟木	すぎ	105×105	無等級材
隅木・谷木	すぎ	105×105	無等級材
登梁	ｵｳｼｭｳｱｶﾏﾂ	105×105	対称異等級構成集成材 E105-F300
小屋束	スプルース	105×105	同一等級構成集成材 E95-F315
垂木	べいまつ	45×75@364	無等級材
特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。 樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする			

1 階 屋 根 伏 図

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 厩舎1-31(33)	図面番号	W3-8／W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		



横架材			
	梁		下階柱
	合板受材		登梁
	木製火打		鋼製火打
	継手		

横架材接合部凡例		Ta(kN)
B	大入蟻掛+羽子板ボルト又は腰掛鎌継+短冊金物	10.1
C	大入蟻掛+羽子板ボルト×2又は腰掛鎌継+短冊金物×2	15.9
特記なき横架材接合部はA:羽子板ボルト又は短冊金物(Ta=7.5kN)とする。		

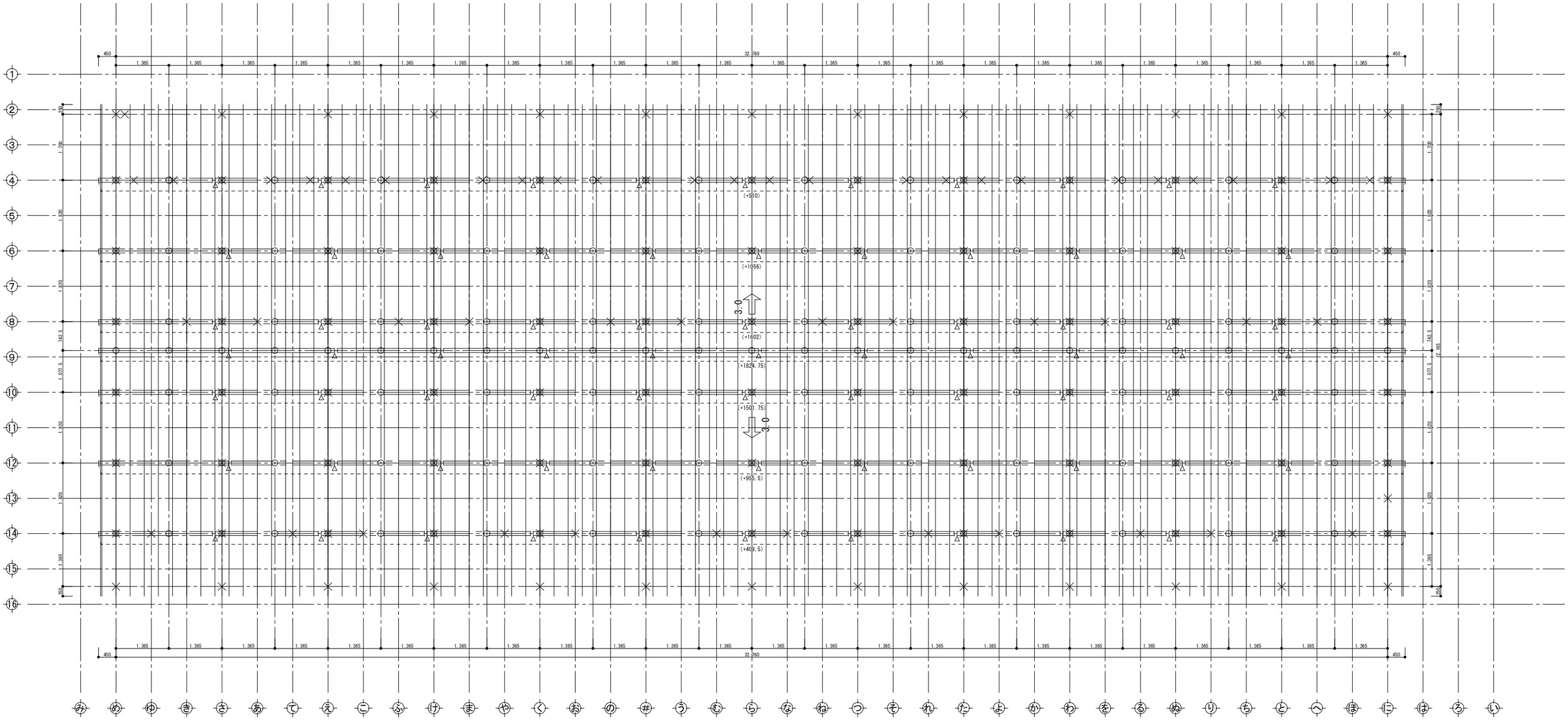
標準部材リスト(小屋階)

部材名	樹種	寸法	材料　等級
小屋梁	ｵｳｼｭｳｱｶﾏﾂ	105×105	対称異等級構成集成材 E105-F300

特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

小屋伏図

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎(岐南第3区画)新築工事		
種別	岐南3区画 厩舎1-31(33)	図面番号	W3-9／W3-32
縮尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設計室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		



横架材・束

○	小屋束	╳	下階柱
▭	棟木	▭	母屋
▭	合板受材	⏢	登梁
╳	継手	─	垂木

水平構面

凡例	種類	水平構面の仕様 受材等	⊿Qa (kN/m)
▭	屋根構面	構造用合板t=9～15　N50@150以下（30度以下） 垂木45×45以上@500以下　転ばし	1.37

屋根

野地板： 構造用合板t=12

垂木-軒桁接合部:ひねり金物ST-12(4-ZN40)同等以上　垂木-母屋接合部:2-N75T同等以上

屋根：ガルバリウム鋼板t=0.35　立平ぶき　吊子間隔225mm

屋根ふき材は令39条2項、昭46建告109の構造による

標準部材リスト(屋根)

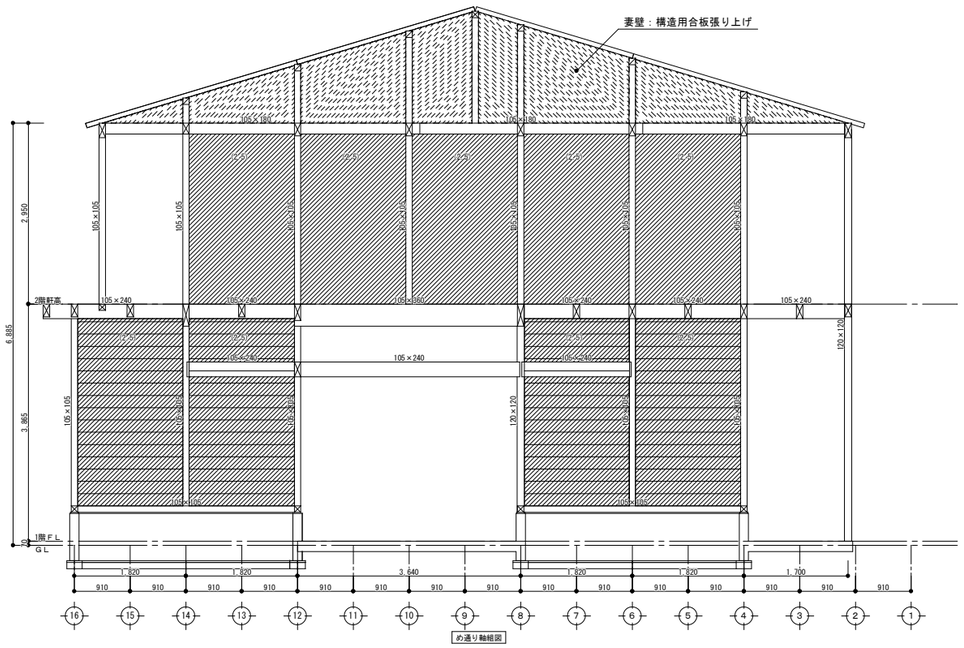
部材名	樹種	寸法	材料　等級
母屋	すぎ	105×105	無等級材
棟木	すぎ	105×105	無等級材
隅木・谷木	すぎ	105×105	無等級材
登梁	ｵｳｼｭｳｱｶﾏﾂ	105×105	対称異等級構成集成材 E105-F300
小屋束	スプルース	105×105	同一等級構成集成材 E95-F315
垂木	べいまつ	45×75@364	無等級材

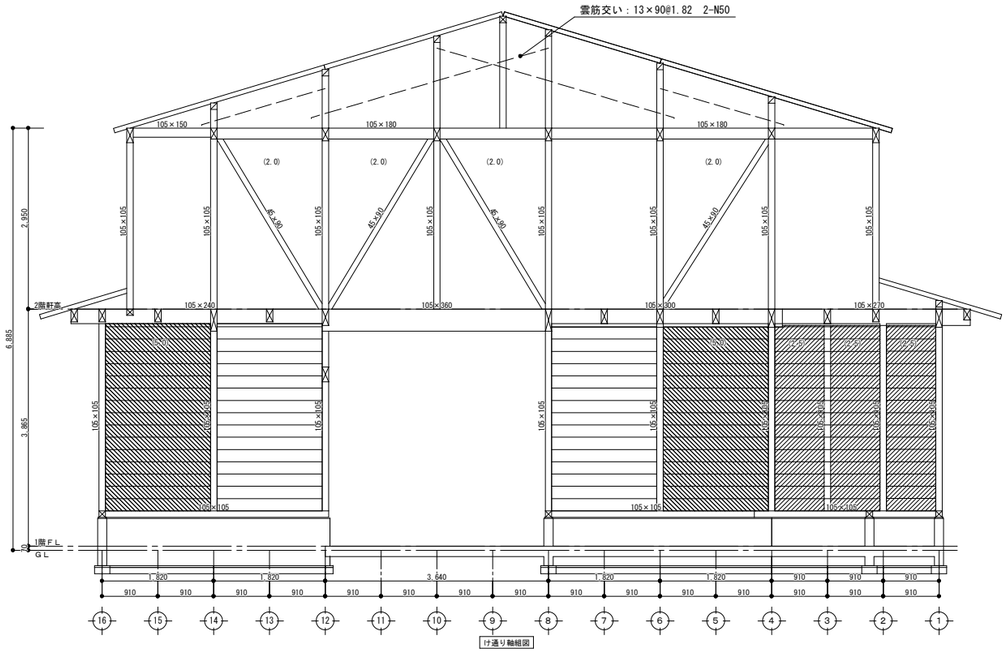
特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

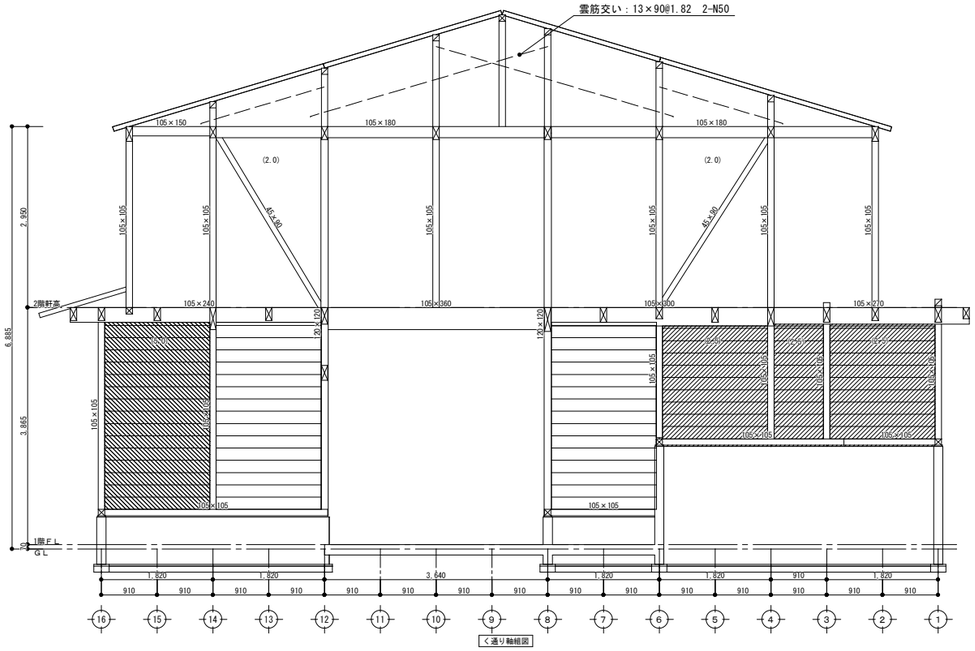
※界壁上、垂木二重（並列）にて配置

屋 根 伏 図

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 厩舎1-31(33)	図面番号	W3-10/ W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		



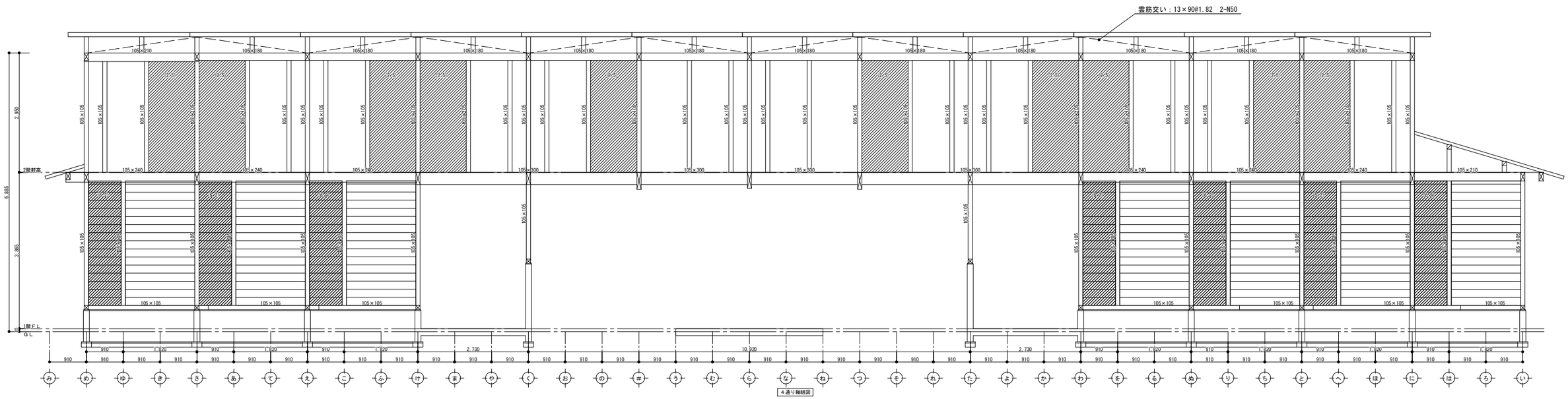


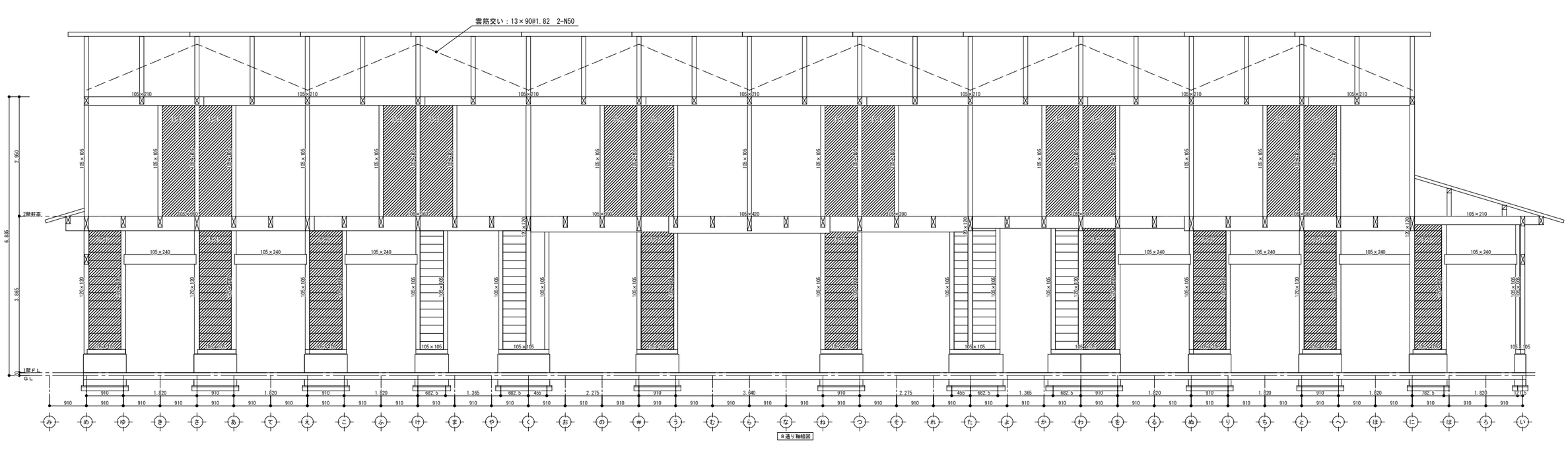


※特記なき柱は、105×105

軸 組 図

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 厩舎1-31(33)	図面番号	W3-11/ W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai　設　計　室　有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

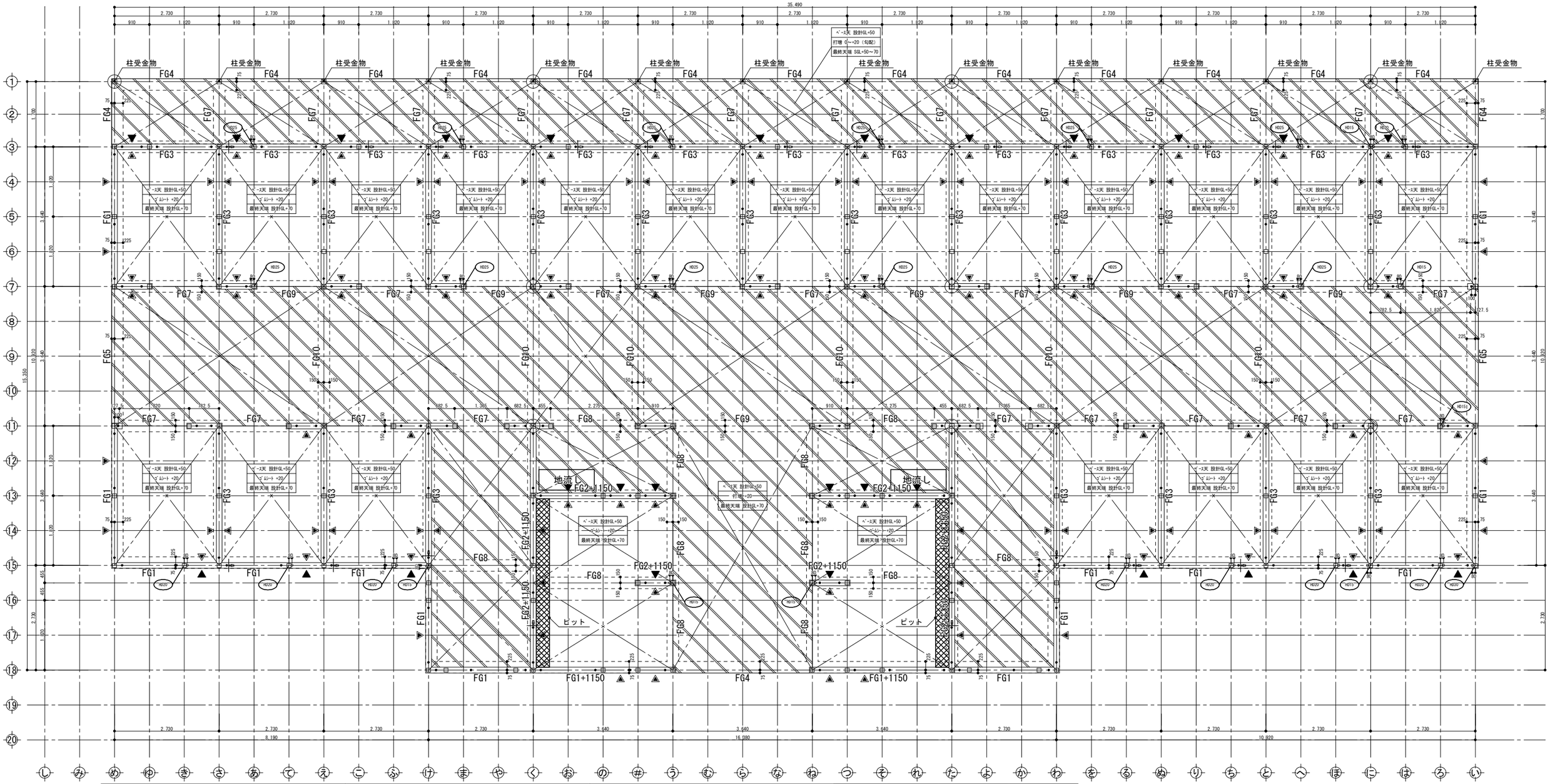




※特記なき柱は、105×105

軸 組 図 2

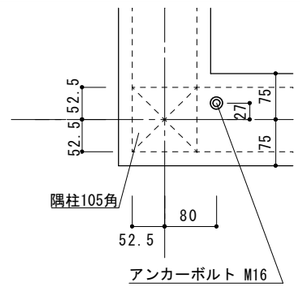
岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 厩舎1-31(33)	図面番号	W3-12/ W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設 計 室 有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		



凡例図

	ｺﾝｸﾘｰﾄ打増
75 600 235	床下人通口 (W:600・H:350)
	土台継手位置
●	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄM12　出115
○	ﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ金物用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄM16　出550 特記なき取付寸法はﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ取付平面詳細図による
HD**	柱脚金物

ﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ取付平面詳細図 S=1:10



※特記なきスラブはFS1とし、
　スラブ天端は設計GL+50とする。
※特記なき外周基礎はFG1とする。
※特記なき内周基礎はFG2とする。
※設計基準強度Fc=21
　強度補正は基礎標準仕様書による。

ｽﾗﾌﾞ配筋	厚(mm)	短辺方向		長辺方向	
		端部	中央	端部	中央
FS1	150	D13@200ｼﾝｸﾞﾙ		D13@200ｼﾝｸﾞﾙ	
FS2	150	D13@150ｼﾝｸﾞﾙ		D13@150ｼﾝｸﾞﾙ	
FS3	150	D13@100ｼﾝｸﾞﾙ		D13@100ｼﾝｸﾞﾙ	

特記

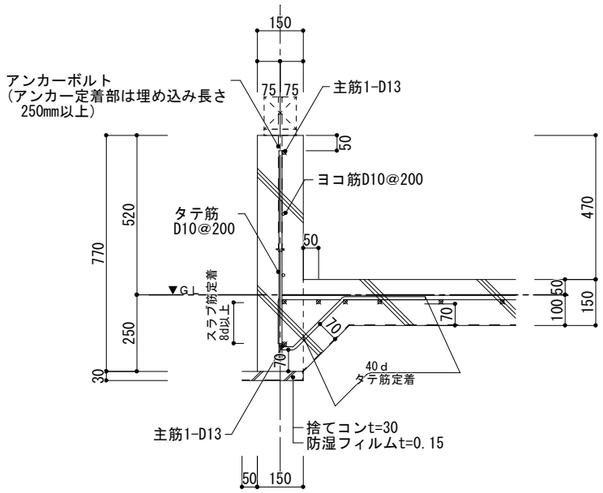
設計地耐力 20 kN/㎡

基礎の寸法 及び 配筋の検証方法	別添：ARCHITRENDZERO木造構造計算 『構造計算書』による。 具体的な寸法・配筋は基礎詳細図参照

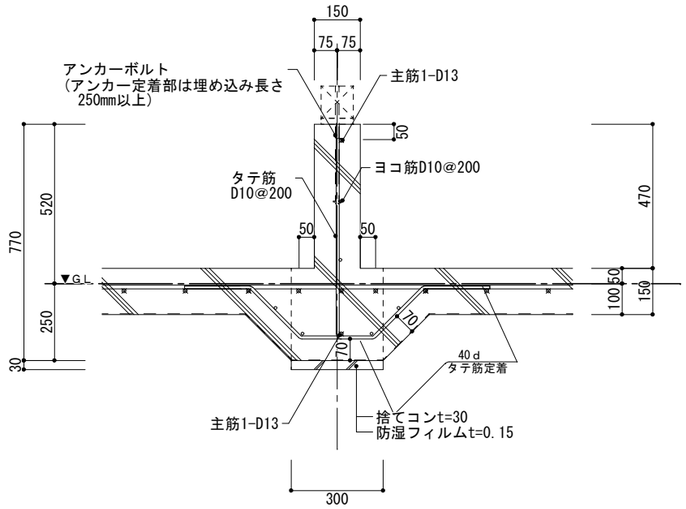
岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種別	岐南3区画 厩舎2-32	図面番号	W3-13/ W3-32
縮尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設計室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

基礎伏図

FG1　断面詳細図

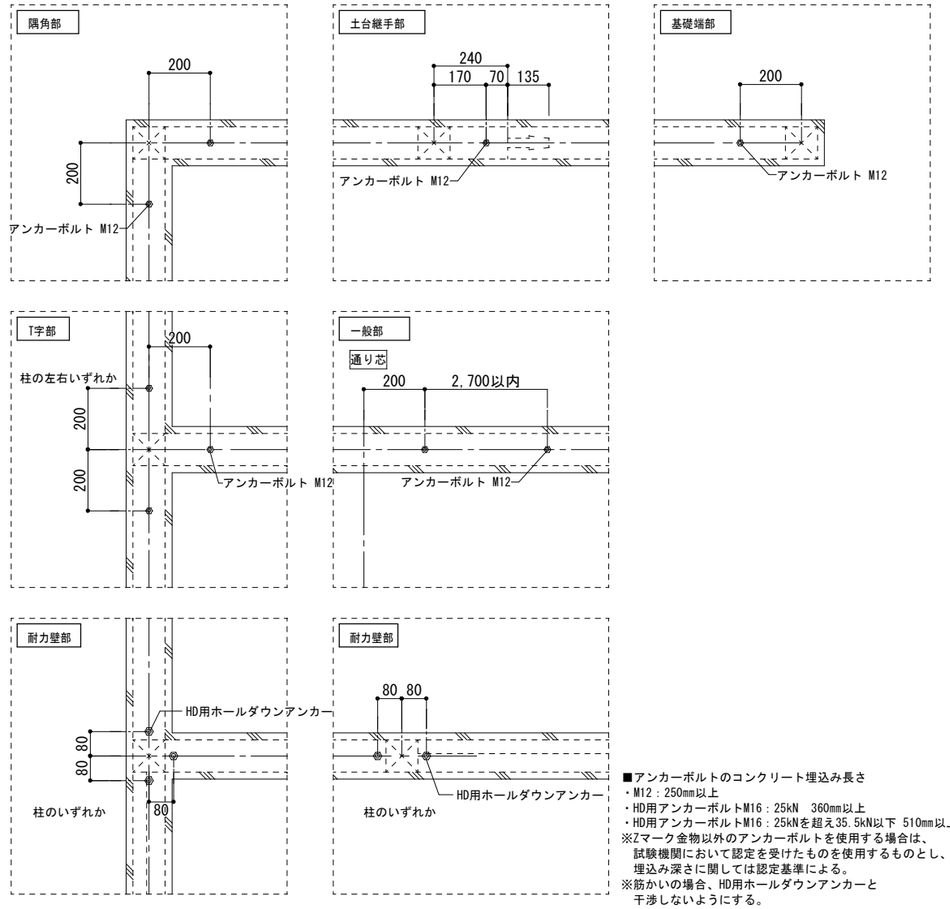


FG2　断面詳細図



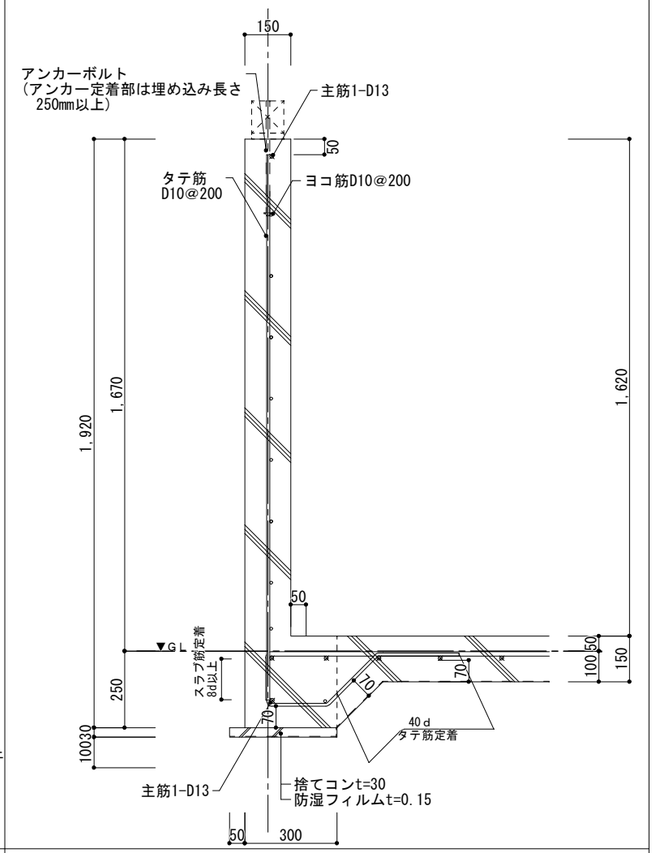
アンカーボルト設置位置

在来工法

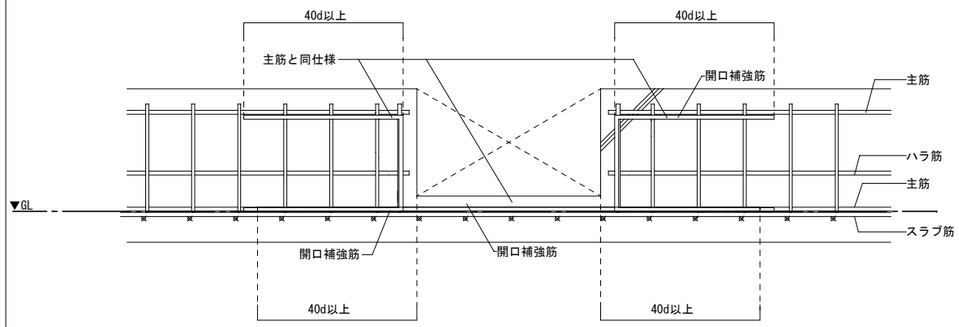


■アンカーボルトのコンクリート埋込み長さ
・M12：250mm以上
・HD用アンカーボルトM16：25kN　360mm以上
・HD用アンカーボルトM16：25kNを超え35.5kN以下 510mm以上
※Zマーク金物以外のアンカーボルトを使用する場合は、
試験機関において認定を受けたものを使用するものとし、
埋込み深さに関しては認定基準による。
※筋かいの場合、HD用ホールダウンアンカーと
干渉しないようにする。

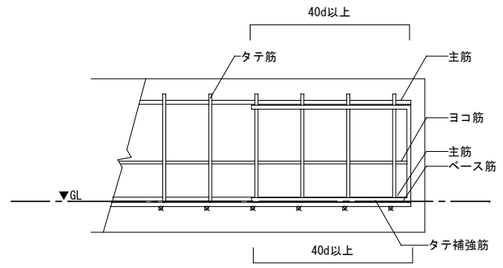
FG1+1150　断面詳細図



開口補強



端部補強

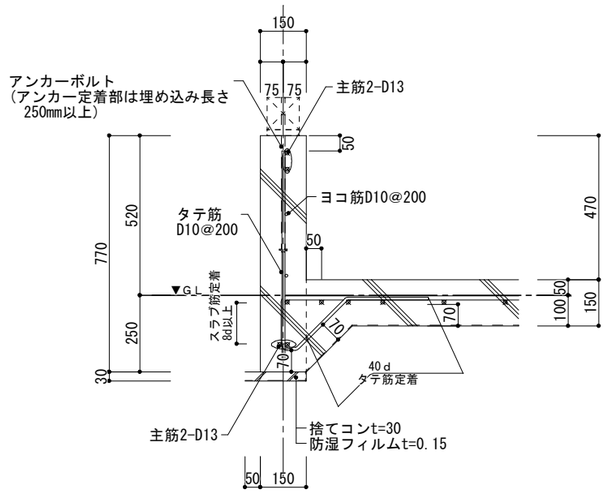


■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき　定着
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

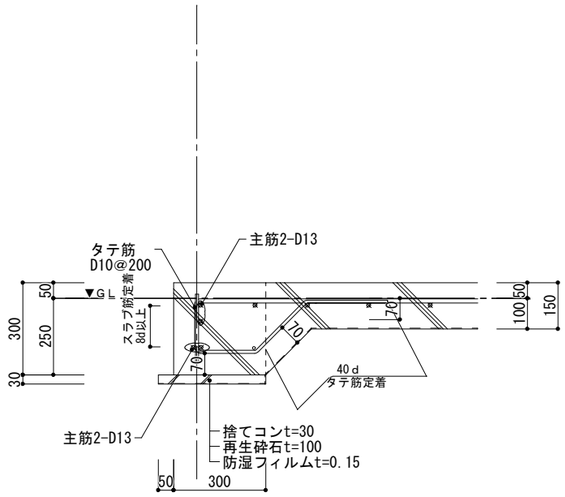
基 礎 標 準 図 1

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 厩舎2-32	図面番号	W3-14/W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

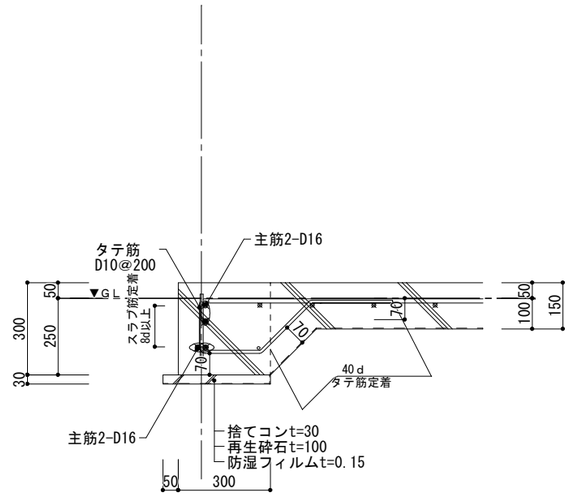
FG3　断面詳細図



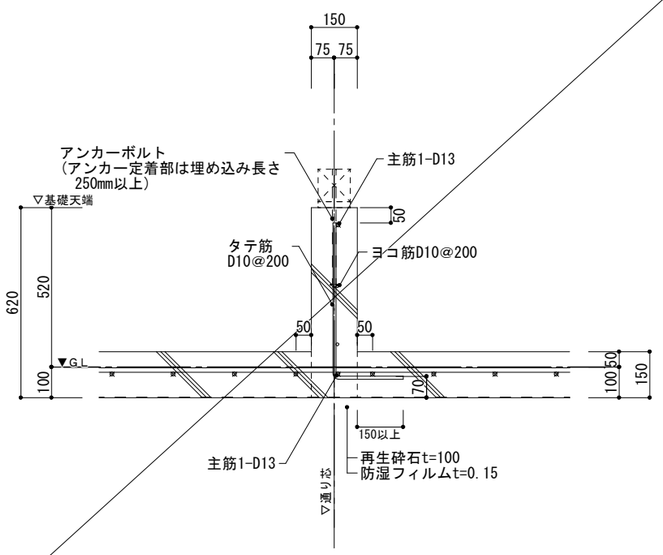
FG4　断面詳細図



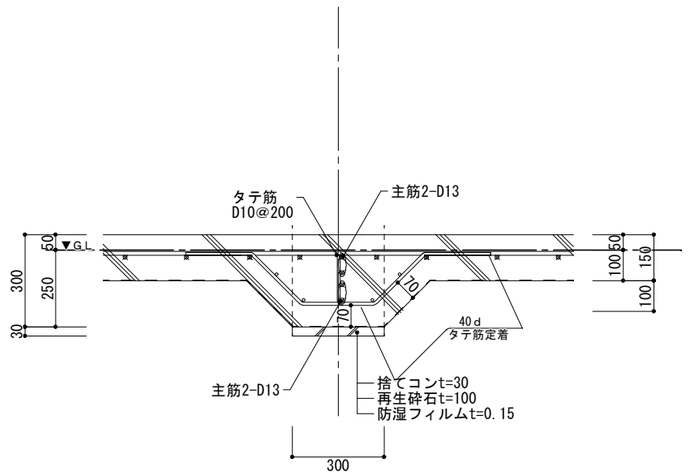
FG5　断面詳細図



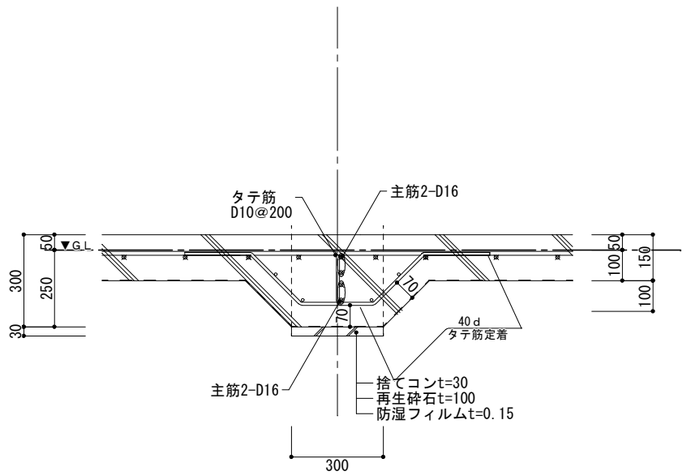
FG6　断面詳細図



FG7　断面詳細図



FG8　断面詳細図

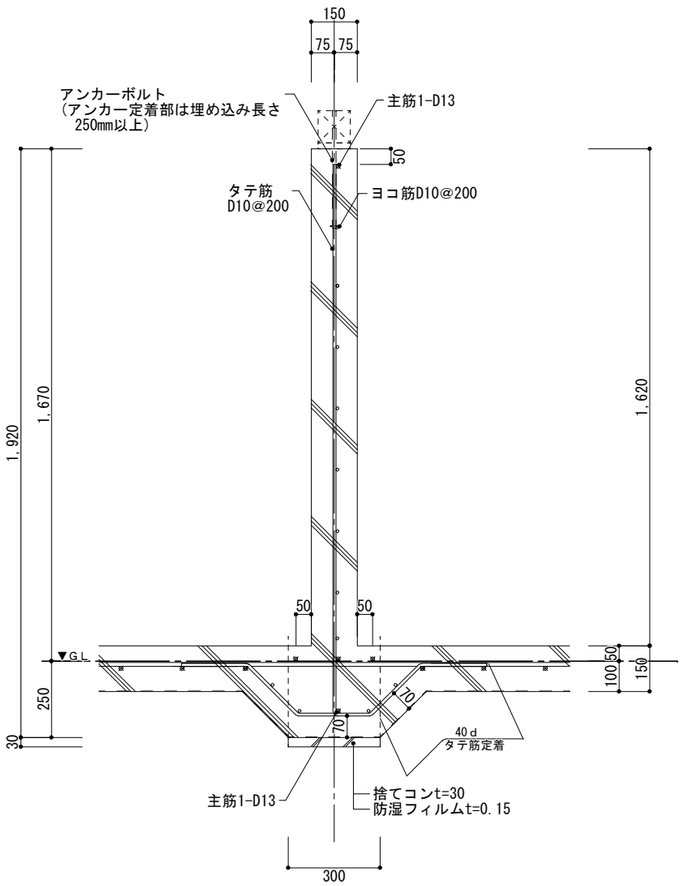


■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき　定着
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

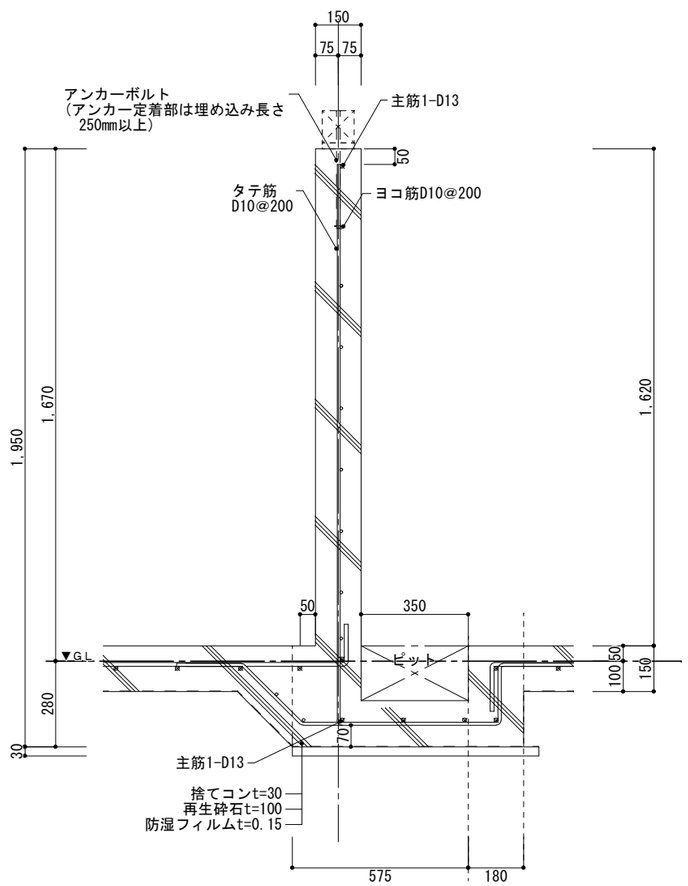
基 礎 標 準 図 2

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 厩舎2-32	図面番号	W3-15/ W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

FG2+1150　断面詳細図

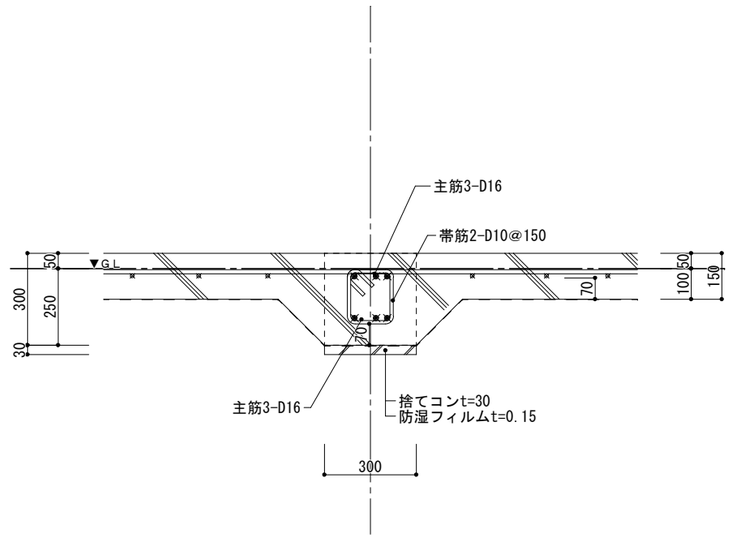


FG2+1150（ピット部分）　断面詳細図



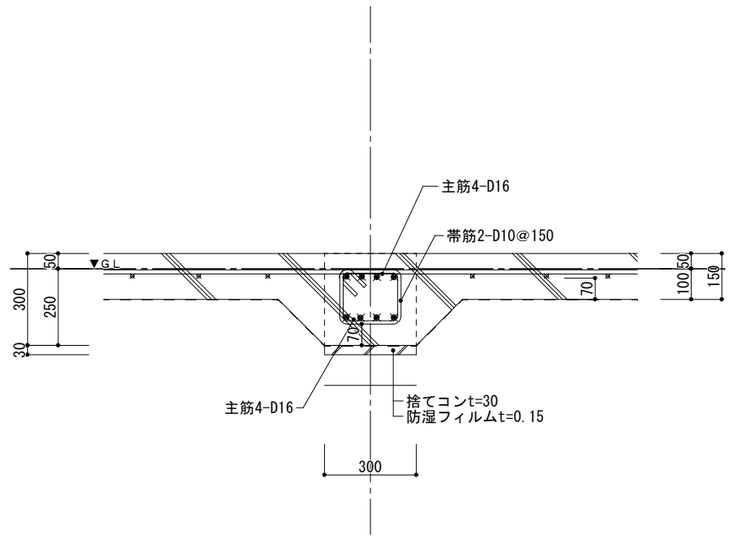
構造計算上はFG2+1150と同様の高さとして計算

FG9　断面詳細図



■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

FG10　断面詳細図

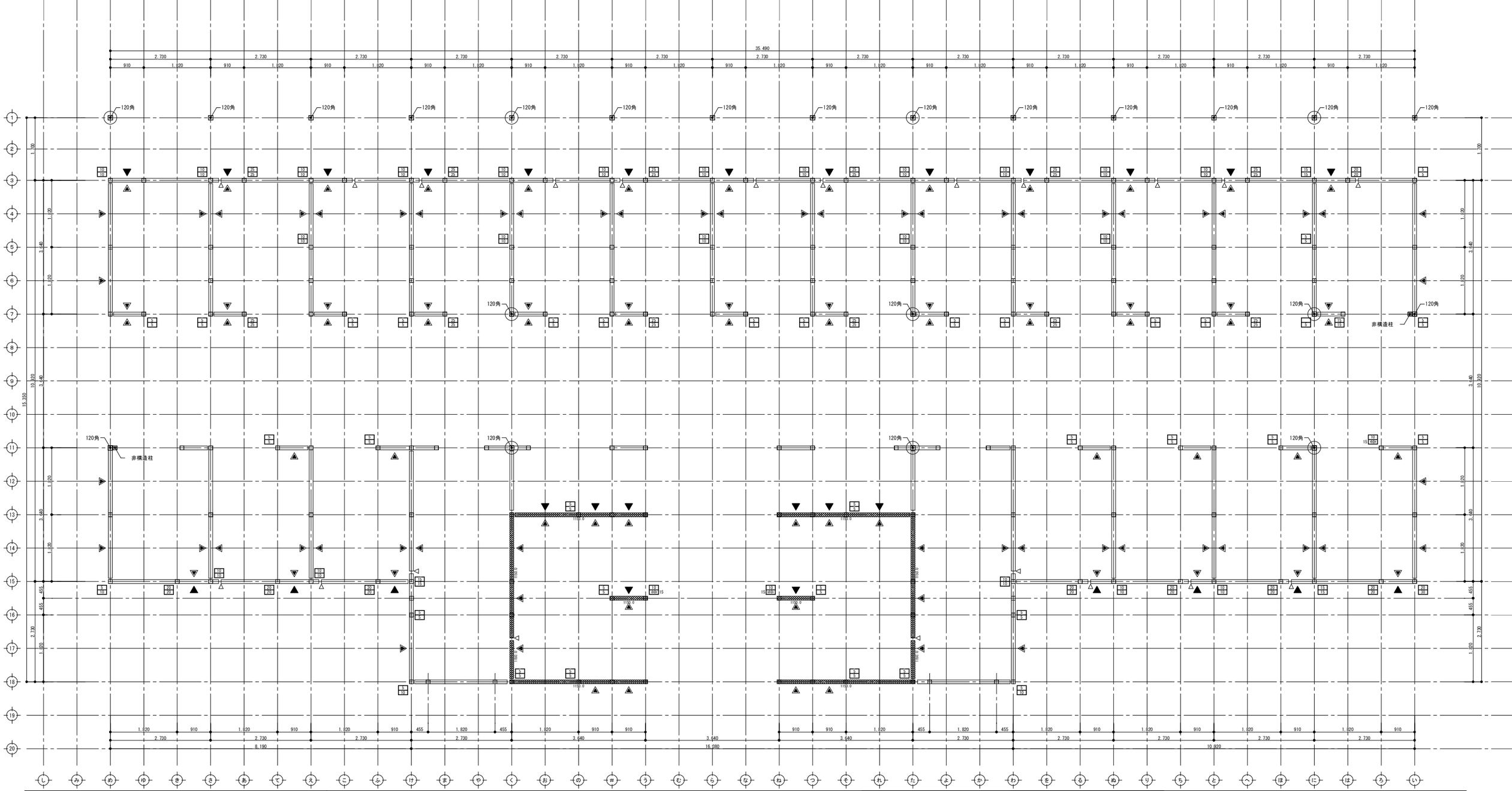


■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき　定着
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

基 礎 標 準 図 3

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 厩舎2-32	図面番号	W3-16/ W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		



凡例

記号	軸組の構造	倍率
上 下	木材 厚さ45×幅90 以上	2.0
	木材 厚さ45×幅90 以上 ﾀﾞﾌﾞﾙ	4.0
	構造用合板、構造用ﾊﾟﾈﾙ、構造用MDF、構造用PB t=9 大壁 （くぎN50 内外周@150以下、受材30×40以上N75@200以下）	2.5
	構造用合板、構造用ﾊﾟﾈﾙ、構造用MDF、構造用PB t=9 真壁 （くぎN50 内外周@150以下、受材30×40以上N75@300以下）	2.5
▼	構造用合板t=9 大壁告示高倍率 （くぎCN50 外@75以下、中@150以下、受材30×60以上N75@120以下）	3.7
	構造用合板t=9 真壁告示高倍率 （くぎCN50 外@75以下、中@150以下、受材30×40以上N75@200以下）	3.3

※鉛直構面検討時の耐力壁の足し合わせは、7倍を上限とする。
※柱頭柱脚接合部引抜力算定時は足し合わせた倍率とする。

柱・柱頭柱脚金物

□	管柱 105×105（ほぞ 30×88）	20	柱脚柱頭金物 HD20同等以上
◎	1～2階 通柱 120×120（ほぞ 30×88）	25	柱脚柱頭金物 HD25同等以上
5	柱脚柱頭金物 HDC5kN同等以上	30	柱脚柱頭金物 HD30同等以上
10	柱脚柱頭金物 HD10同等以上	40	柱脚柱頭金物 HD40同等以上
15	柱脚柱頭金物 HD15同等以上		

※特記なき柱の柱脚柱頭は、かすがい同等以上で接合する。
※梁受け金物と干渉する柱頭柱脚金物は、ホゾパイプとする。
※下階柱頭と上階柱脚の金物を直接緊結する場合は、上下階で引張耐力の大きい金物に合わせて同じ金物を使用する。

横架材

	土台（K3防腐防蟻処理）		大引
オス メス	継手		

備考

GLより1mの範囲は塗布にて防腐防蟻処理を行う。

特記なき土台は、天端を±0（FL-**）とする。

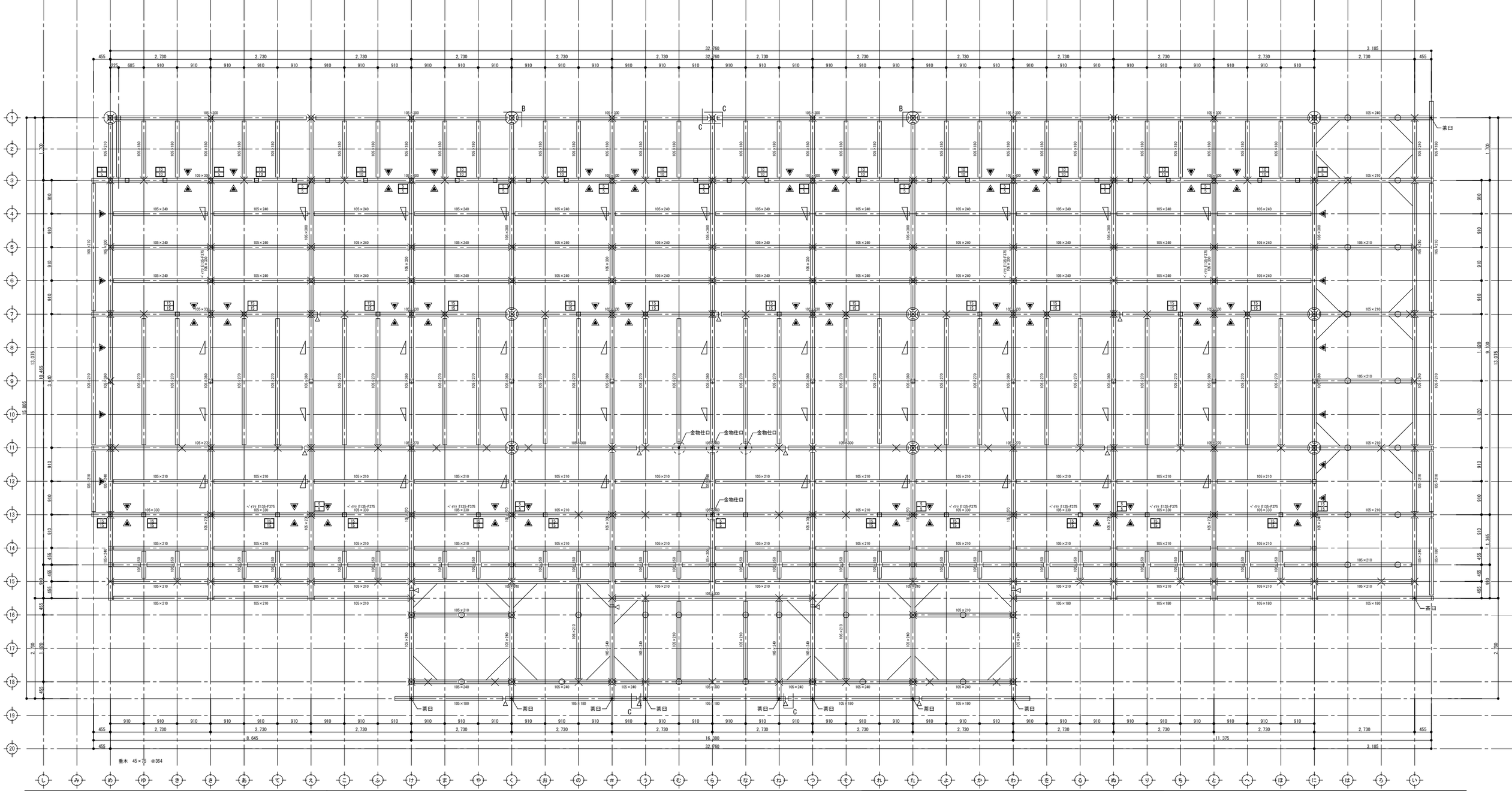
標準部材リスト(1階)

部材名	樹種	寸法	材料 等級
管柱1階	スプルース	105×105	同一等級構成集成材 E95-F315
土台	べいまつ	105×105	無等級材
大引	ひのき	105×105	無等級材

特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

1 階 床伏図

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種別	岐南3区画 厩舎2-32	図面番号	W3-17/ W3-32
縮尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設計室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号 杉山 雅章 印		



凡例

記号	軸組の構造	倍率
上 下	木材 厚さ45×幅90 以上	2.0
	木材 厚さ45×幅90 以上 ﾀﾞﾌﾞﾙ	4.0
	構造用合板、構造用ﾊﾟﾈﾙ、構造用MDF、構造用PB t=9 大壁 （くぎN50 内外周@150以下、受材30×40以上N75@200以下）	2.5
	構造用合板、構造用ﾊﾟﾈﾙ、構造用MDF、構造用PB t=9 真壁 （くぎN50 内外周@150以下、受材30×40以上N75@300以下）	2.5
	構造用合板t=9 大壁告示高倍率 （くぎCN50 外@75以下、中@150以下、受材30×60以上N75@120以下）	3.7
	構造用合板t=9 真壁告示高倍率 （くぎCN50 外@75以下、中@150以下、受材30×40以上N75@200以下）	3.3

※鉛直構面検討時の耐力壁の足し合わせは、7倍を上限とする。
※柱頭柱脚接合部引抜力算定時は足し合わせた倍率とする。

柱・柱頭柱脚金物

□	管柱 105×105（ほぞ 30×88）	20	柱脚柱頭金物 HD20同等以上
◎	1～2階 通柱 120×120（ほぞ 30×88）	25	柱脚柱頭金物 HD25同等以上
5	柱脚柱頭金物 HDC5kN同等以上	30	柱脚柱頭金物 HD30同等以上
10	柱脚柱頭金物 HD10同等以上	40	柱脚柱頭金物 HD40同等以上
15	柱脚柱頭金物 HD15同等以上		

※特記なき柱の柱脚柱頭は、かすがい同等以上で接合する。
※梁受け金物と干渉する柱頭柱脚金物は、ホゾパイプとする。
※下階柱頭と上階柱脚の金物を直接緊結する場合は、上下階で引張耐力の大きい金物に合わせて同じ金物を使用する。

横架材

	梁		下階柱
	合板受材		登梁
	木製火打		鋼製火打
	継手		

横架材接合部凡例

		Ta(kN)
B	大入蟻掛+羽子板ボルト又は腰掛鎌継+短冊金物	10.1
C	大入蟻掛+羽子板ボルト×2又は腰掛鎌継+短冊金物×2	15.9

特記なき横架材接合部はA:羽子板ボルト又は短冊金物(Ta=7.5kN)とする。

水平構面

凡例	種類	水平構面の仕様 受材等	⊿Qa (kN/m)
	床構面	構造用合板t=24～30 N75@150以下四周釘打ち 受材 45×45以上@1000以下	7.84

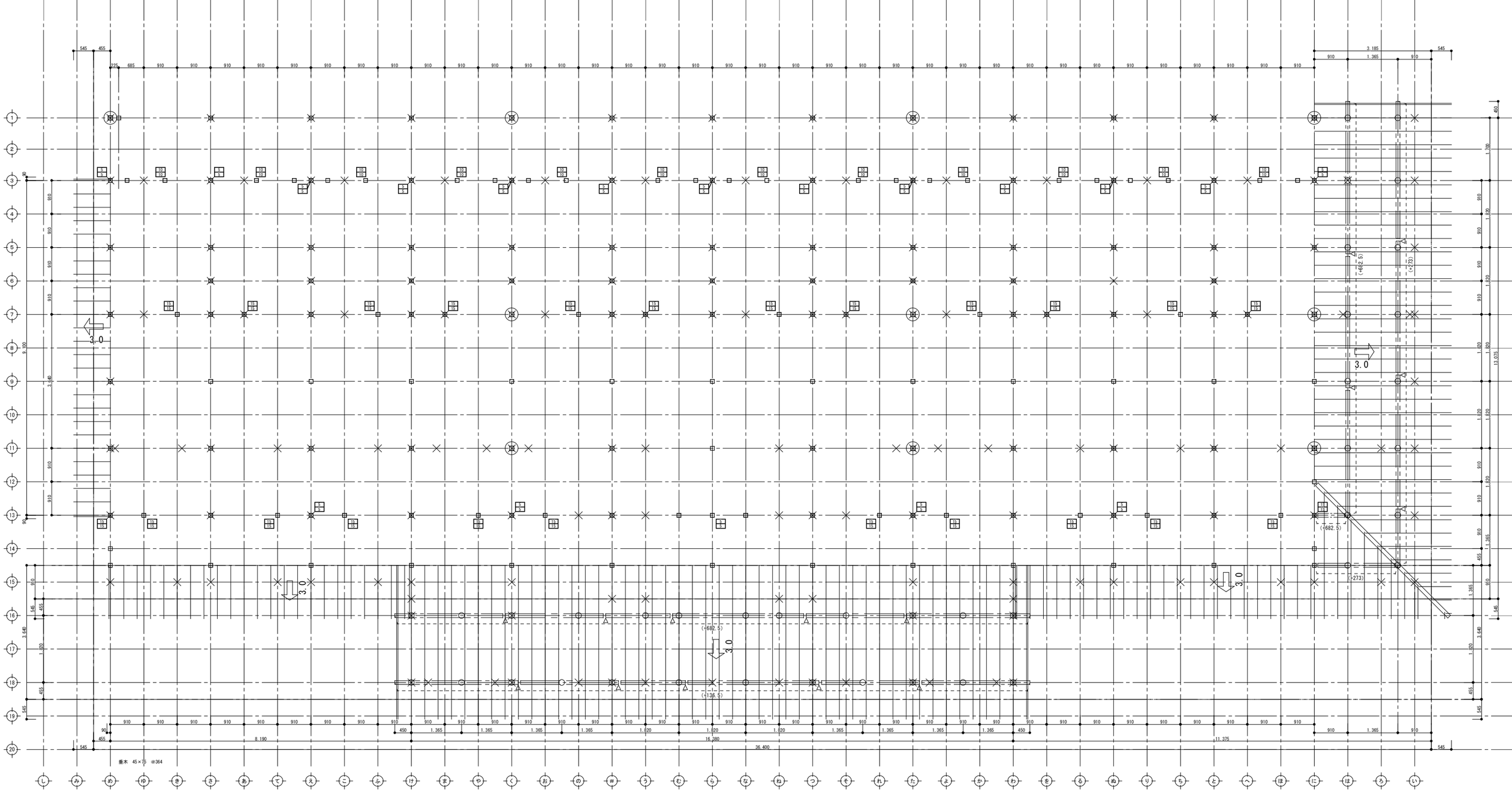
標準部材リスト(2階)

部材名	樹種	寸法	材料 等級
管柱2階	スプルース	105×105	同一等級構成集成材 E95-F315
梁2階	ｵｳｼｭｳｱｶﾏﾂ	105×105	対称異等級構成集成材 E105-F300

特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

2 階 床 伏 図

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種 別	岐南3区画 厩舎2-32	図面番号	W3-18/ W3-32
縮 尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設 計 室 有限会社 大臣登録244782号 杉山 雅章 印		



横架材			
	梁		下階柱
	合板受材		登梁
	木製火打		鋼製火打
	継手		

横架材接合部凡例		Ta(kN)
B	大入蟻掛+羽子板ボルト又は腰掛鎌継+短冊金物	10.1
C	大入蟻掛+羽子板ボルト×2又は腰掛鎌継+短冊金物×2	15.9

特記なき横架材接合部はA:羽子板ボルト又は短冊金物(Ta=7.5kN)とする。

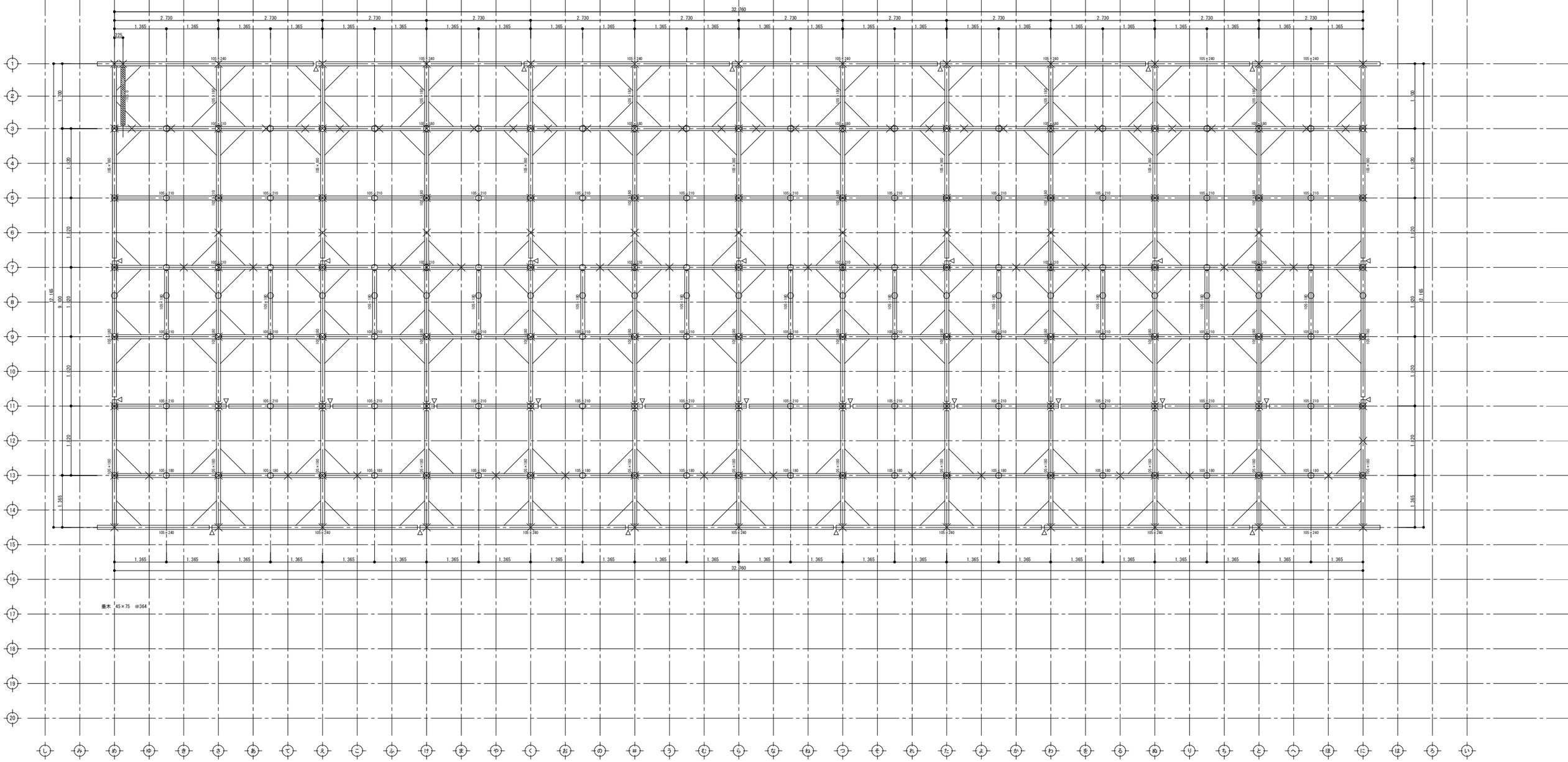
標準部材リスト(小屋階)

部材名	樹種	寸法	材料　等級
小屋梁	ｵｳｼｭｳｱｶﾏﾂ	105×105	対称異等級構成集成材 E105-F300

特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

2 階 屋 根 伏 図

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 厩舎2-32	図面番号	W3-19/W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		



横架材・束

○	小屋束	×	下階柱
▭	棟木	▭	母屋
▭	合板受材	▭	登梁
▽	継手	―	垂木

水平構面

凡例	種類	水平構面の仕様 受材等	⊿Qa (kN/m)
▭	屋根構面	構造用合板t=9～15　N50@150以下（30度以下） 垂木45×45以上@500以下　転ばし	1.37

屋根

野地板： 構造用合板t=12

垂木-軒桁接合部:ひねり金物ST-12(4-ZN40)同等以上　垂木-母屋接合部:2-N75T同等以上

屋根：ガルバリウム鋼板t=0.35　立平ぶき　吊子間隔225mm

屋根ふき材は令39条2項、昭46建告109の構造による

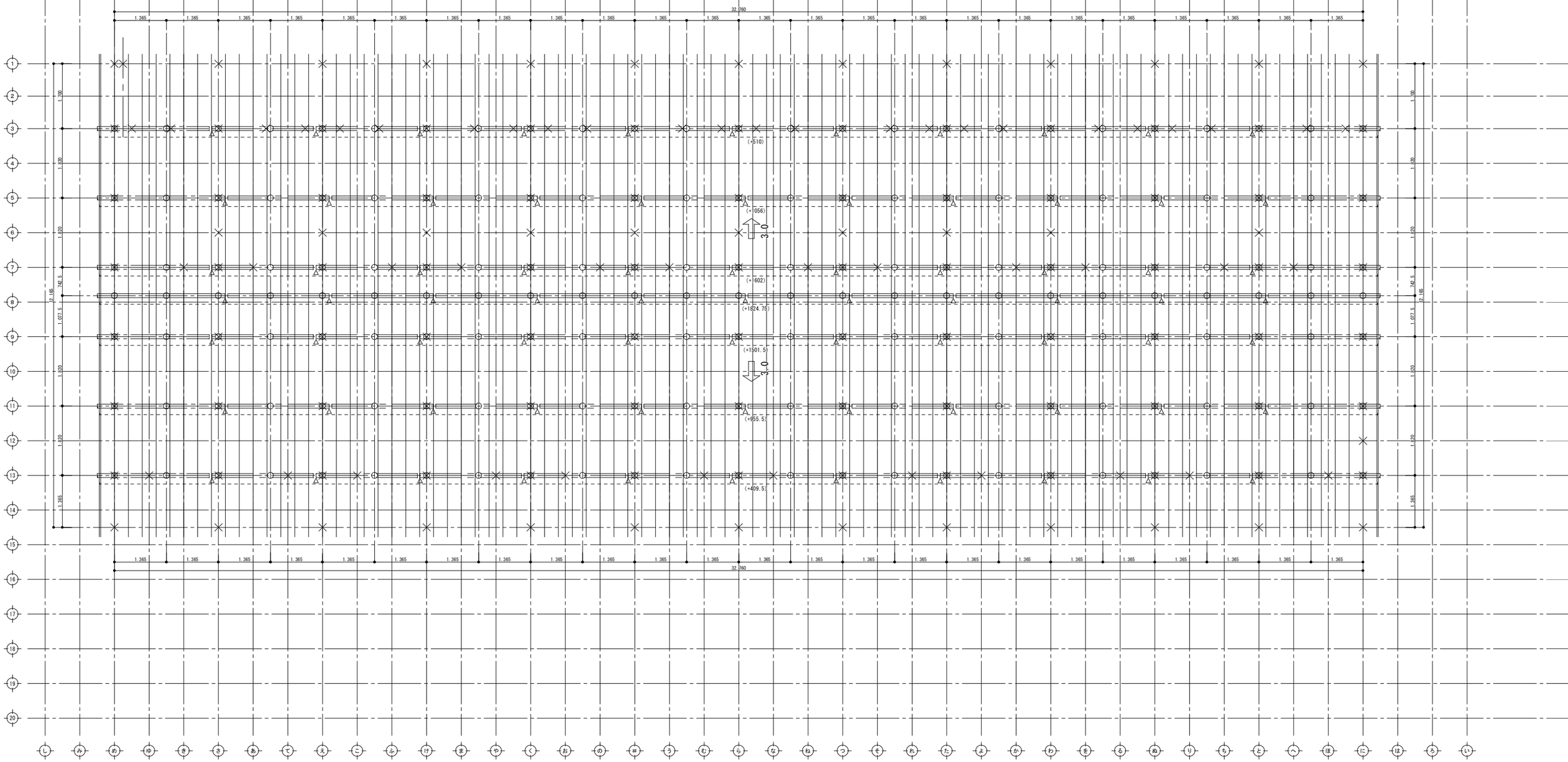
標準部材リスト(屋根)

部材名	樹種	寸法	材料　等級
母屋	すぎ	105×105	無等級材
棟木	すぎ	105×105	無等級材
隅木・谷木	すぎ	105×105	無等級材
登梁	ｵｳｼｭｳｱｶﾏﾂ	105×105	対称異等級構成集成材 E105-F300
小屋束	スプルース	105×105	同一等級構成集成材 E95-F315
垂木	べいまつ	45×75@364	無等級材

特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

小屋伏図

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種　別	岐南3区画 厩舎2-32	図面番号	W3-20/W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		



横架材			
	梁		下階柱
	合板受材		登梁
	木製火打		鋼製火打
	継手		

横架材接合部凡例		Ta(kN)
B	大入蟻掛+羽子板ボルト又は腰掛鎌継+短冊金物	10.1
C	大入蟻掛+羽子板ボルト×2又は腰掛鎌継+短冊金物×2	15.9

特記なき横架材接合部はA:羽子板ボルト又は短冊金物(Ta=7.5kN)とする。

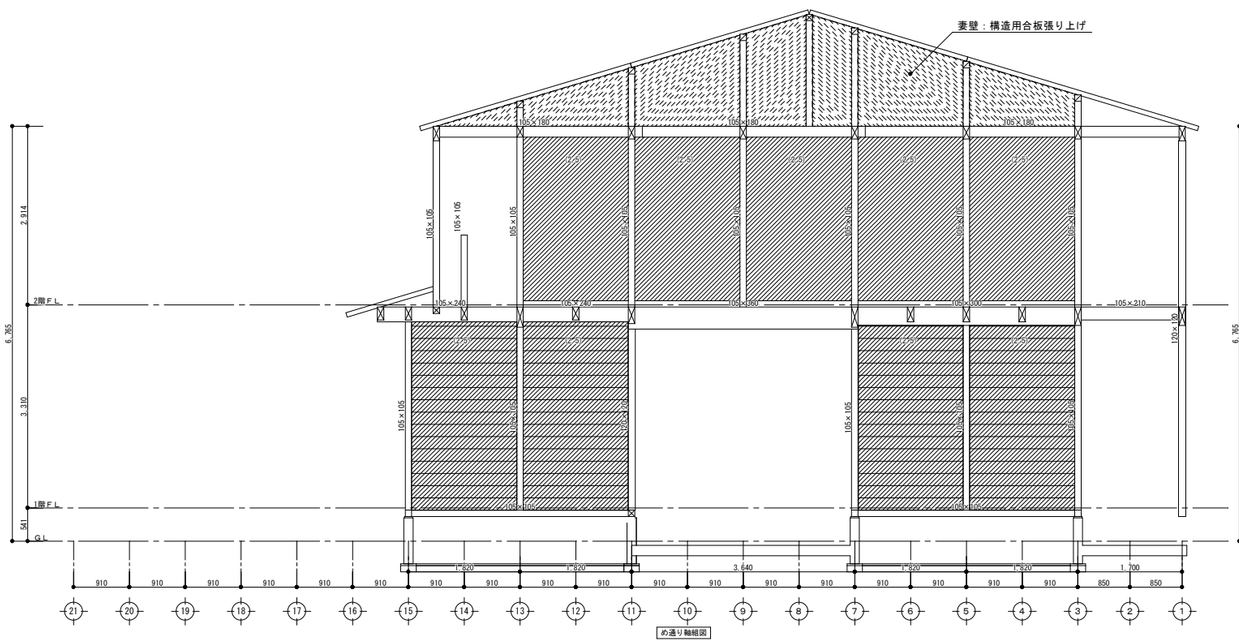
標準部材リスト(小屋階)

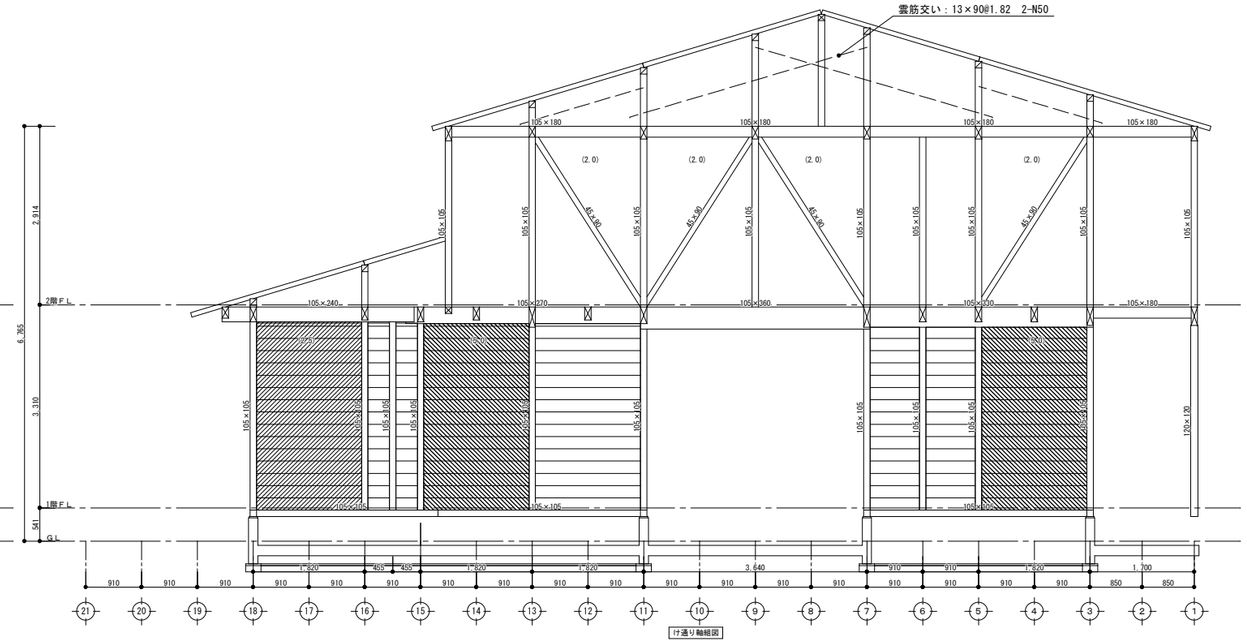
部材名	樹種	寸法	材料　等級
小屋梁	ｵｳｼｭｳｱｶﾏﾂ	105×105	対称異等級構成集成材 E105-F300

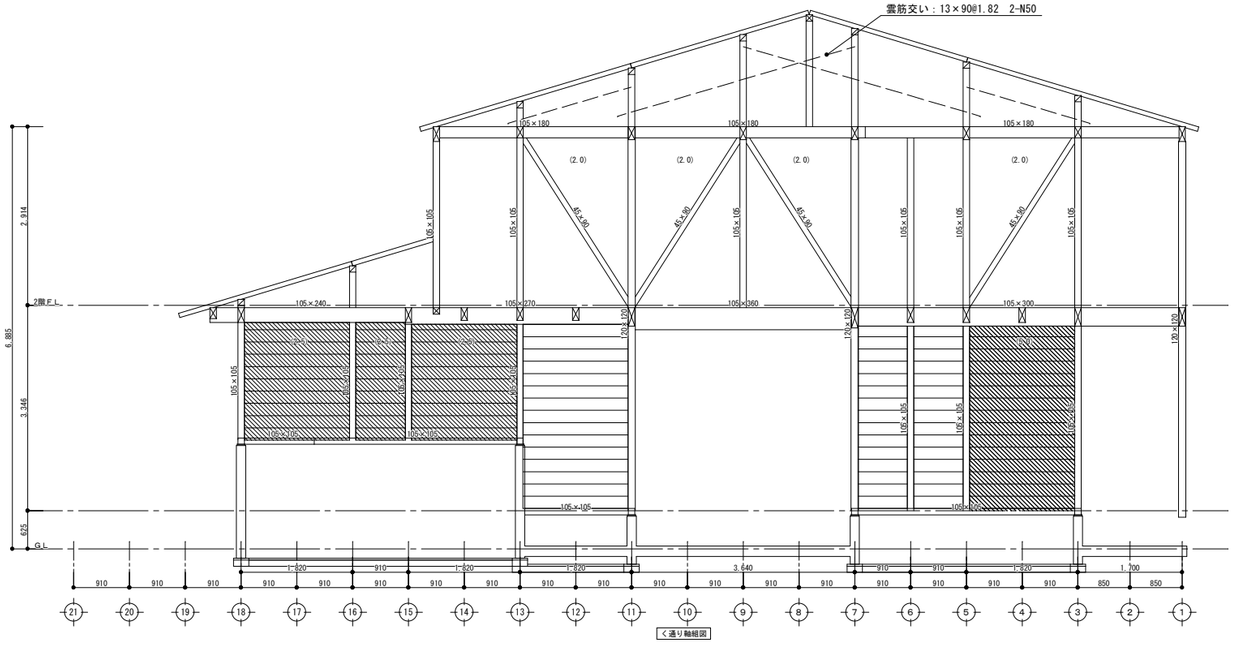
特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

2 階 屋 根 伏 図

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 厩舎2-32	図面番号	W3-21/ W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		



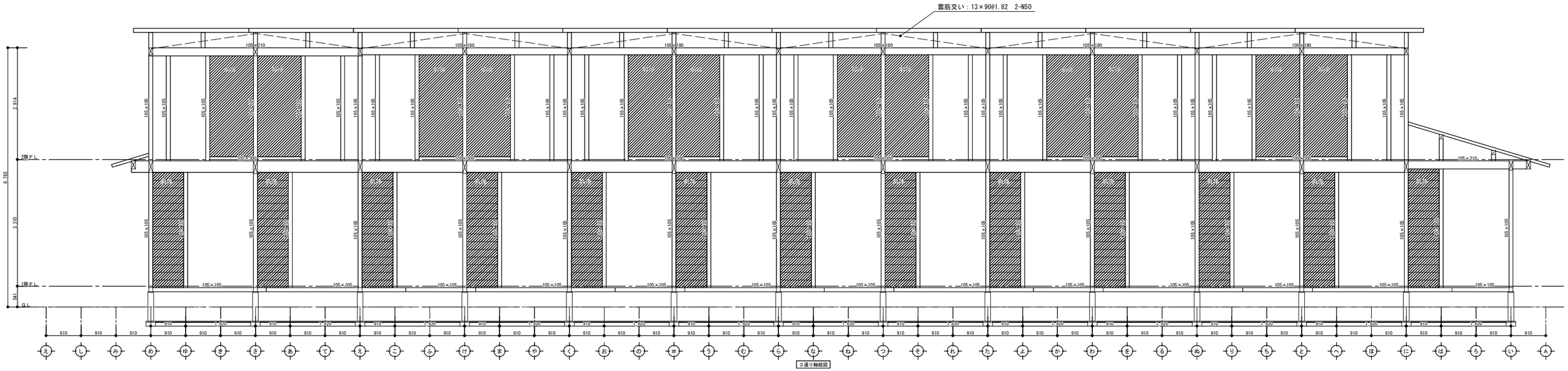


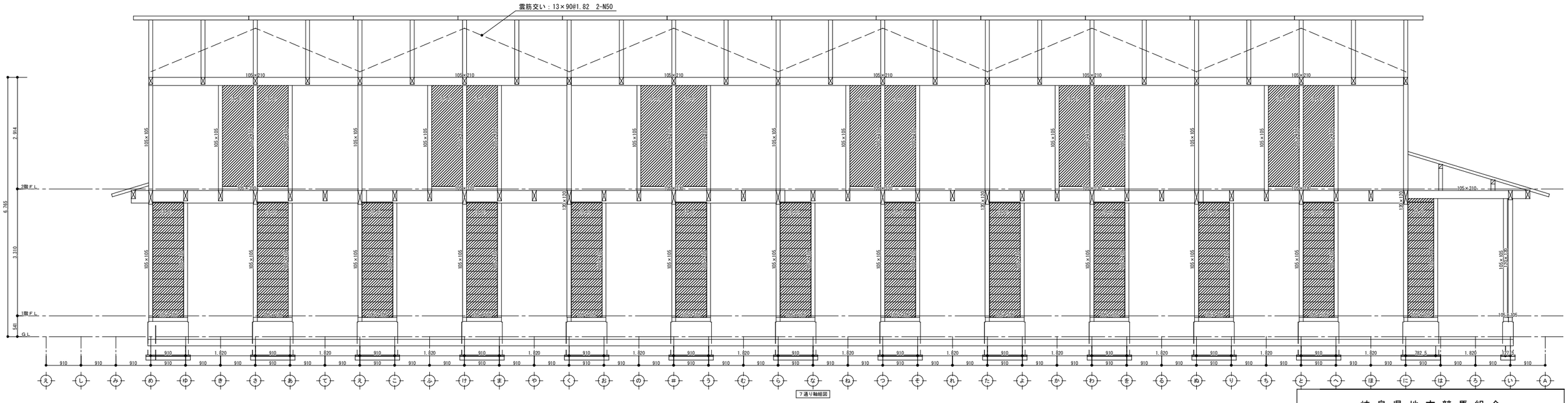


※特記なき柱は、105×105

軸 組 図

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 厩舎2-32	図面番号	W3-22/ W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設 計 室 有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

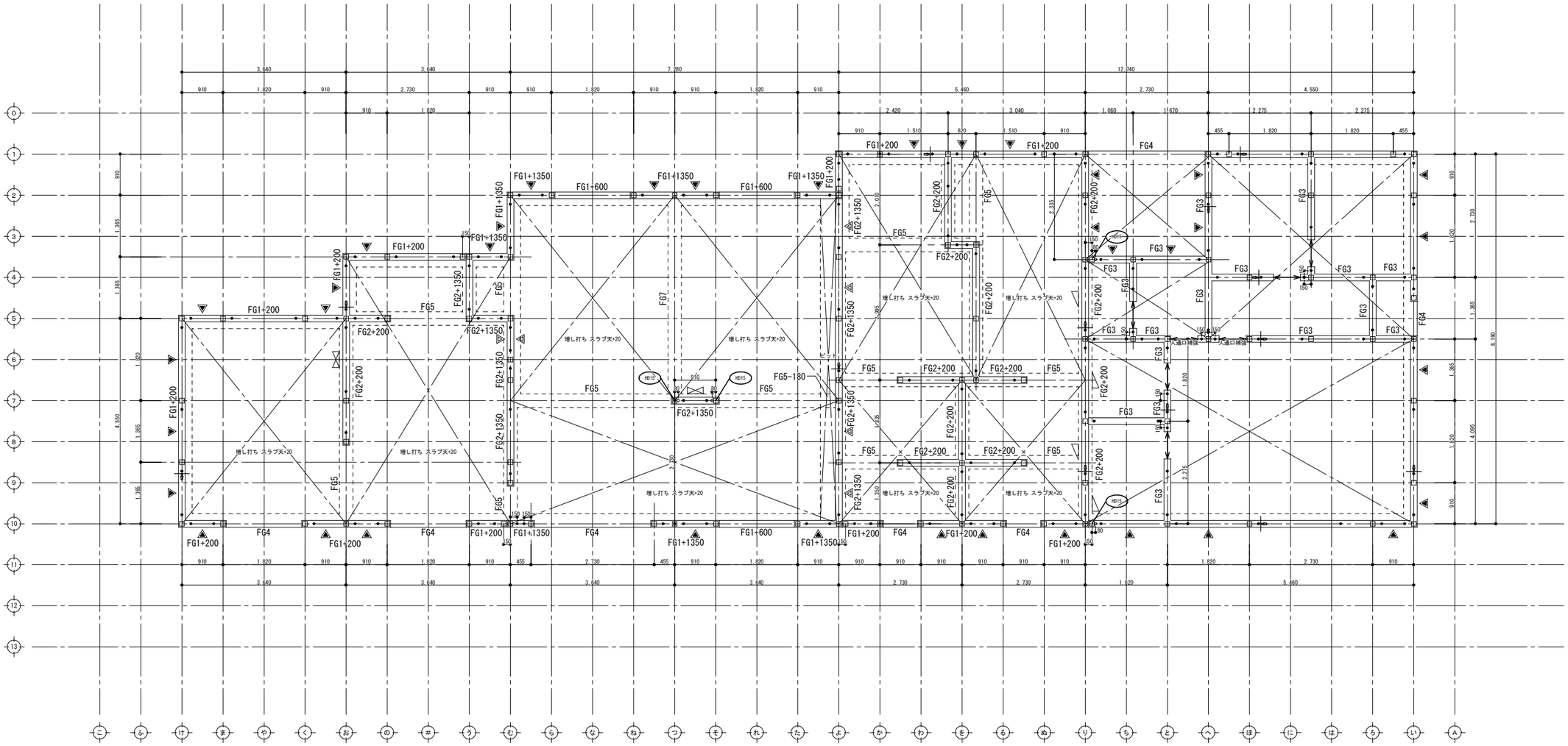




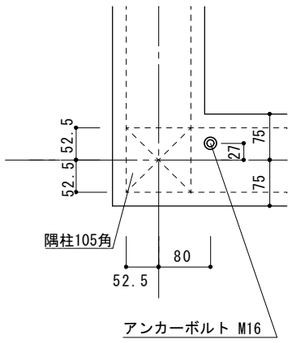
※特記なき柱は、105×105

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種別	岐南3区画 厩舎2-32	図面番号	W3-23/ W3-32
縮尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設計室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

軸組図 2



ﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ取付平面詳細図 S=1:10



凡例図

	ｺﾝｸﾘｰﾄ打増
75 600 235	床下人通口 (W:600・H:350)
	土台継手位置
●	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄM12　出115
○	ﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ金物用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄM16　出550 特記なき取付寸法はﾎｰﾙﾀﾞｳﾝ用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ取付平面詳細図による
HD**	柱脚金物

※特記なきスラブはFS1とし、
　スラブ天端は設計GL+50とする。
※特記なき外周基礎はFG1とする。
※特記なき内周基礎はFG2とする。
※設計基準強度Fc=21
　強度補正は基礎標準仕様書による。

ｽﾗﾌﾞ配筋	厚(mm)	短辺方向		長辺方向	
		端部	中央	端部	中央
FS1	150	D13@200ｼﾝｸﾞﾙ		D13@200ｼﾝｸﾞﾙ	
FS2	150	~~D13@150ｼﾝｸﾞﾙ~~		D13@150ｼﾝｸﾞﾙ	
FS3	150	~~D13@100ｼﾝｸﾞﾙ~~		D13@100ｼﾝｸﾞﾙ	

特記

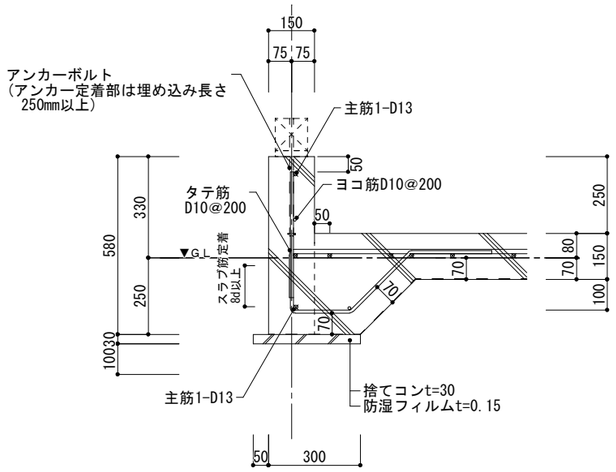
設計地耐力 20 kN/㎡

基礎の寸法 及び 配筋の検証方法	別添：ARCHITRENDZERO木造構造計算 『構造計算書』による。 具体的な寸法・配筋は基礎詳細図参照

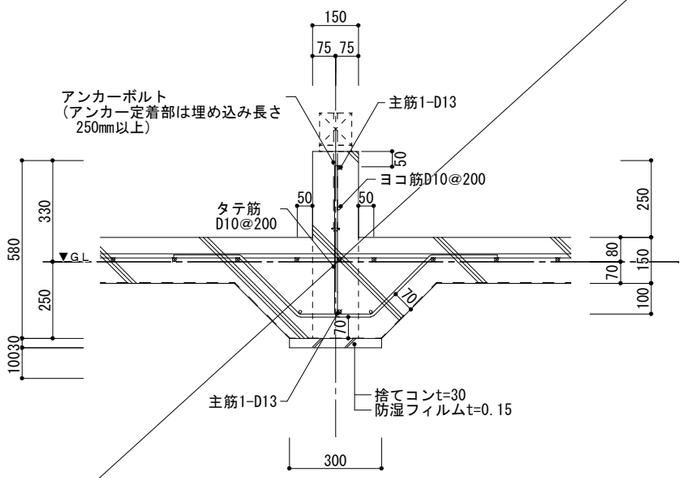
基礎伏図

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種別	岐南3区画 診療所兼警備員詰所	図面番号	W3-24/W3-32
縮尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設計室 有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

FG1　断面詳細図

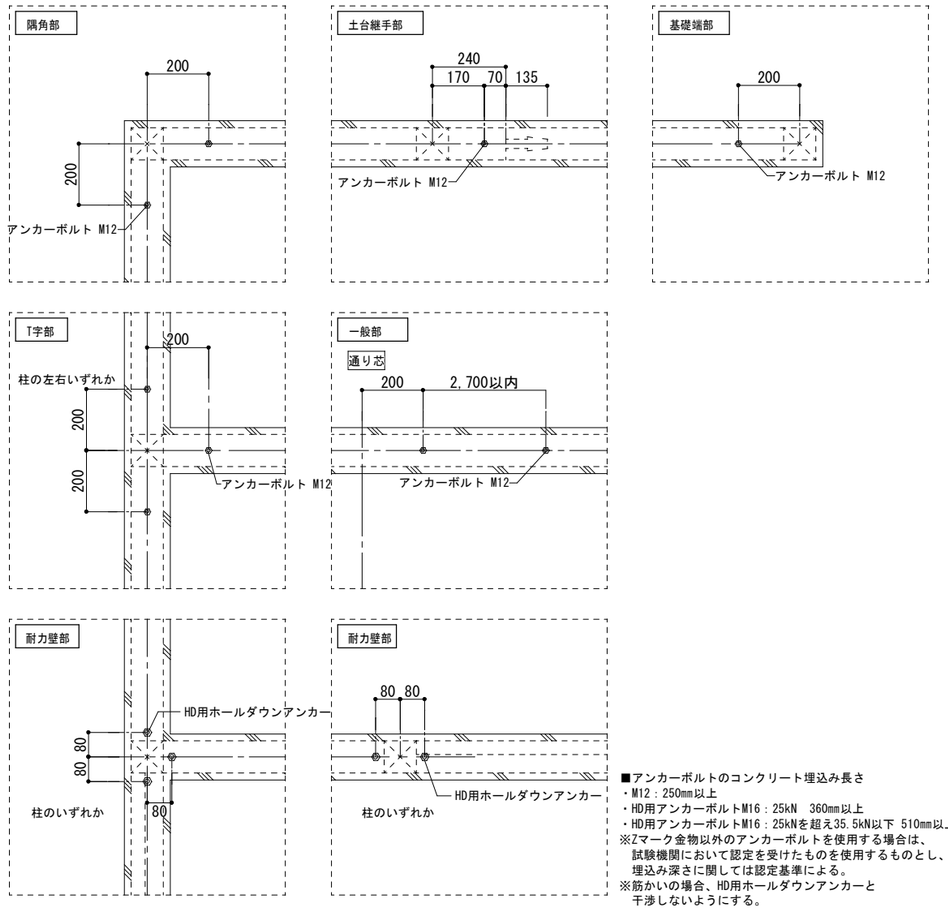


FG2　断面詳細図



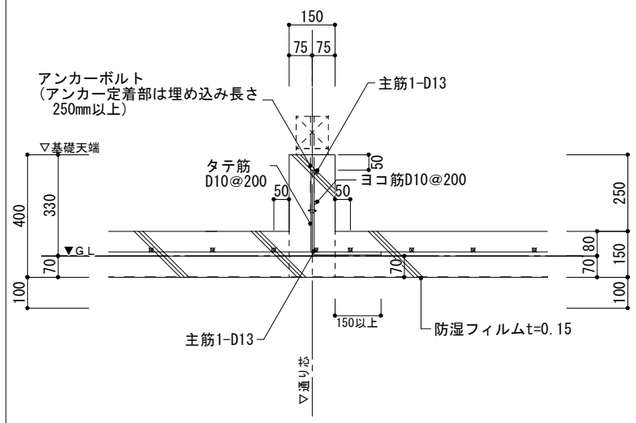
アンカーボルト設置位置

在来工法

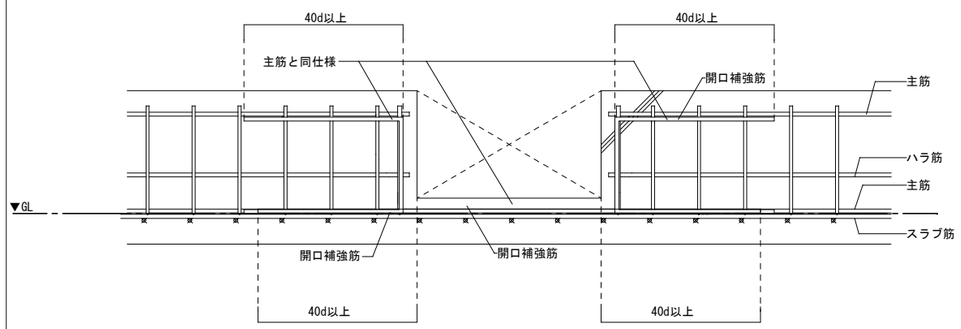


■アンカーボルトのコンクリート埋込み長さ
・M12：250mm以上
・HD用アンカーボルトM16：25kN　360mm以上
・HD用アンカーボルトM16：25kNを超え35.5kN以下 510mm以上
※Zマーク金物以外のアンカーボルトを使用する場合は、
　試験機関において認定を受けたものを使用するものとし、
　埋込み深さに関しては認定基準による。
※筋かいの場合、HD用ホールダウンアンカーと
　干渉しないようにする。

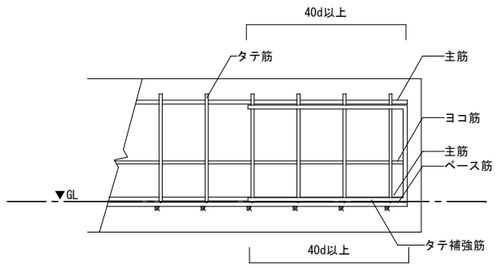
FG3　断面詳細図



開口補強



端部補強

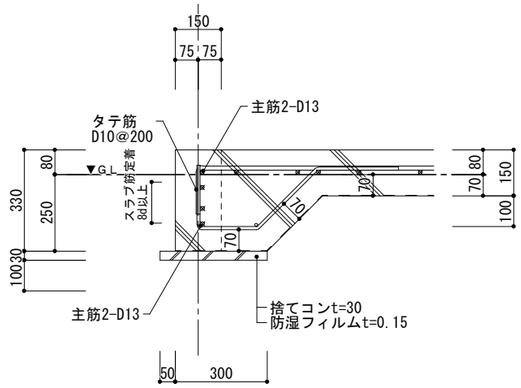


■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき　定着
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

基 礎 標 準 図 1

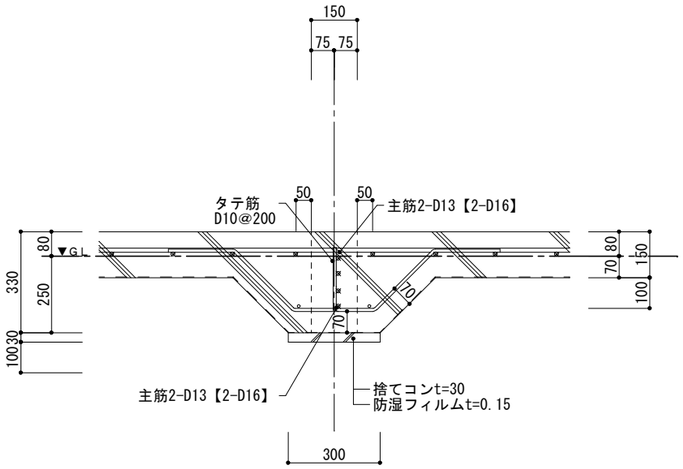
岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画 ）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 診療所兼警備員詰所	図面番号	W3-25/W3-32
縮　尺	1/20	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai　設　計　室　有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

FG4　断面詳細図

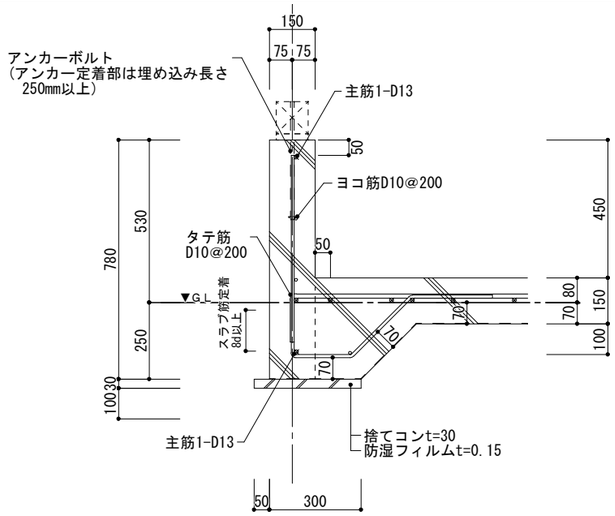


FG5　断面詳細図

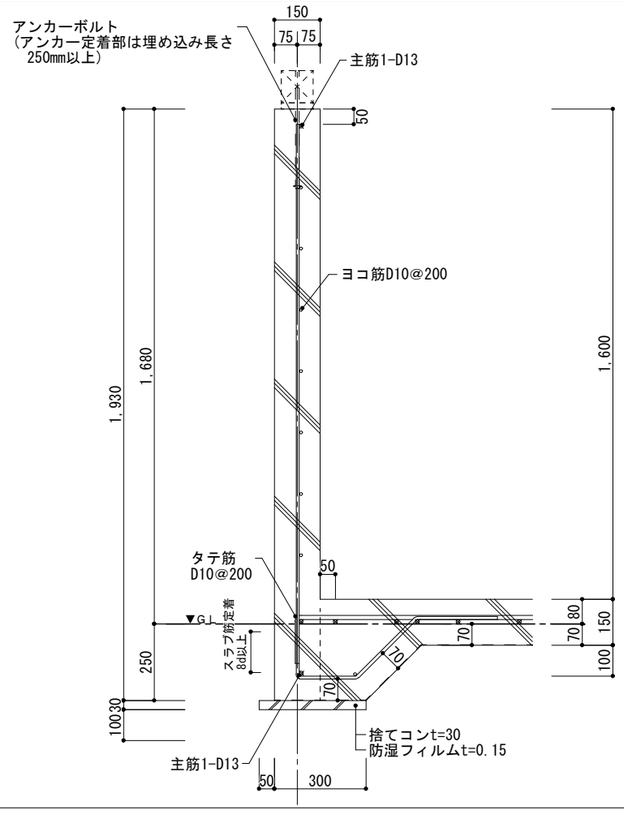
※【　】はFG7



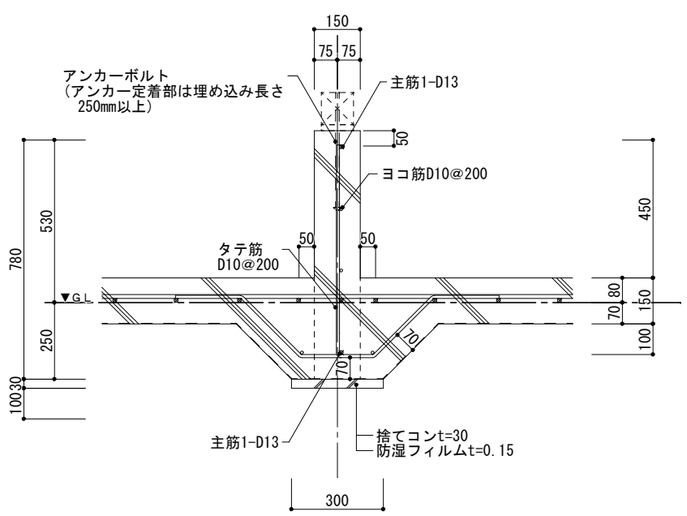
FG1+200　断面詳細図



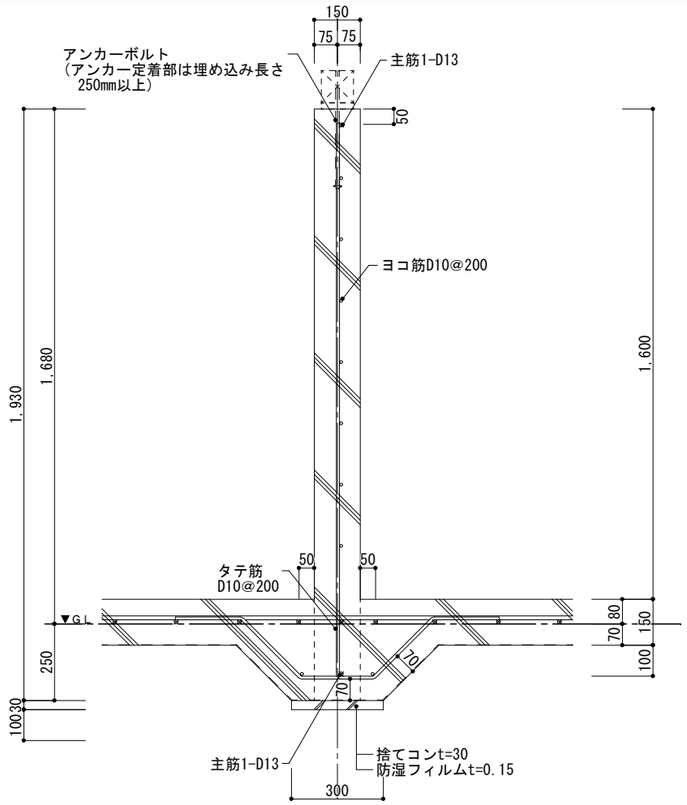
FG1+1350　断面詳細図



FG2+200　断面詳細図



FG2+1350　断面詳細図

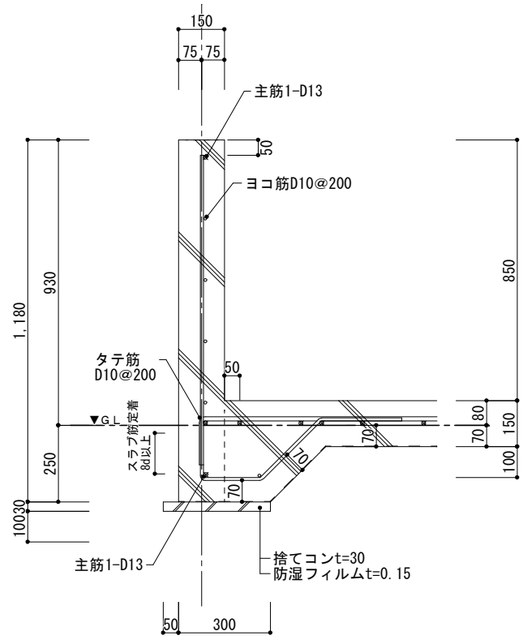


■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき　定着
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

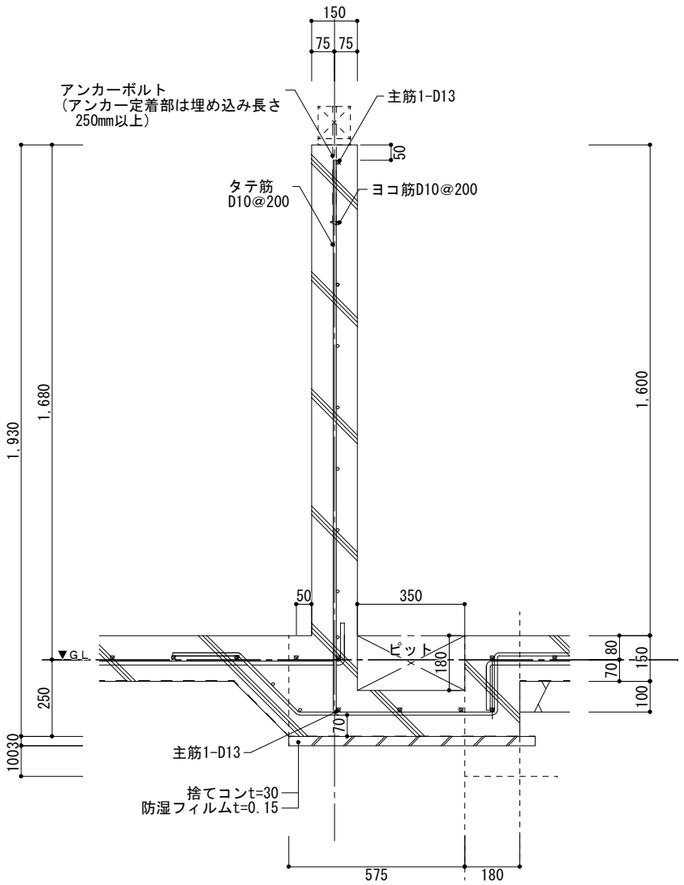
基礎標準図 2

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種　別	岐南3区画 診療所兼警備員詰所	図面番号	W3-26/W3-32
縮　尺	1/20	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設 計 室 有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		

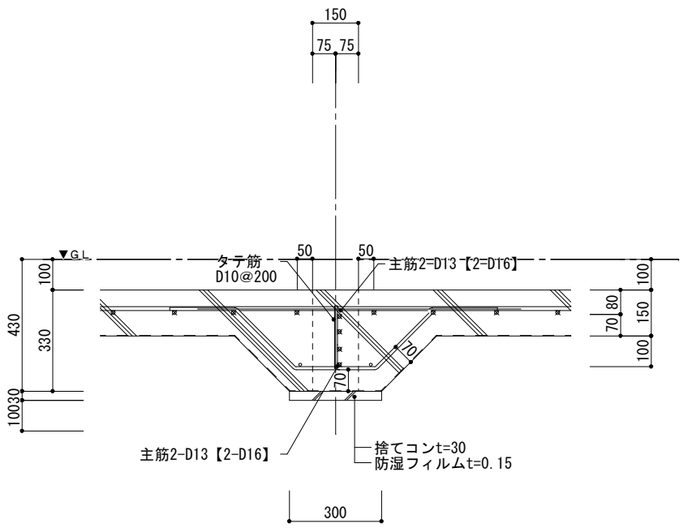
FG1+600　断面詳細図



FG2+1350（ピット部分）　断面詳細図



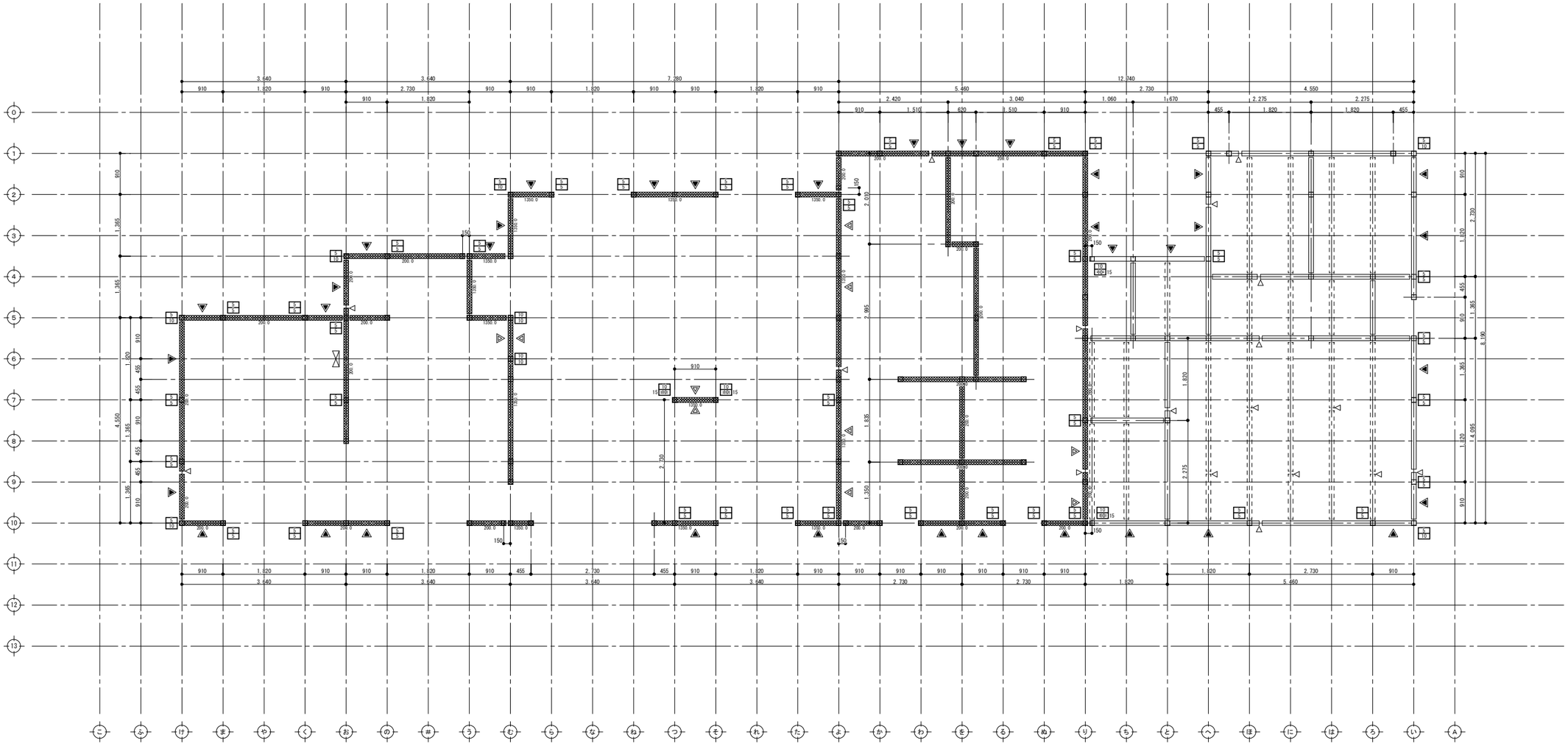
FG5-180（ピット部分）　断面詳細図



■下記事項は基礎標準仕様書による
・重ね継手の長さ
・鉄筋の間隔　あき　定着
・スラブ筋の鉄筋径及び配筋ピッチは基礎伏図による

基礎標準図 3

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種　別	岐南3区画 診療所兼警備員詰所	図面番号	W3-27/ W3-32
縮　尺	1/20	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai　設　計　室　有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		



凡例

記号	軸組の構造	倍率
上 ◺ 下	木材 厚さ45×幅90 以上	2.0
⋈	木材 厚さ45×幅90 以上 ﾀﾞﾌﾞﾙ	4.0
▼	構造用合板、構造用ﾊﾟﾈﾙ、構造用MDF、構造用PB t=9 大壁 （くぎN50 内外周@150以下、受材30×40以上N75@200以下）	2.5
▽	構造用合板、構造用ﾊﾟﾈﾙ、構造用MDF、構造用PB t=9 真壁 （くぎN50 内外周@150以下、受材30×40以上N75@300以下）	2.5
▼	構造用合板t=9 大壁告示高倍率 （くぎCN50 外@75以下、中@150以下、受材30×60以上N75@120以下）	3.7
▽	構造用合板t=9 真壁告示高倍率 （くぎCN50 外@75以下、中@150以下、受材30×40以上N75@200以下）	3.3

※鉛直構面検討時の耐力壁の足し合わせは、7倍を上限とする。
※柱頭柱脚接合部引抜力算定時は足し合わせた倍率とする。

柱・柱頭柱脚金物

□	管柱 105×105（ほぞ 30×88）
⊡	1～2階 通柱 120×120（ほぞ 30×88）
5	柱脚柱頭金物 HDC5kN同等以上
10	柱脚柱頭金物 HD10同等以上
15	柱脚柱頭金物 HD15同等以上
20	柱脚柱頭金物 HD20同等以上
25	柱脚柱頭金物 HD25同等以上
30	柱脚柱頭金物 HD30同等以上
40	柱脚柱頭金物 HD40同等以上

※特記なき柱の柱脚柱頭は、かすがい同等以上で接合する。
※梁受け金物と干渉する柱頭柱脚金物は、ホゾパイプとする。
※下階柱頭と上階柱脚の金物を直接緊結する場合は、上下階で引張耐力の大きい金物に合わせて同じ金物を使用する。

横架材

▭	土台（K3防腐防蟻処理）	⌈⌉⌈⌉	大引
⋈ ﾀｽｷ ﾒｽｷ	継手		

備考

GLより1mの範囲は塗布にて防腐防蟻処理を行う。

特記なき土台は、天端を±0（FL-**）とする。

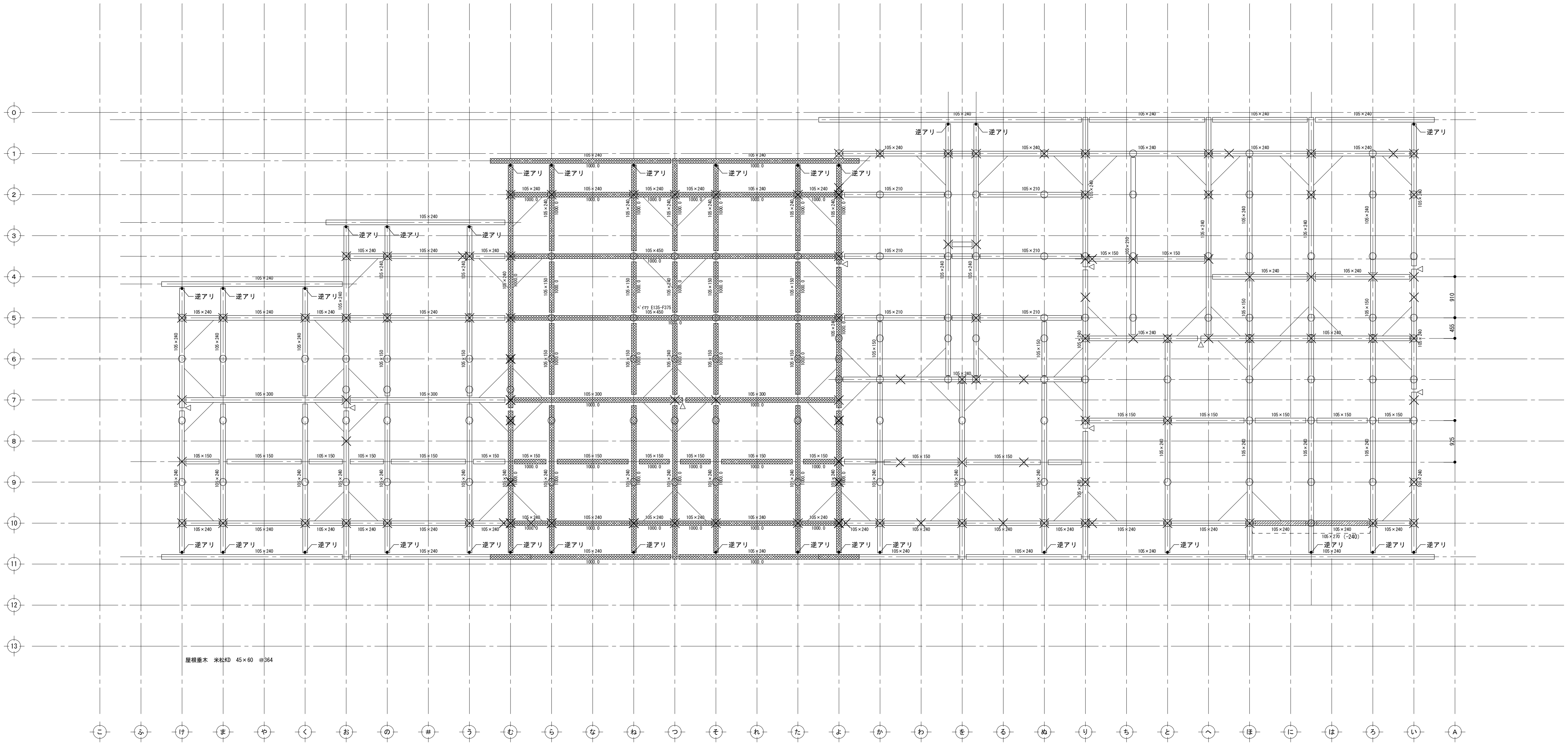
標準部材リスト(1階)

部材名	樹種	寸法	材料 等級
管柱1階	スプルース	105×105	同一等級構成集成材 E95-F315
土台	ベイマツ	105×105	無等級材
大引	ベイマツ	105×105	無等級材

特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

1 階 床伏図

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種別	岐南3区画 診療所兼警備員詰所	図面番号	W3-28/W3-32
縮尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設計室 有限会社 大臣登録244782号 杉山 雅章 印		



横架材			
	梁		下階柱
	合板受材		登梁
	木製火打		鋼製火打
メス オス	継手		

横架材接合部凡例		Ta(kN)
B	大入蟻掛+羽子板ボルト又は腰掛鎌継+短冊金物	10.1
C	大入蟻掛+羽子板ボルト×2又は腰掛鎌継+短冊金物×2	15.9

特記なき横架材接合部はA:羽子板ボルト又は短冊金物(Ta=7.5kN)とする。

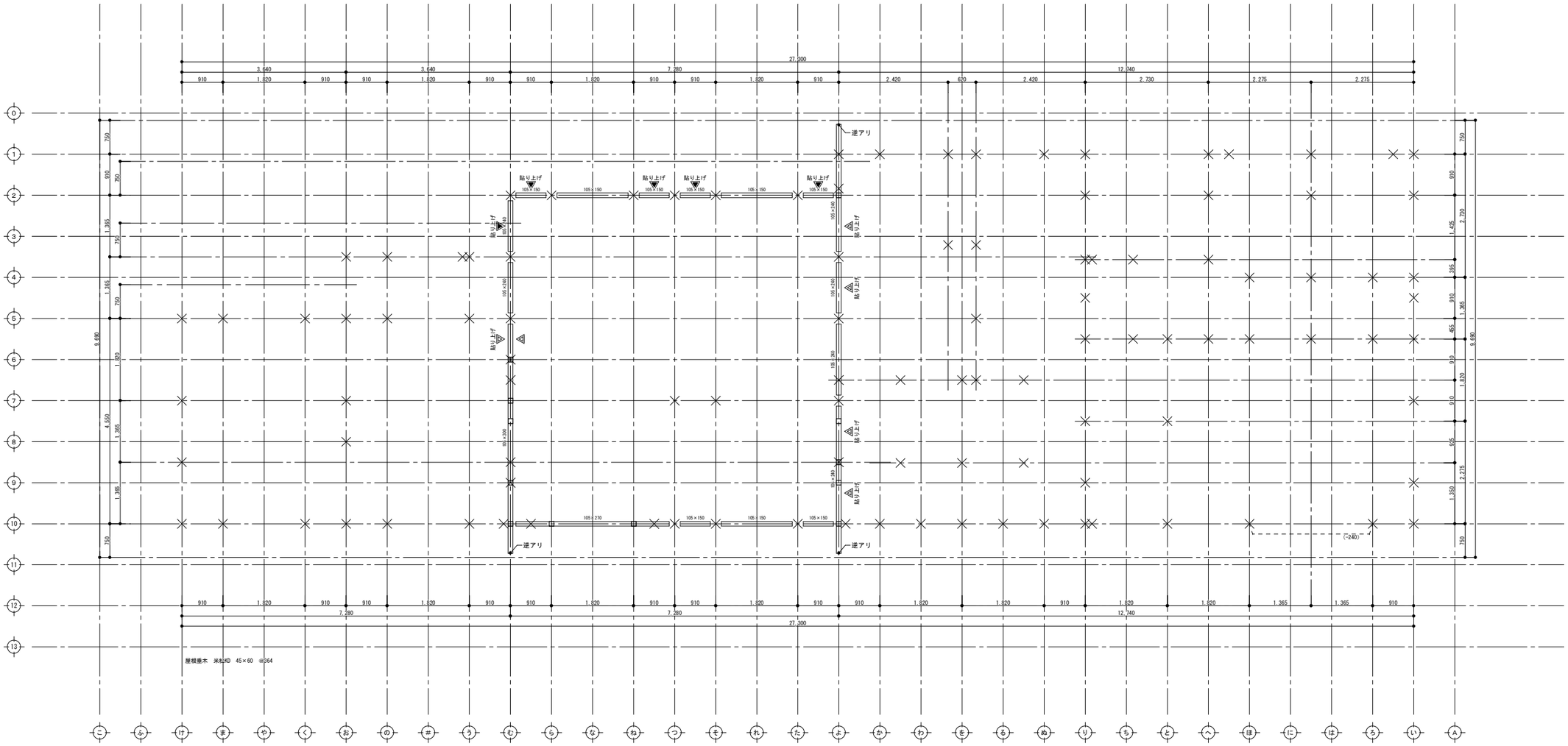
標準部材リスト(小屋階)

部材名	樹種	寸法	材料　等級
小屋梁	ｵｳｼｭｳｱｶﾏﾂ	105×105	対称異等級構成集成材 E105-F300

特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

小屋伏図

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎(岐南第3区画)新築工事		
種別	岐南3区画 診療所兼警備員詰所	図面番号	W3-29/W3-32
縮尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設計室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		



横架材

	梁		下階柱
	合板受材		登梁
	木製火打		鋼製火打
	継手		

横架材接合部凡例

		Ta(kN)
B	大入蟻掛+羽子板ボルト又は腰掛鎌継+短冊金物	10.1
C	大入蟻掛+羽子板ボルト×2又は腰掛鎌継+短冊金物×2	15.9

特記なき横架材接合部はA:羽子板ボルト又は短冊金物(Ta=7.5kN)とする。

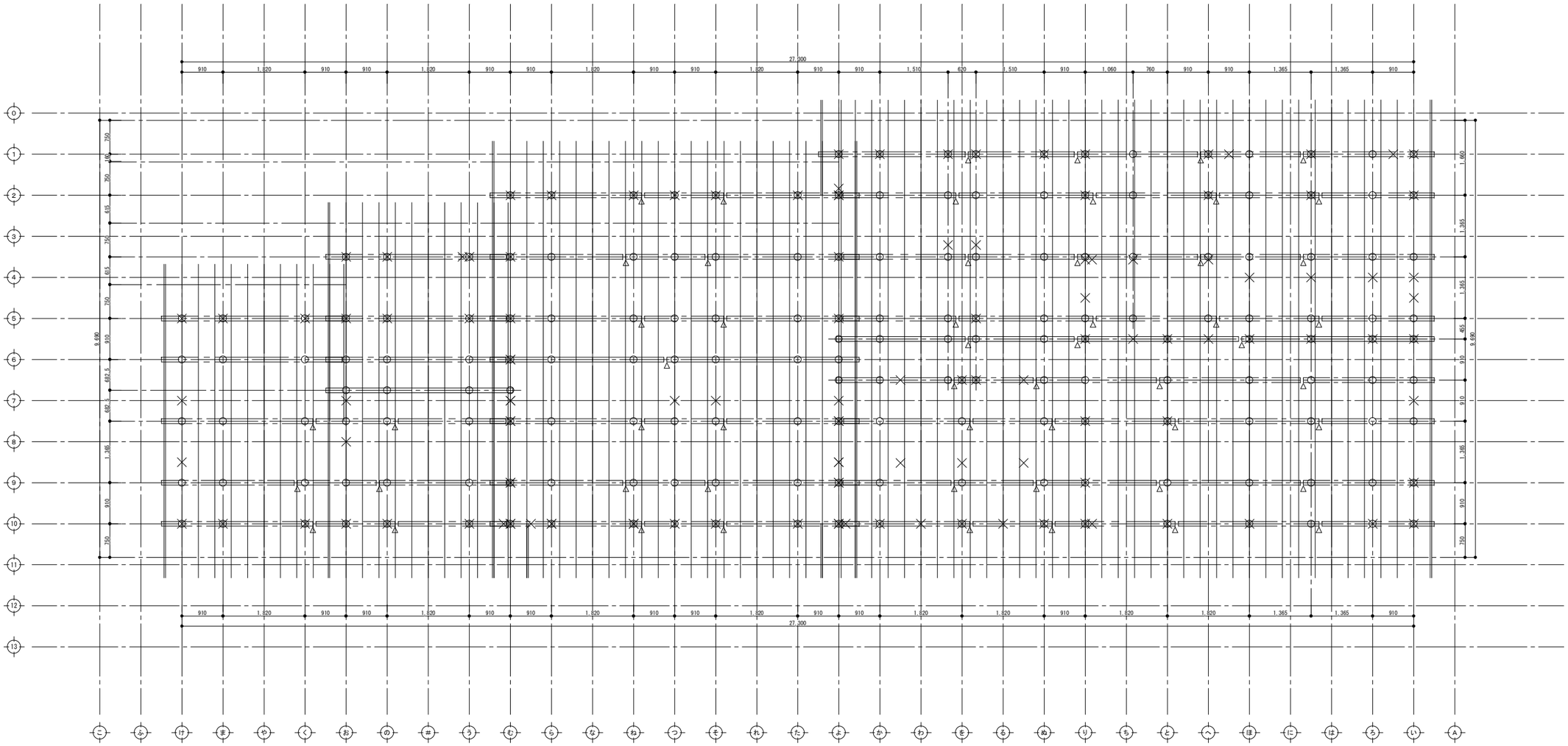
標準部材リスト(小屋階)

部材名	樹種	寸法	材料　等級
小屋梁	ｵｳｼｭｳｱｶﾏﾂ	105×105	対称異等級構成集成材 E105-F300

特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

小 屋 伏 図 （ ２ ）

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画）新 築 工 事		
種　別	岐南3区画 診療所兼警備員詰所	図面番号	W3-30/W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号　杉山　雅章　印		



屋根

野地板： 構造用合板t=12

垂木-軒桁接合部:ひねり金物ST-12(4-ZN40)同等以上　垂木-母屋接合部:2-N75T同等以上

屋根：ガルバリウム鋼板t=0.35　立平ぶき　吊子間隔225mm

屋根ふき材は令39条2項、昭46建告109の構造による

横架材・束

○	小屋束	×	下階柱
▭	棟木	▭	母屋
▭	合板受材	⏢	登梁
✕	継手	―	垂木

水平構面

凡例	種類	水平構面の仕様 受材等	⊿Qa (kN/m)
▭	屋根構面	構造用合板t=9～15　N50@150以下（30度以下） 垂木45×45以上@500以下　転ばし	1.37

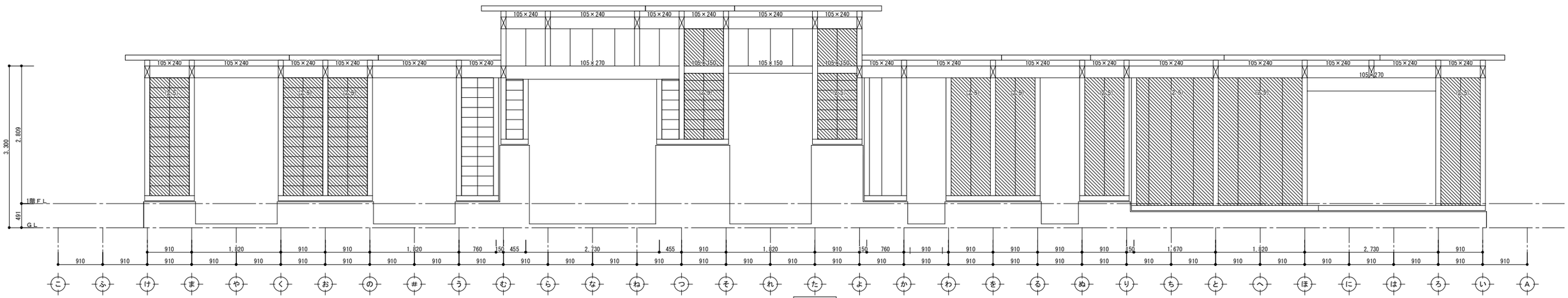
標準部材リスト(屋根)

部材名	樹種	寸法	材料　等級
母屋	すぎ	105×105	無等級材
棟木	すぎ	105×105	無等級材
隅木・谷木	すぎ	105×105	無等級材
登梁	すぎ	105×105	無等級材
小屋束	すぎ	105×105	無等級材
垂木	ベイマツ	45×60@455	無等級材

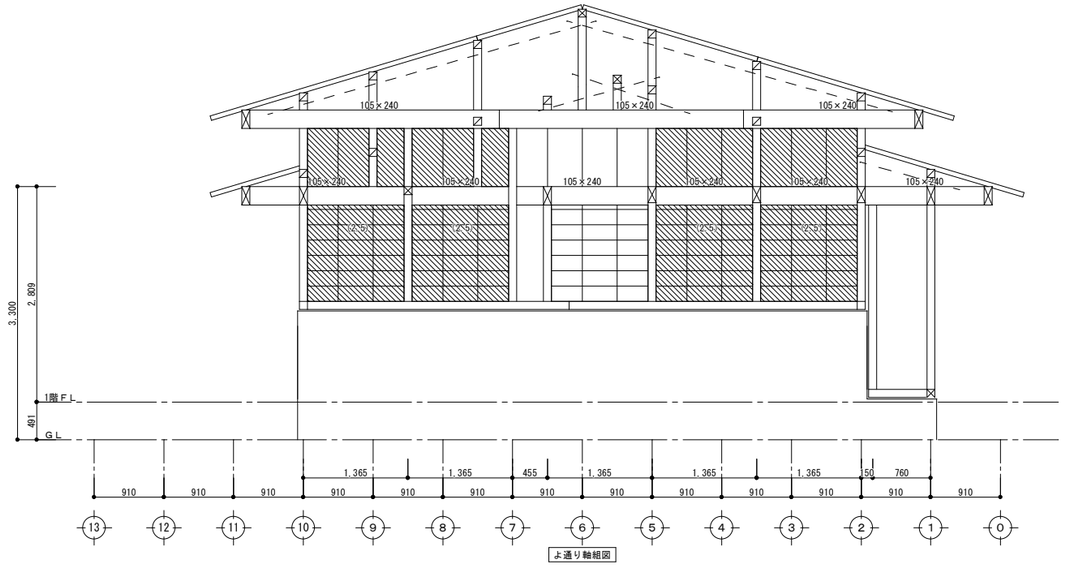
特記なき部材の樹種・寸法は標準部材リストによる。
樹種を変更する場合は同等級・同強度以上とする

屋根伏図

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎（岐南第3区画）新築工事		
種　別	岐南3区画 診療所兼警備員詰所	図面番号	W3-31/ W3-32
縮　尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設 計 室 有限会社 大臣登録244782号　杉山　雅章　印		



10通り軸組図



よ通り軸組図

【1階】
柱サイズ10.5 cm ×10.5 cm
柱長さL = 284.5 cm
断面二次モーメントI =1012.92 cm4
断面積A = 110.25cm2
断面二次半径i = √(I/A) =3.03 cm
細長比λ = L/i = 93.9 ≦150 OK

※特記なき柱は、105×105

軸 組 図

岐 阜 県 地 方 競 馬 組 合			
工事名	厩 舎（岐 南 第 3 区 画 ）新 築 工 事		
種 別	岐南3区画 診療所兼警備員詰所	図面番号	W3-32/ W3-32
縮 尺	1/100	作成年月	令和7年12月
設計者 一級建築士氏名印	Ai 設 計 室 有限会社 大臣登録244782号 杉山 雅章 印		